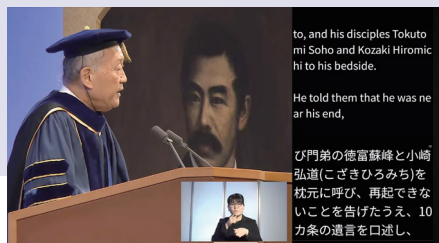


同志社創立150周年記念式・献茶式、祝賀会

2025年11月29日(土)14時、国立京都国際会館において同志社創立150周年記念式・献茶式を執り行い、来賓や同志社教職員(退職者を含む)、卒業生など約1,600名の参加がありました。遠方にお住まいの方などのために、式典の様子をライブ中継で配信し、延べ1,200名の方にご視聴いただきました。式典では大学学生支援センターの協力により、学生による手話通訳、パソコン通訳を行いました。

当日の様子は同志社創立150周年記念HPでご覧いただけます。

また、17時30分からザ・プリンス京都宝ヶ池において祝賀会を執り行い、約1,000名の方にお越しいただきました。



八田 英二総長・理事長の式辞



会場の全景



千 宗室氏(裏千家第16代家元)による献茶



同志社学生混声合唱団C.C.D.、
同志社内中高聖歌隊による合唱



祝賀会の乾杯



香里中学校・高等学校ダンス部

同志社大学クリスマス・イルミネーション点灯式

2025年11月20日(木)今出川キャンパス、12月1日(月)京田辺キャンパスにてクリスマス・イルミネーション点灯式が行われました。今年で26回目を迎えるこの行事は、同志社の冬の風物詩として親しまれています。

当日は多くの学生、教職員、地域の方々にお越しいただき、皆で祈りを捧げ、ツリーに灯りがともる瞬間には大きな拍手と喜びが広がりました。クリスマス・イルミネーション点灯の様子は大学公式Instagramにて動画でもお届けしております。



・今出川キャンパス



・京田辺キャンパス



創立150周年記念・篠原ともえさんによるトークセッション 「私らしく輝く、キャリアウェルビーイング」を開催

2025年10月26日(日)、女子大学同窓会《Vineの会》との共催で、京田辺キャンパスにて「アニバーサリー・ホームカミングデー2025」を開催しました。

今回のアニバーサリーイベントでは、2026年に迎える本学創立150周年記念イベントとして、デザイナー・アーティストとして活躍されている篠原ともえさんをお迎えしたトークセッションを開催。「私らしく輝く、キャリアウェルビーイング」と題して、デザイナーの道に転身されたきっかけや、製作活動を送る中で大切にされていること、これからの目標などについてお話いただきました。

本学のスクールカラーでもある紫色のスカートに、着物を意識したオリジナルデザインの白いブラウスを衣装として身にまとい、登場された篠原さん。トークセッションの司会進行を務めた森夏子さん(ラジオパーソナリティ・学芸学部英文学科卒)とは息のあったトークを展開され、会場にお越しいただいた卒業生、在学生やご父母、京田辺キャンパス近隣にお住まいの方々からは、「篠原さんの衣装やトークから元気もらえた」「目標を持って毎日を過ごしたいと思った」といった感想が多数寄せられました。

同日は、女子大学創立記念礼拝や本学のあゆみを知るパネル展などのアニバーサリー企画に加えて、学科の学びを紹介するワークショップ、同窓会・リユニオン、研究室訪問、卒業生によるPRコーナーの開設など、ホームカミングデー企画も多数実施し、約830名の卒業生およびご家族、ご友人などのご来場で、キャンパス内は終日賑わいました。



人権学習・人権行事

毎年秋に、人権教育の一環として、中高それぞれが人権学習・人権行事を実施しています。

今回、11月10日(月)に行われた中学生の人権行事をご紹介します。

パラリンピック競技を実際に体験することで、障がいに対する理解を深めるとともに、多様な立場や違いを尊重する心を育てることを目的として、車いすバスケットボール、ゴールボール、シッティングバレーボール、ボッチャ等を体験しました。

また、視覚に頼らない歩行・誘導体験として、生徒がペアになり、一人がアイマスクを着用、もう一人が誘導役となって、校内を安全に移動する体験を行いました。双方の立場を経験し、障がいがあることの困難さ、どの様に誘導すれば安全に移動できるのか。支援や声掛けの大切さを学ぶことができました。

本校の生徒達が、人権を自分ごととして捉え、行動につなげる力が育まれることを願い、今後も継続して人権教育に取り組んでいきます。



ゴールボール



シッティングバレーボール



ボッチャ



視覚に頼らない歩行・誘導体験



車いすバスケットボール

文化祭

2025年度文化祭が10月31日(金)・11月1日(土)の両日、開催されました。

今年度のテーマは「We're Koring」であり、そこには二つの意味が込められています。ひとつは現在進行形の「ing」で、「私たちは今、香里中学校・高等学校の文化祭を最大限に楽しんでいる」という気持ちを表しており、もう一つは「ring(=輪)」で、クラスや学年、学校全体の輪が広がることを願うとともに、今年の大阪・関西万博のシンボルであった大屋根「リング」を意識したものともなっています。

当日は各クラスや文化系クラブによる展示・研究発表・模擬店、演劇公演、有志によるグラウンドステージ、PTA・高校生徒自治会・中学生徒会による出店やボランティア活動、さらに献血運動など、趣向を凝らした多彩な催しが展開され、多くの来場者を迎えて大いに盛り上がりました。

開催に当たっては、高校生徒自治会・中学生徒会が中心となり熱意をもって準備に取り組みました。本校生徒やPTA役員の方々、地域住民の皆様や教職員の協力などもあり、すべてのプログラムを無事に終えることができました。



入場門



グラウンドステージ



模擬店



香真館演劇



興文館ステージ

校舎内装リフォーム

女子部創立150周年記念事業の一環として、静和館の内装工事に着手しています。
25年度夏は廊下と階段の壁を塗装し、新たに廊下に腰壁を設置しました。

現在の静和館は1993年7月に献堂された2代目です。

腰壁の意匠は、1階は初代静和館の面影を受け継ぐものとし、2階は現在の静和館の色彩デザインを踏襲し、3階は未来に向けて思い描く意味を込めて白地に近いものとしています。

壁色も、腰壁に合わせて階ごとにわずかながら異なるものとしています。

従来、照明の関係で暗くなりがちだった階段は、より白みが多い床材と、ほとんど純白でありながらごく淡いピンクの壁色によって、明るく温かみのある空間となりました。

また、記念事業とは別に、1972年竣工の新生館(体育館)の全体改修・内装リフォームを計画的に実施しています。

太平洋婦人伝道会を通じた市井に生きる女性たちの篤志によって建てられた「静和」館が、これからも、世にあって平和を実現する人々を輩出していくことを願ってやみません。



静和館1階



静和館2階



静和館3階



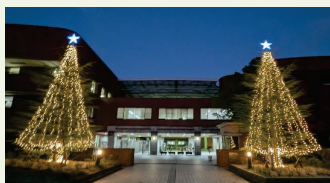
静和館階段部分



新生館ダンス室スロープおよび
廊下リフォーム

クリスマス・イルミネーション点灯式

11月17日(月)、日暮れが近づく午後5時から、正門両側に設えたクリスマスツリーの点灯式を執行了いました。静かな空気に包まれる中、ガウン姿のコーラス部が賛美歌を歌いはじめると、その澄んだ歌声が校庭いっぱいに広がり、集まった人々の心を温かく照らしました。生徒たちや教職員が見守る中、いよいよツリーに灯りがともると、周囲からは温かい拍手が自然と起こり、冬の訪れと共にクリスマスの喜びを分かち合う、厳かでありながらも心温まるひとときとなりました。



国際中学校・高等学校 創立45周年記念パーティー

11月15日(土)、本校創立45周年を記念するパーティーが、同窓会主催のもと校内にて開催されました。当日は約700名の卒業生が集い、懐かしい再会の笑顔で校内が満たされました。準備から運営まで尽力くださった同窓会の皆さまに、学校として心より感謝申し上げます。礼拝では在学時代を振り返りながら感謝の祈りを捧げ、続く教室での「懐かしい授業」では、退職された先生方も教壇に立ってください、「教え子の皆さんと再び会えて本当に嬉しい」と笑顔を見せておられました。在校生によるアメリカンフットボール部チアリーダー、ダンス部、吹奏楽部のパフォーマンスは、先輩への敬意と温かい思いが込められた力強いもので、多くの拍手が送られました。懇親会では、旧友との語らいに花が咲き、卒業生と先生方が再び結ばれる温かな時間が流れました。半日という短いひとときでしたが、母校との絆を深く感じる一日となりました。閉会后、参加者が名残惜しそうに校舎を振り返る姿には、母校への感謝と、これからも続くつながりの尊さが込められていました。





初等部:『クリスマス礼拝・ページェント』

国際学院では12月5日(金)にクリスマス礼拝とページェントを行いました。朝のクリスマス礼拝では、国際中学校・高等学校の朴元 炯怜先生をお招きし、奨励と祈りを捧げました。

午後からのページェントは毎年3年生が行っています。役者から裏方まで、一人一人がそれぞれの役割を果たして頑張りました。そして昨年、一昨年に経験した4・5年生の児童も聖歌隊として劇を盛り上げました。



国際部:『Bake Sale』

From November 10-11, the middle school students of Doshisha International School Kyoto hosted a heartwarming bake sale in support of Peace Wanko Animal Shelter. The event was filled with excitement, purpose, and community spirit as students worked together to raise funds for animals in need.

In the weeks leading up to the event, students collaborated on planning, baking, organizing, and promoting the sale. The bake sale quickly became a lively gathering spot, drawing enthusiastic support from teachers and schoolmates.

A key highlight of the event was the strong involvement of parents, who generously assisted with preparation and logistics. Their support empowered students to take the lead while ensuring the event would have the best home-made treats!





同志社小学校

Doshisha Elementary School

「点灯式礼拝」

11月28日(金)にイエス様の誕生を待ち望むアドヴェントを告げる点灯式をおこない、聖歌隊の透き通るような歌声がチャペルコートを包み込みました。

主イエスがそうであったように、暗い世にあって私たちは一筋の光となることができるでしょうか。人を喜ばせ、その喜びを分かち合う。そのためにできることをリボンに書いて、各学年が受け取ったツリーに結び、クリスマス礼拝でささげました。

「一人一人の心が何よりのささげものである」。この礼拝で深く響いたメッセージを胸に、皆がアドヴェントのひとときを過ごせたのではないのでしょうか。



「収穫感謝祭」

11月4日(火)、園内のリチャーズホールにて収穫感謝祭をおこないました。子どもたちは各家庭から持ってきた野菜や果物を捧げ、園児全員で合同礼拝の時間を持ちました。

また、後日には持ち寄った野菜を使いカレーパーティーを開催しましたが、今年は、年中組と年長組が玉ねぎの皮をむき、そのあと年長組が野菜を切るなどの下ごしらえをしました。秋の実りに感謝をして園児全員でおいしくカレーをいただきました。



インタビューの2人

私の
志

株式会社 Ready to Bloom 代表取締役社長

にしごおり ことね
西郡 琴音 さん



大きな志を掲げれば、ときに否定的な声も聞こえてきます。けれど、自分だけの痛みや怒りを「やめない理由」に変えてみるんです。確かな自負さえあれば、外からの雑音はいつしか消え、自分を押し上げる力に変わるはずです。

2022 年同志社大学グローバル地域文化学部卒業。

株式会社 AnyMind Japan でウェブやアプリの広告マネタイズの日本営業・コンサルやアメリカ営業を担当。ケニア、トーゴ、ルワンダに渡航したのち、経産省主催社会起業家アクセラレーションプログラム「ゼロイチ」をきっかけにルワンダで Ready to Bloom Ltd を起業。

2025 年 1 月に株式会社 Ready to Bloom として日本法人を設立。経産省主催アクセラレーションプログラム「ゼロイチ」1 期生。EY Entrepreneurial Winning Women 2024 特別賞受賞。MAKERS UNIVERSITY 10 期生。



Interview

インタビューの2人

私の
志

株式会社 TODAY 代表取締役社長

やま だ こ
山田 かな子 さん



「志」というと難しく聞こえますが、私はいつも「何のためにやるのか」をシンプルに考えています。目の前の一人のために動く。その成果を積み上げていくことが、地域の扉をこじ開ける力になると信じています。



1991 年、和歌山県生まれ。2014 年、女子大学現代社会学部卒業。卒業後は和歌山県の小学校で 1 年近く教員を務め、その後、東京都のイベント制作会社に入社。

福島県の一般社団法人 Bridge for Fukushima で復興庁の復興・創生インターンシップ事業に携わり、起業家支援などを行う NPO 法人 ETIC に勤務。2022 年、家族とともに故郷・和歌山県田辺市へ U ターンした。

株式会社 TODAY を設立し、田辺市の「関係人口」創出などに取り組む。

Interview

目次

〈表 紙〉志を未来へつなぐ学び舎
鎌田 伸一
(中学校・高等学校事務長)
辻 英俊
(株式会社上原フォートスタジオ)

〈表紙裏〉
新島 襄の言葉
西田 喜久夫
(国際中学校・高等学校 校長)

〈□ 絵〉

■法人
同志社創立 150 周年記念式・献茶式、祝賀会

■大学
同志社大学クリスマス・イルミネーション点灯式

■女子大学
創立 150 周年記念・篠原ともえさんによるトークセッション
「私らしく輝く、キャリアアウェルビーイング」を開催

■中学校・高等学校
人権学習・人権行事

■香里中学校・高等学校
文化祭

■女子中学校・高等学校
校内装飾リフォーム

■国際中学校・高等学校
クリスマス・イルミネーション点灯式
／国際中学校・高等学校 創立 45 周年記念パーティー

■国際学院
初等部：『クリスマス礼拝・ページェント』
国際部：『Bake Sale』

■小学校
「点灯式礼拝」

■幼稚園
「収穫感謝祭」

〈私の志〉インタビューの 2 人

私の志

不条理への違和感が原動力

デジタルビジネスでアフリカの若者の可能性を拓く

..... 西郡 琴音さん

4

若者と地域を結ぶ「蜜蜂」として飛び回る

一人の願いに寄り添う一歩ずつがふるさとを育てる

..... 山田 かな子さん

8

同志社創立150周年記念事業の歩みとこれから

..... 同志社総長・理事長 八田 英二

12

同志社創立150周年記念事業の振り返り

..... 法人事務部 創立150周年記念事業事務局

14

特集

同志社創立150周年

未来に歴史の記録を手渡す ―『同志社百五十年史』の編纂を通じて―

..... 小林 丈広／大島 中正／山田 史郎／山崎 敏昭／木咲 利枝子／井上 亮

36

特別寄稿

「同志社創立150周年記念フェスティバルFESTIVAL」が開催される

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

46

同志社創立150周年記念式・献茶式が開催される

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

50

未来を描くアニメーション ～「二百年の夢を見た。」に込めた志～

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

55

ニューイングランドにおける新島襄の聖地巡礼

同志社創立150周年記念アメリカツアー2025～ 元大学神学部教授 本井 康博

58

建物案内

新心館（女子大学）

中・高岩倉キャンパス（中学校・高等学校）

65

同志社の逸品

女性宣教師の服装（復元）

女子大学史料センター

67

私の研究・私の授業

変形型月面ロボットSORA-Qーその先に

大学生命医科学部教授 渡辺 公貴

69

「労働」とジェンダーの歴史から現代社会を理解する

大学グローバル地域文化学部教授 石井 香江

72

国際保健の視点で在留外国人の健康を支援

女子大学看護学部准教授 橋本 秀実

75

香里高校の「総合的な探究の時間」

香里中学校・高等学校社会科教諭・探究科委員会委員長 虫本 隆一

78

システムアプローチで考える地理授業

女子中学校・高等学校地理歴史科教諭 田中 岳人

81

生活を 生活で 生活へく子どものさながらの生活を大切に

幼稚園園長 矢田 貴美代

84

コラム・エッセイ

「大きくすれば安くなる」はどこまで通用するのか
——「コンテナ船巨大化の行き着く先」……

大学商学部助教 キセリヨフ エフゲーニ
旅を形づくるのは誰か……女子大学現代社会学部助教 金 明柱
便利さの陰に潜む代償——スマートフォン利用と児童の学力低下——……国際学院初等部教諭 石川 翼
87 88 89 90

新刊紹介

権利の名のもとに／保井 啓志著
「バート・トレズ」と国際貿易 リカードからJ・S・ミルの架構／久松 太郎著
広告の昭和—テレビCMがやってくる—／竹内 幸絵著
外国人と日本国憲法／Colin P.A. Jones 著
ブロックチェーン・暗号／トークンの法分析／高橋 宏司著
スウェーデンにおける障害者のパーソナルアシスタンス制度／鈴木 良著
株式会社社の資本制度の研究／中筋 智規著
「ソーシャル・フット」——「型」——「助」する社会の中を生きる根拠——／空閑 浩人著
Succeeding Puccini／DAVID JOHN CHANDLER 著

同志社クローズ・アップ

『同志社百五十年史 各学校と関連団体』を刊行……法人部『同志社百五十年史』編纂委員会
ホームカミングデー2025／大隈親会……大学校友課
地域とつながる学びをつくる……女子大学現代社会学部准教授 新谷 龍太郎
Real Madrid Foundation Clinics JAPAN 2025 in KYOTO DOSHISHA……中学校・高等学校事務局長 鎌田 伸一
大阪府学生科学賞で最優秀大阪市長賞を受賞……香里中学校・高等学校理科教諭・生物部顧問 古本 大
なんでも「買える」今だからこそ「作る」ことを楽しむ 家庭科クラブの活動……女子中学校・高等学校家庭科教諭・家庭科クラブ顧問 三方 双葉
きらり輝く生徒へのインタビュ—「スポーツライミングの魅力」……国際中学校・高等学校教頭 二股 一郎
UO—と関連した施設見学と、新島襄の足跡をたどった宿泊学習（五年生）……国際学院初等部教頭 風間 寛
150周年記念スポーツフェスティバル——……小学校教諭 小野 裕子
自然とともにある生活……幼稚園園長 矢田 貴美代

同志社の一貫教育 hitohito-li

同志社一貫教育探求センター 前所長 大久保 雅史

123 120 118 116 113 110 107 103 101 98 95

●本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。

大学＝同志社大学、女子大学＝同志社女子大学、中学校・高等学校＝同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学校＝同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校＝同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校＝同志社国際中学校・高等学校、小学校＝同志社小学校、国際学院初等部・国際学院国際部＝同志社国際学院初等部・同志社国際学院国際部、幼稚園＝同志社幼稚園

●記載の所属、役職、職位、学年等は取材時点のものです。

私の志

不条理への違和感が原動力 デジタルビジネスで アフリカの若者の可能性を拓く



にしごりことね
西郡 琴音さん (社会起業家)

アフリカの貧困を生む構造的な不条理を打破するため、ルワンダを拠点にデジタルビジネスで挑む卒業生がいます。最先端のAI開発とIT人材の育成を通じて現地の雇用を創出し、未来を切り拓くその志と、自身の「痛み」を原動力に変えて歩み続ける背景を伺いました。

一枚の写真から始まった世界への「問い」と「怒り」

——まず、国際社会への強い関心が芽生えた経緯をお聞かせください。

西郡 きっかけは小学校の国語の教科書で見た「ハゲワシと少女」という一枚の写真でした。南スーダンで、飢えに苦しむ少女を背後からハゲワシが狙っている。その光景に小学生ながら、凄くショックを受けました。本人のせいではないのに衣食住に困り、苦しむ人たちがいるのはなぜだろうと。自分の知らない世界をもっと見たいという関心が育ち、卒業文集にはすでに「国連職員になりたい」と書いた。

ていたほど、貧困や戦争というテーマが心の中に深く根付いていました。

——その強い関心は、同志社高校に入られて、どのような形となって現れたのでしょうか。

西郡 その当時、2015年頃には、シリア難民問題が大きく報じられていました。トルコの海岸に打ち上げられたシリア人の子どもの遺体の写真も衝撃的でした。そこで政治経済の先生の勧めもあって、友人と「Shi Shi(シリシリ)」というサークルに入っただけです。日本に逃れてきたシリア人女性を作ったアクセサリーやお菓子などを文化祭で販売したり、みんなで現地にメッセージを送ったり。こうして15歳の頃には、世界の理不尽な構造への違和感が私の探究の原動力になっていました。

学問でひも解いた搾取の構造と現場で知った「覚悟」

——大学ではグローバル地域文化学部に進まれました。

西郡 不条理の原因を学ぶため、植民地支配の歴史から現代の構造をひも解こうとヨーロッパコースを選びました。調べていくうちに、戦争をする方が儲かる、あるいは既得権益を守る人たちがいるのではないかと、いろんなことが見えてきた。そこで卒論ではイマニエル・ウォーラーSTEINという社会学者の「世界システム論」を軸に、先



進国が途上国を搾取し続ける構造を考察しました。アフリカはレアメタルや力カオなど資源が豊富でありながら、なぜ学校に行けず、板チョコすら買えない子どもたちがいるのか。発展を阻むモノカルチャー経済という構造を指摘し、現地の人々が最低水準の人間らしい生活を送るための可能性を追究しました。

——在学中は海外でも見聞を広められ、卒業後はデジタルマーケティング企業に就職されました。

西郡 在学中7カ月間、イギリスのウォーリック大学に留学し、言語学とデベロップメントスタディ(開発学)を学びました。卒業直前にはケニアやトーゴを訪問。スラムにあるITセンターなどを視察し、教育とビジネスを融合させる必要性を痛感しました。卒業後は最短で事業開発を学ぶため、スタートアップ企業に入社し、実務を積みながら経済産業省の起業家育成プログラムにも参加しました。そこで第一線の起業家であるメンターから徹底的な伴走支援を受けたことが大きかったです。学んだのは諦めない心。社会課題の解決は、普通のビジネスより何十倍も難しいで

す。お腹は空いているけれど、食料を買うお金がない人を助けようとするわけですから。最前線で戦う方々の「それでもやるんだ」という圧倒的な覚悟に触れて刺激を受けたし、改めて気持ちを強くしました。そうして、ルワンダでの事業を本格的に始動させたいです。

最先端のデジタル事業でアフリカの若者の機会創出へ

——ルワンダでのビジネスについて教えてください。

西部 メインは日本企業様へのVLEAモデルやCVMモデル開発、データを使ったAIへのトレーニングをデータファクトリーとして提供しています。今特に需要が高いのが、データアノテーションというサービスです。例えば自動運転AIのために、走行中の車から撮影した画像の一枚一枚に「車」「信号」などとラベリングする、いわばAIの教科書作りですね。最近ではMeta社製のVRゴーグルを使い、人間の動きをヒューマノイドロボットに学習させる最先端の仕事も、ルワンダのチームと手がけています。

——アフリカの若者の潜在能力を、どうお考えですか。

西部 機会さえあれば、誰よりも「掴む力」があると感じています。例えばルワンダ大学のような、現地で一番といわれる大学を卒業しても、国内に受け皿となる中堅企業が極端に少ないために仕事がないという実態があります。大



実務案件で勉強すれば、数カ月で見違えるほど変わってきます。そこに私は可能性と希望を感じています。

——難しい点がありますか。

西部 例えば本音と建前の難しさでしょうか。ルワンダにはジェノサイドの歴史があり、平和のために「部族名は使わない、みんな同じルワンダ人だ」という政策を取っています。それは素晴らしいことですが、一方で、表立っては言えない複雑な感情が、ときに人間関係を影を落としたり、コミュニケーションを難しくさせてしまったりする側面もあります。私は京都出身なので本音と建前は分かっているつもりでしたが、ルワンダはもっと深い。けれど時間をかけて言葉で話し合えば、ちゃんと分かり合える人たちです。

「痛み」や「弱さ」が
誰にも負けない自分だけの志になる

——将来の目標を教えてください。

西郡 私が60歳になる2060年までに、アフリカで100万人の人たちの収入向上を実現させることです。営業的には、データアナレーションといった単なる作業を売るのではなく、「AIモデルの強化」という付加価値を、アメリカのトップ層の企業などに売ることに注力しています。そのためにも、もう一つ大切に行っているのがメンバーの「育成」です。自社でLEAP（リープ）というオンライン学習教材を作っていますが、これはアニメの『NARUTO—ナルト—』を題材にしています。アフリカでも日本のアニメ映画はチケットが取れないほど人気が高く、共通言語になるんですね。「今日から君たちは忍者だ。忍者は目先の利益ではなく、長期的に仲間やミッションのために動くんだ」と伝えていきます。個人主義的な面がある現地で、「なぜ仲間を大事にするのか」「なぜお客さんファーストなのか」「そうすればどんなメリットが自社やあなたに返ってくるのか」という仕事への姿勢を、キャラクターを通して



教えています。そうやって会社のメンバーが自分で家を借りられるようになったり、言動がビジネスマン的になったり、その先にあるお客様の幸せを語れるようになったりして変わっていくのを見られるのが、私の一番の喜びです。

——最後に、読者の方へメッセージをお願いします。

西郡 自分が得意なことやできることを無理に探さなくてもいいんだ、ということをお伝えしたいです。今は常に誰かと比較される世界です。「何かに秀でているから勝てる」という考え方もありますが、最初からそこを目指す必要はないと思うんです。むしろ大切なのは、自分の中にしかない痛みや弱さ、あるいは感性です。それらを単なる感情で終わらせず、一歩前に進むための推進力にする。私の場合は、それが「なぜアフリカの人たちだけが苦しまなければいけないのか」という、理不尽さに対する消えない怒りでした。誰かと比べるのではなく、自分だけのストーリーを原動力にすれば、何があっても揺るがない、本当の強さが手に入ると信じています。アフリカの貧困を絶対になくしたい。そこだけは、これからもブレずにやっていきたいです。

（2025年12月12日、東京にて）

※1 視覚と言語を理解し、その情報をもとに行動を判断・生成するAIモデル

※2 画像や映像などの視覚情報を理解・解析するAIモデル



私の志

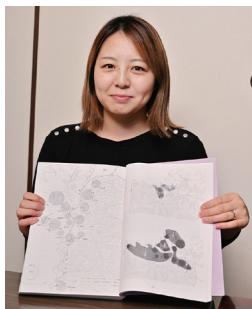
若者と地域を結ぶ「蜜蜂」として飛び回る
一人の願いに寄り添う一歩ずつが
ふるさとを育てる

東日本大震災の復興支援を機に、コーディネーターとしての原点を見出した山田 かな子さん。東京でのイベント制作、福島での復興創生支援などを経て、故郷・和歌山県田辺市へファミリーでUターン。地域に介在して若者の可能性を实らせる「蜜蜂」のような活動と、現在地へ導いた志を伺いました。

自ら主体となって動く女子大での学びと 東北での原点

——女子大学現代社会学部への入学動機をお聞かせください。

山田 私は和歌山県の女子高校出身なのですが、そこでの生活が本当に楽しく、大学も女子大に進みたいと考えていました。その中でも、リベラルアーツを通じて幅広く社会を知ることができる現代社会学部に惹かれたんです。当時はまだ明確な目標があったわけではありませんが、だからこそ多様な視点を吸収できる環境が魅力でした。女子大の良さ



は、共学だと無意識のうちに男女で役割が分かれてしまうような場面でも、すべてを自分たちでやらなければならぬことにあります。そういう主体的な環境が、オールラウンダーとして動く今の私の姿勢を育てたのだと思います。

——在学中に取り組まれた学びを教えてください。

山田 観光学コースの天野 太郎先生のゼミでの学びが面白かったです。1年次で履修した天野先生の「京都観光学概論」という授業が面白く、京都府の観光ビジネスコンテストに友人と応募するなど、企画に対する関心を育てていました。卒論のテーマは、生まれ育った田辺市の「平成の大合併」。古地図を使い、神社の合祀によってどのように地域の「境目」が書き換えられていったのかを検証しました。境界線がなぜそこに引かれたのか、神社の合祀といった信仰と地理がどう絡んでいるのかを探究した経験は、今の地域理解の土台になっています。

——学生時代から、東日本大震災の復興支援に関わられたそうですね。

山田 1年次生の終わりに東日本大震災が起こり、何かなくてはという思いに駆られて募金活動を始めました。2年次生からは岩手

県釜石市の仮設商店街へ通い、関西の女子大生たちと「Mydogirls（まいどガールズ）」というチームを組み、現地の方と「粉もん文化」を通じて交流したり、京都の酒造メーカーにお願いしてお酒を届けていただき、振る舞い酒のイベントを企画したりしました。こちらが一方的に助けるのではなく、私たち自身も楽しみ、それを楽しんでもらう。ただ、その裏では食材の買い出しなどで現地の方々に多大なサポートをいただきました。そこで初めて、地域と外の力をつなぎ合わせるコーディネーターという存在の重要性を、身をもって知ったんです。

福島で確信した、若者が地域を変える力

——卒業後の歩みをお聞かせください。

山田 学生時代はアナウンサー志望で、ダブルスクールなどで頑張りましたがご縁がなく、卒業後は1年間、小学校で教員をしました。その間も子どもや地元の活性化に関わる何かをしたいという気持ちはあったのですが、何をしていいかわからず、現状を打破したくて次は東京へ行き、イベント制作会社に就職したんです。大手企業のプロモーションなど、一晩で数千万円が動くような現場で、プロの裏方としての動きを学びました。非常に刺激的でしたが、心血を注いで作り上げたものが終了後に跡形もなく壊されていく光景は、どこか虚しい。そこで東北で経験したような持続的な地域づくりに携わりたいという思いが再燃したん

です。福島県の復興支援団体に転職し、復興庁の復興・創生インターン事業を担当しました。全国から大学生を呼び込み、被災地の事業者さんの課題解決を支援する仕事です。ノウハウはNPO法人の研修で勉強しました。

——印象的だった事例はありますか。

山田 福島県浪江町の仮設で営業していたお寿司屋さんの事例です。高齢のご夫婦と息子さんの3人家族で昼だけの営業で精一杯だったところへ大学生3人が入り、さまざまな提案をしました。メニューを絞って看板メニューを分かりやすく掲げる、夜営業も行う、学生自身もホールに立つて徹底的に効率化を図るなどした結果、1カ月で売上が2・5倍に伸びたんです。この成功が店主さんの自信になり、その後は仮設から独立して常設店舗を構え、従業員を雇って運営できるようになりました。人口が震災前の5%しか戻っていないような過酷な状況でも、若者の視点があればこれだけのインパクトを生み出せる。これなら大学が



なく、若者の少ない私の地元でも、同じようなことができずだという自信につながりました。

「蜜蜂」として、田辺市のビジネスに新しい実りをもたらす

——そして2022年、ご家族でUターンされました。

山田 東京で小さな家を買って一生働き続けるより、窓を開ければ一面の海と空が広がる環境で暮らしたい。結局、どこで生活するかが大事だったんですね。そして私のやりたかった仕事は、突き詰めれば「地元」に大学生がいる状態にすること。そこで田辺市を拠点に、インターンシップなど教育プログラムを運営する会社を設立したんです。

——現在の主な事業内容をお聞かせください。

山田 地元の事業者と県外の方をつなぎ、田辺市の「関係人口」を創出するプロジェクト「TANABEES（タナビーズ）」の運営に注力しています。関係人口とは、移住未満、観光以上のように、その地域に愛着をもって何度も訪れる人のこと。ふるさと住民登録制度のスタートも見越して、そんな田辺市のファンを増やしたい。20年後に人口半減が予測される同市で、2拠点居住の人々がインフラや文化を支える未来をデザインするのが私の役割だと思っています。BEEESは蜜蜂。梅の名産地である田辺市では、蜂による受粉がなければ実はありません。地域に介在し、若者の可能

性を実らせる蜜蜂のような存在でありたいという願いを込めました。田辺市の域学連携推進事業や総務省の「ふるさとミライカレッジ」のコーディネートなども担当し、全国の大学生が田辺市でフィールドワークや課題解決プログラムを行う支援もしています。

——都会の若者と地元の方々との間で、考え方の違いによる摩擦などは生じませんか。

山田 田辺市には密な人間関係を基盤とした温かいビジネス文化があります。そこに都会のコンサルのなやり方を持ち込んでなじみませんが、大学生が一生懸命に学んで意外な視点を伝えると、経営者の皆さんもハツとして、動いてくださいます。本当に若者が少ない地域なので、自分の事業を真剣に考えてくれるだけで嬉しいんです。例えば白浜の三段壁洞窟では、インターン生の提案から実際にカフェがオープンし、学生が開発した商品が今も販売されています。やったことが形になる面白さが、この地域の可能性だと思います。

小さな成果を積み上げる先に光が差し込む

——大切にしていることは何ですか。

山田 たとえ効率が悪くても、一人が求めている形にすることです。文部科学省の留学支援キャンペーンに採択された地元の女子高校生が「この情報をもっと地元を広めた

い」と言ってきたときは、彼女の講演会を企画しました。すると次々と後に続く子が出てきた。地元の高校生が外の世界を知り、また戻ってくるきっかけになります。

——「個」に寄り添う姿勢の原点はどこにありますか。

山田 実家が養育里親をしていて、高校生や大学生の時に突然、血のつながらない弟たちが増える経験をしたことも大きいかもしれません。東北支援の経験もそうですが、多様な人々を受け入れ、つながることを学んだ気がします。

——将来の目標と、読者へのメッセージをお願いします。

山田 私の目標は「出ていきやすく、入りやすい和歌山」をつくること。一回外に出て、いつでも戻ってこられる、あるいは外の人も気軽に入ってこられる、風通しの良い地域でありたい。そのためにも、地元で働くかっこいい大人を高校生が知るための職業体験にも力を入れています。たとえ大きなことを一度に変えられなくても、楽しく、一つ

ひとつの成果を積み上げていくことが、結果として「うちの地域でもやれるかも」と、誰かの扉を開くことにつながると思っています。



(2025年12月18日、
田辺市にて)



同志社創立150周年

記念事業の歩みとこれから

同志社総長・理事長 八田 英二

150周年記念事業の実施

2025年11月29日、同志社は創立150周年という大きな節目を迎えました。新島 襄が「良心を手腕に運用する人物の育成」を掲げて同志社英学校を創設して以来、時代の荒波を超えて歩んできたその道のりは、わが国の私学教育の歴史そのものといっても決して過言ではありません。創立者の志は、今もなおキャンパスのここかしこに脈々と息づいています。

150周年を迎えるにあたり、同志社では、数年前から様々な記念事業が展開されてきました。建学の精神を再確認し、未来への礎を築くという理念のもと、これらは単なる「祝賀」にとどまらず、次の世代へ「志をつなぐ」取り組みとして位置づけられました。

多くの事業が実施されましたが、特筆すべきものの一つは、後世に歴史を記録し伝承する『同志社百五十年史』の編纂です。既存の『同志社百年史』に、続く50年間の歴史

と資料が新たなページとして付け加えられました。またグローバル化に即した『同志社大学設立旨意の多言語化』も注目に値するでしょう。「主の道を行こう」という『同志社オリジナル賛美歌』も多くの機会に耳にされたと思います。各地での記念講演やシンポジウムを始め、様々な事業が展開されましたが、これらはすべて同志社が長年培ってきた「良心教育」の理念を現代的に翻訳し、社会へと発信した試みと位置づけることができるでしょう。

新たな教育環境の整備

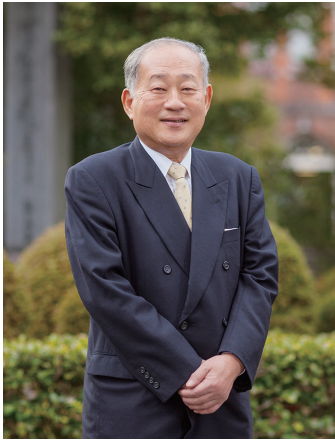
この間、キャンパス環境の整備にも大きな足跡を残しました。今出川・京田辺両キャンパスでは、学びと交流を融合させるための新たな環境整備が図られ、学生・教職員・関係者一同が垣根なく集える場として生まれ変わりつつあります。煉瓦の壁とガラスの建築が共存する景観は、伝統と革新が調和する同志社の姿そのものを象徴しています。さらに、デジタル技術を活用した『同志社バーチャルキャンパス』も公開され、在学生だけでなく、世界中の卒業生がオンライン上で母校に触れることができるようになりました。

地域・社会との連携にも、150周年の意義が深く刻まれています。地方自治体との協働プロジェクトなど、同志社は共に生きる社会を体現する多彩な活動を展開していま

す。その根底には教育は社会の中で生きるものであるという堅い信念があるからです。150年の歴史は、決して一つの教育機関の栄光を記すものではなく、地域社会と共に成長してきた足跡の証しでもあります。

記念式典から未来に向かって

こうした取り組みの集大成として開催された同志社創立150周年記念式典では、教職員をはじめ、国内外から多くの卒業生・関係者が集い、共に歩んだ時代を振り返ると同時に、未来への希望を高らかに語り合いました。そこで繰り返し話題になったのは、良心教育を社会に還元するという同志社の使命でした。国境や文化・宗教の違いを超えて、人間の尊厳を守る教育をこれからも続けていくという誓いが新たに交わされたことは記憶に新しいと思います。



しかし記念事業の本当の価値は、催しやプロジェクトの実施ではありません。むしろ、これらを通じて「同志社とは何か」を改めて問い直し

たことにあると思います。社会が急速に変化する中で、教育の意義や学校の存在理由が問われている今、同志社はその原点に立ち返り、「良心」「自由」という2本の柱をどう未来へ生かすかという根源的な課題に向き合ったのです。

150周年が過ぎ、200周年を目指すこれからの50年は、未知への挑戦の連続となることでしょう。AIやグロ―バル化の進展により、人間の価値観や倫理観が大きく揺らぐ時代にあって、同志社の使命は益々重みを増す一方です。良心やキリスト教主義を基軸とした教育は、単なる理念ではなく、世界の分断を癒やし、人と人とを結びつける実践的な指針となりうることは確かです。

未来の同志社が果たすべき役割は、「知の創造」にとどまらず、「心の創造」を社会に広げることにあるのです。150年の歩みは、過去から未来への架け橋であり、次の世代への手渡し瞬間でもあるのです。創立者新島襄が託した「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」という強い信念を、私たちは改めて胸に刻みたいものです。同志社の歴史は、今を生きる私たちの責任の物語と言っても良いでしょう。数々の記念事業の開催は、すでに次の時代への光明となっています。これからも同志社が、世界に向けて良心教育という灯を高く掲げ、有為な人物を社会に送り出し続けることを願ってやみません。





同志社創立150周年記念事業の 振り返り

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

すべての事業は同志社創立150周年記念ホームページ
で詳細をご覧ください。

また、(*)のある事業は動画をご覧ください。(肩書
を含めた内容は、すべて当時のものとなります。)

良心教育の浸透と拡散・発展

同志社未来創造プロジェクトメンバー

同志社創立150周年記念事業は
卒業生や在校生、教職員の意見やア
イデアを集めて行うという方針であ
り、同志社内各学校の教職員からプ
ロジェクトメンバーを毎年募ること
になりました。自主的に応募してく
れた15〜20名のプロジェクトメンバ
ーから寄せられた意見を検討し、企
画・立案をして実行に移していきま



ワークショップの様子

した。また、毎年夏にメンバーによるワークショップを行
い、同志社創立150周年記念式で配布する冊子(The
Next Doshisha)の内容について議論を行いました。

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2021 (*)

日程…2021年11月29日(月)

場所…大学今出川校地寒梅館ハーディーホール

Doshisha New Day (DND)とは「同志社の未来を
つくるための特別な1日」です。2024年までの毎年11
月29日に開催しました。2021年度は、同志社創立15
0周年記念ロゴマークの
発表と考案者 松井 美野
さん(同志社中学校2年
生)の表彰、本井 康博
氏(元大学神学部教授)
によるミニ講義「志を継
ぐー新島襄の同志『小新
島』たらんー」、香里高
等学校ダンス部によるパ
フォーマンス(映像紹介)



同志社創立150周年記念イベント
Doshisha New Day 2021

がありました。Zoomウェビナーによるライブ配信で実施し、視聴者総数は約300名でした。

同志社・新島かるた

2022年7月完成

国際学院初等部6年生が描いた絵をもとに大学漫画研究会の学生がリライトし、かるたの絵札を制作しました。子どもたちが、遊びを通じて同志社や新島裏に親しみを持つことができることを願っています。同志社生協や同志社エンタープライズのオンラインショップなどで販売しました。(終了)



新島かるた

「新島裏寄港の地碑」建立30周年記念イベント 風間浦村(*) (風間浦村共催)

日程…2022年10月30日(日)

場所…風間浦村立風間浦中学校体育館

1864年新島裏は、洋式帆船「快風丸」で江戸から函館に航海中、北風と激しい潮流を避けるため、現在の青森県風間浦村に寄港しました。1992年、風間浦村が新島裏とのふれあいを永世に残し、後世に語り継ぐために「新島裏寄港の地碑」を建立してから30周年を迎えたことを記念してイベントを開催し、約100名の参加がありました。記念式典に続いて、本井康博氏(元大学神学部教授)による講演「風間浦からの出発ールビコン川を渡る新島裏ー」、伊藤誠氏(シンガーソングライター/1976年大学商学部卒業)によるミニコンサートがありました。

同志社人による写真&メッセージ企画

2022年11月公開

同志社の良心教育をアピールするために、『あなたにとっての良心とは』をテーマに、同志社の各学校の園児、児童、生徒、学生、卒業生、教職員からコメントいただき、同志社創立150周年記念ホームページ



同志社人による写真&メッセージ企画





の特設ページに掲載しました。習字や漫画、写真などで表現した方もおられます。約200名の同志社人のメッセージをご覧ください。

同志社オリジナル賛美歌（＊）

2022年11月、園児から学生、卒業生までが一緒に歌うことができる同志社独自の賛美歌を制作しました。歌詞は公募を行い、応募のあった69作品から堀之内涼さん（大商学部2年次生）の作品が選ばれ、成田和子教授（女子大学学芸学部）が作曲しました。

同志社手話（＊）

2022年11月完成

協力…大学学生支援センター

SDA室

これまで、式典や重要な行事などの中で使われている「新島襄」「良心教育」「個性不羈」にあたる統一された手話がありませんでした。この度、卒業生の協力を得て、新



同志社手話

島襄並びに新島の思いを表現するこの3つの言葉について手話を作成しました。

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2022（＊）

日程…2022年11月29日（火）

場所…大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

2022年度は、千玄室氏（裏千家15代・前家元）による講演「同志社の想い出」、同志社オリジナル賛美歌の発表と考案者 堀之内涼さん（大商学部2年次生）の表彰があり、約175名の来場者とオンライン参加がありました。



千玄室氏

同志社紹介PV

「One Purpose 志を同じくする者たち」制作（*）

2023年5月完成

園児から学生まで総勢300名を超える皆さんにご協力いただきました。完成したPVは同志社創立150周年記念事業公式YouTubeで確認でき、同志社の雰囲気を感じていただけるものとなっています。



同志社紹介PV
「One Purpose志を同じくする者たち」

VRキャンパス（大学今出川キャンパス）

2023年7月完成

同志社内各学校の各時代を超えたキャンパス映像を制作し、2025年には全同志社のキャンパスをバーチャル空間で再現します。過去、現在、未来のキャンパスをVR技術で再現することで、現在通っている学生のみならず、卒業生が当時通ったキャンパスをバーチャル空間で経験できるようなシステムを構築しています。



VRキャンパス（大学今出川キャンパス）





同志社創立150周年記念講演会③ 会津若松市2023

日程…2023年9月23日（土）

場所…福島県立博物館 講堂

学校法人同志社は会津若松市との間で連携協力に関する包括協定を2012年に締結しました。2023年度より、毎年9月に行われる会津まつりにおいて同志社創立150周年記念講演会を開催し、2023年度は、山下 智子教授（女子大学現代社会学部）による講演「新島八重さんの贈り物―心の和きもの―その人は地を嗣かむ―」を実施しました。約60名が参加しました。



山下 智子教授

同志社ウエディング（*）
NPO法人同志社大学産官学連携支援ネットワーク協賛
同志社エンタープライズ、LST WEDDING、TAKAMI BRIDAL協力

日程…2023年9月・11月

場所…大学今出川校地 クラーク記念館

コロナ禍やその他様々な理由で結婚式を挙げられなかった方や同志社ウエディングへの強い気持ちをお持ちの方を対象に公募し、27組の応募があり、4組を無償で招待しました。司式は森田 喜基准教授（大学キリスト教文化センター）により執り行われ、恩師の列席や恩師からの色紙のプレゼントなどのサプライズがありました。



同志社ウエディング

同志社創立150周年記念イベント Doshisha New Day 2023（*）

日程…2023年11月29日（水）

場所…大学今出川校地 寒梅

館ハーディーホール

2023年度は、朝原 宣治氏（北京オリンピック銀メダリスト／大学スポーツ医科学研究センター客員教授／2009年大学大学院総合政策



朝原 宣治氏、田中 希美氏

科学研究科博士前期課程修了」と田中 希実氏（陸上競技選手／2022年大学スポーツ健康科学部卒業）による対談、大学應援團による演舞が披露されました。

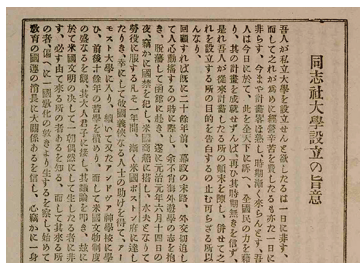
同志社大学設立の旨意（抜粋）の多言語化（英語、中国語、韓国語）

2024年2月完成

1888年、新島襄は20

をこえる新聞、雑誌に「同志社大学設立の旨意」を公表し、大学設立への協力をよびかけました。前半で同志社諸学校開設に至る経緯をかたり、後半で今なぜその上に大学が必要なのか、いかなる大学であるべきかを論じた名文です。

この度、設立の旨意（抜粋）を英語、中国語、韓国語に翻訳し、ホームページにて公表しました。また、子ども版（日・英）と合わせてご覧いただけます。



同志社大学設立の旨意

2023年度コンテストで最優秀賞の同志社大学生制作のテレビCMをKBS京都で放映（*）

日程…2024年4月8日（月）～20日（土）

2023年度の同志社内学生・生徒を対象としたテレビCMコンテストにおける最優秀作品をKBS京都で放映しました。



2023年度コンテストで最優秀賞の同志社大学生制作のテレビCMをKBS京都で放映

安中・同志社新島講演会2024（安中市共催）

日程…2024年6月22日（土）

場所…新島学園中学校・高等学校礼拝堂

学校法人同志社は群馬県安中市との間で包括連携協定を2023年に締結しました。新島学園中学校・高等学校聖歌隊によるミニコンサートと百合野 正博大学名誉教授に





よる講演「新島襄が私学同志社を設立した重要な意味」グレイス教会で頭の中を駆け巡ったこと」と本井康博氏（元大学神学部教授）による講演「安中市と同志社」交流150年のその先へ」を行いました。約200名の参加がありました。



本井 康博氏

同志社創立150周年記念講演会「会津若松市2024

日程…2024年9月21日（土）

場所…会津若松市文化センター

吉海 直人女子大学名誉教授による講演「八重が結んだ会津若松と同志社」を実施し、92名の参加がありました。講演前には、会津若松市の高校生を対象としたバスツアーを実施し、新島 八重ゆかりの地を巡りました。



吉海 直人女子大学名誉教授

Doshisha New Day 2024（*）

日程…2024年11月29日（金）

場所…大学今出川校地 寒梅館ハーディーホール

2024年度は、坊垣 佳奈氏（株式会社マクアケ共同創業者／取締役／2006年大学文学部卒業）による講演「多様性」と「個」の時代に、アタラシイ感覚で、人生を豊かに生きる「Makake」の最新事例とそのヒットの秘密もご紹介します。大学能楽部観世会、女子大学おどり・京炎そでふれ「花風姿（はなふうさ）」によるパフォーマンスがありました。

会場参加者数113名、YouTubeライブ配信時の視聴者数は99名、計212名の参加がありました。



女子大学おどり・京炎そでふれ「花風姿」

”ふくしまサクラ”の植樹

日程…2025年1月17日（金）

場所…同志社墓地前広場等

学校法人同志社は福島県および会津若松市と福島復興のための包括連携協定を締結しています。同志社墓地への山道整備を記念して、小学校6年生90名がふくしまサクラ”はるか”の苗木を同志社墓地前の広場とその山道に植樹しました。



ふくしまサクラの植樹

学校法人同志社創立150周年記念講演会 同志社と早稲田〈大学体育会硬式野球部共催〉

日程…2025年3月22日（土）

場所…大学今出川校地 良心館地下2番教室

同志社創立者の新島襄と早稲田大学創立者の大隈重信の交流は知られていますが、両校の交流はそれに限られません。「新島精神」を受け継ぎ、同志社英学校卒業後に早

稲田大学の前身である東京専門学校に奉職した二人、一人

はキリスト教社会主義者であり学生野球の父といわれる安部磯雄ともう一人は哲学者で早稲田文学の基礎を築いた大西祝の功績を振り返り、両大学と両野球部の将来を考察するために望月詩史教授（大学法学部）による講演「同志社と早稲田をつなぐ人々とその精神」を開催しました。

新作能「庭上梅」の上演^(*)〈同志社紫謡会共催〉

日程…2025年4月19日（土）

場所…女子大学、女子中学校・

高等学校 栄光館

大学能楽部観世会創部10

0年と同志社創立150周年

を記念し、創立者新島襄を

主人公とした新作能「庭上梅」

を上演しました。上演前には、

大学能楽部金剛会に学生時代



新作能「庭上梅」の上演



望月 詩史教授



所属されていた澤田 瞳子氏（作家／2002年大学大学院文学研究科博士前期課程修了）による講演『「庭上梅」をめぐる』を行いました。当日は天候にも恵まれ、450名の一般観客と100名の本学学生の来場があり、能の最後（キリ）の部分では、客席の学生、卒部者も共に謡に参加しての大連吟となりました。

京都新聞広告・冊子及び公式サイトPR特集によるPR

京都新聞では文化、経済、宗教、教育など様々な分野の「日本人のこころ」がいまなお残る京都から、「日本人の忘れもの」を取り戻すキャンペーンを展開しています。この企画を通じ、以下の内容で同志社創立150周年事業や同志社の建学の精神について広く情報発信を行いました。

- ① 京都新聞別冊20頁特集紙面での企業・団体代表者の年給メッセージ掲載及び賛同企業掲載（2025年元旦）
- ② 『未来との約束2025』～京都の未来企業・団体～..経済面特設枠に1回掲載（2025年11月6日）
- ③ 中学生向け冊子『京都の未来企業・団体2026』（京都府内の公立中学2年生を対象として各学校の送付）
- ④ 京都新聞公式サイトPR特集のページに『京都の未来企

業・団体」公開

同志社墓地山道整備

若王子山頂にある同志社墓地への山道には、歩行者を助けるためにコンクリートの土台が設置されている箇所もありましたが、多くは未整備の状態でした。歩行者が安全に、かつ歩きやすいように、同志社創立150周年記念事業の一環で山道の整備工事を行い、2025年1月に完成しました。



同志社墓地山道整備

同志社創立150周年記念シンポジウム
同志社・慶應・早稲田が考える教育の未来
～私学の役割と人材育成～（*）

日時…2025年5月17日（土）
会場…大学今出川校地 寒梅館ハーディーホール
主催…朝日新聞社／共催…学校法人同志社

伊藤 公平塾長（学校法人
慶應義塾）、田中 愛治総長（学
校法人早稲田大学）及び八田
英二総長・理事長による講演
とパネルディスカッションを
行いました。

多様な視点から現代教育の
課題や未来への展望が語られ、
私学の根幹をなす建学の精神
を再確認するとともに、今後の私学教育の在り方や人材育
成の在り方について語り合いました。未来の教育環境や社
会における役割について、それぞれの教育アプローチから
特徴的な視点を示しました。

同志社創立150周年記念講演会⑤ 函館 （函館市、同志社校友会函館クラブ後援）

日程…2025年6月14日（土）

場所…函館市民会館 小ホール

新島 襄が21歳の1864年に日本を脱出した函館にお
いて記念講演を行いました。八田 英二総長・理事長によ
る講演「同志社創立150周年を迎えて」に加えて、保阪



同志社創立150周年記念シンポジウム

正康氏（ノンフィクション作
家・評論家）による講演「近
現代史における同志社人脈を
見つめて」を実施いたしました。
当日は9時10分から、新
島と関係の深い函館千歳教会
において記念礼拝を行い、11
時から「同志社創立者新島襄
海外渡航の地」碑前祭を開催しました。

同志社創立150周年記念講演会⑥ 札幌 （同志社校友会北海道支部共催）

日程…2025年6月15日（日）

場所…ホテルポルスター札幌

北海道大学混声合唱団と北海
道大学合唱団と同志社グリーク
クラブによる演奏と、横田 篤氏
（国立大学法人北海道大学理事・
副学長）による講演「北海道大
学のサステイナビリティ追求の
歴史と現在地」、小枝 弘和氏（大



保阪 正康氏



同志社創立150周年記念講演会in札幌



学同志社社史資料センター社史資料調査員）による講演
「William Smith Clarkと新島襄―両者が紡いだ北海道と
京都の縁」を実施いたしました。

安中・同志社新島講演会2025〈安中市共催〉

日程…2025年7月12日（土）

場所…新島学園中学校・高等学校 礼拝堂

新島学園中学校・高等学校
聖歌隊によるミニコンサート
と山下 智子教授（女子大学
現代社会学部）による講演「新
島襄と安中、そして同志社―
平和の使徒、150年の志と
希望―」と中西 哲生氏（元
プロサッカー選手／スポーツ
ジャーナリスト／パーソナル
コーチ／1992年大学経済学部卒業）による講演「新し
い未来 新しい自分」を実施いたしました。



中西 哲生氏

創立150周年記念講演会③ 会津若松2025

日程…2025年9月21日（日）

場所…会津若松市文化センター

学校法人梅花学園学園長で

あり、前女子大学学長の小崎
眞氏が「目に見えない賜物に
誘われて、新島八重と井深八
重から引き継ぐもの」とい
うテーマで講演を行いました。
講演では、会津まつりの精神
と同志社創立150周年の歩
みに通じる姿勢が紹介されました。



小崎 眞氏

同志社創立150周年記念講演会③ 横浜 〈同志社校友会神奈川県支部共催〉

日程…2025年11月22日（土）

場所…横浜市崎陽軒本店第1・2会議室

澤田 瞳子氏（作家／2002年大学大学院文学研究科
博士前期課程修了）による講演「京都で小説を書くこと」と
森田 喜基准教授（大学キリスト教文化センター）による

講演「同志社は、なぜ京都に創立されたのか」を行いました。

同志社人インタビュー

同志社内各学校の大学生、高校生がペアとなり、同志社の卒業生や現役学生にインタビューを行います。数珠繋ぎで次にインタビューをする方を前の方からご紹介いただくことになっています。これまで16名の方にインタビューにご協力いただきました。

写真は第9回…書家 川尾 朋子氏（2000年女子大学生活科学部卒業）へのインタビューの様子です。



川尾 朋子氏



澤田 瞳子氏

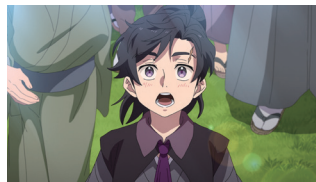
同志社創立150周年記念アニメーション『二百年の夢を見た。』

2025年11月完成

新島 襄は幕末、命がけで自由を求めてアメリカに渡りました。幸いにもかの地では、多くの善意の方々の支援を得て三つの学校で民主的で先進的な教育を受けることができました。留学中、新島は日本が近代国家となるためには自治、自由や良心の充満した人物を育成するための教育が不可欠であると考えて、日本に帰国するや、アメリカ流の学校を日本に移植することに尽力し、日本初の私立大学の設立に挑みました。

結果として、大学設立という彼の志と夢は存命中には叶いませんでした。しかし、その夢は現在の同志社に学ぶ学生や卒業生、教職員にも脈々と受け継がれています。

私たちは彼のような先駆者がいたことを学園内外のより多くの人に広く、深く知っていただきたいと願い、10分3章立てのアニメーション『二百年の夢を見た。』を制作しました。





同志社の繋がりへの輪の強化・拡大

同志社創立150周年記念ロゴマーク決定

日程…2022年11月29日（月）

150年の歴史と伝統、さらに200年の大計を目指す同志社の姿を広く社会に発信するため、創立150周年記念のロゴマークを公募しました。応募者337名、応募作品496件の中から、厳正な審査の結果、松井美野さん（同志社中学校2年生）の作品が選ばれ、2022年11月29日に開催された創立150周年記念イベントDoshisha New Dayにおいて、ロゴマークの発表と表彰を行いました。



ロゴマーク



松井 美野さん、八田 英二総長・理事長

安中市と連携協定締結（記念講演と地元中学生対象の陸上教室）

日程…2023年7月17日（月）

場所…群馬県安中市役所、新島学園グラウンド

創立者の新島 襄が文化教育の領域で深い影響を及ぼしてきた群馬県安中市とのさらなる連携の促進に向けて包括連携協定を締結しました。同日午後には協定締結記念として本井康博氏（元大学神学部教授）と北京オリンピック男子4×100mリレー銀メダリストの朝原宣治氏（2009年大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了）による講演を実施、また朝原氏のスポーツイベント（陸上教室）を開催しました。以降毎年、安中市で安中・同志社新島講演会を学校法人新島学園の共催で開催しています。



朝原 宣治氏によるスポーツイベント

同志社内の中学・高校生対象お菓子作り教室 〈同志社同窓会協賛〉

日程…2023年8月8日（火）

場所…女子中学校・高等学校 希望館地下1階 調理教室

同志社内の中学・高校生を対象にお菓子作り教室を開催しました。京都の洋菓子店「マールブランシュ」からパティシエの方をお招きし、お菓子作りを教えていただけるという贅沢な一日になりました。108名の応募があり抽選の結果40名が参加しました。



同志社内の中学・高校生対象お菓子作り教室

同志社オリジナル賛美歌PV（*）

2023年9月完成

同志社オリジナル賛美歌の

PVを撮影いたしました。

作詞…堀之内 涼さん（大学

商学部2年次生）

作曲…成田 和子教授（女子

大学学芸学部）

奏楽…佐川 淳教諭（中学校・

高等学校／パイプオル

ガン）

合唱…同志社学生聖歌隊、同志社グリーククラブ

「全同志社人がつなぐ150km」オリジナルTシャツのデザイン募集

日程…2023年11月

15作品の応募があり、最優秀

賞のデザインのTシャツを「全

同志社人がつなぐ150km」の

イベント参加者に配布しました。



オリジナルTシャツ



主の道を行こう ともに

同志社オリジナル賛美歌PV





最優秀賞…沖津 佑紀さん（女子大学学芸学部1年次生）

全同志社人がつなぐ150 km（*） 〈大学体育会陸上競技部協力〉

日程…2023年11月4日（土）

場所…大学 京田辺校地 陸上競技場

約250名の同志社人が協力して総走行距離150 km走破を目指しました。1500 m走、4×100 mリレー、小学生以下対象のかけっこ教室が行われ在校生、卒業生、教職員とその家族が力を合わせて見事目標を達成することができました。実施に際しては、同志社大学体育会陸上競技部の学生100名以上に準備から運営まで協力をいただきました。



参加者全員での集合写真

同志社創立150周年記念トークショー

日程…2023年11月29日（水）

場所…大学 今出川校地 同志

社礼拝堂

「卒業後の可能性は無限大——わたしたちが理系からマスコミへ進んだ理由——」という演題で、榎太一助教（大学ハリス理化学研究所）、山本健太氏（日本テレビ放送網株式会社アナウンサー）、横田舞氏（株式会社毎日放送報道情報局報道センター記者）の3名が在学生対象のトークショーを開催しました。最後には、参加した学生や生徒からの質問があり、榎助教と二人の先輩が優しく丁寧に答えてくださいました。

法人内各学校の学生、生徒、児童を対象とした「同志社創立150周年を盛り上げるアイデアコンテスト」〈大学広告研究会 a d d , s 共催〉

日程…2023年12月9日（土）

38個の応募があり、5個のアイデアを表彰しました。最



同志社創立150周年記念トークショー

優秀賞の企画は2024年度
に実施しました。

最優秀賞…「同志社オリジ
ナルトイレ用芳香剤の制作」

チーム名…「今田辺」 高田

友里子さん（大学文化情報学
部2年次生）、西田 楓さん（大
学経済学部2年次生）

法人内各学校の学生、生徒、児童を対象とした テレビCMコンテスト^(*)

日程…2023年12月

2023年度に開催した「同志社内在校生対象テレビC
M」コンテストでは21作品の応募があり、最優秀作品は2
024年4月にKBS京都の番組内で放映しました。

最優秀賞：チーム名「☆STELLA☆」西村 領真さん（大
学経済学部1年次生）、田谷 駿治さん（大学商学部1年次
生）、朝倉 美咲さん（大学商学部1年次生）、村元 柚
月さん（大学政策学部1年次生）、瓜田 心愉さん（大学心
理学部1年次生）



表彰者の集合写真

プロジェクション・マッピング^(*)

2022年度 日程…2022年11月22日（火）

場所…大学今出川校地

2023年度 日程…2023年12月12日（火）

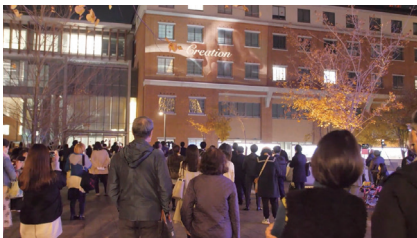
場所…中学校・高等学校

日程…2023年12月14日（木）

場所…女子中学校・高等学校

2022年、中学校の生徒がプロジェクション・マッピ
ングを制作し、大学今出川校地の彰栄館、良心館に投影し
ました。重要文化財である彰栄館には、「同志社の歴史」
をテーマにした時代ごとのキャ

ンパスの変遷を描いた作品が、
良心館には聖書やイエスキリス
トの降誕節にちなんだ作品が、
それぞれ投影されました。20
23年には、中学校の生徒と女
子中学校・高等学校の生徒が、
クリスマスをテーマにした作品
をそれぞれ制作しました。それ
らの作品は、中学校・高等学校



プロジェクション・マッピング



のグレイス・チャペルと女子中学校・高等学校の静和館に、
投影されました。

カウンタダウンボードの除幕式、各学校キャンパスにカウンタダウンボードを設置

日程…2024年7月17日（水） 創立150周年記念日の500日前

場所…大学 今出川校地 同志社礼拝堂

学生、教職員が集うチャペル・アワー内で、同志社創立150周年カウンタダウンボードの除幕式を行いました。カウンタダウンボードは、2025年11月29日の150周年記念日まで同志社内各学校に設置しました。



カウンタダウンボードの除幕式

2023年度アイデアコンテスト最優秀企画（匂い香作り教室）〈香老舗 松栄堂協力〉

日程…2024年8月24日（土）

場所…国際中学校・高等学校 コミュニケーションセンター

1クリエイティブゾーン

日程…2024年8月25日（日）

場所…大学 今出川校地 至誠館

S32教室

2023年度に開催した「同志社創立150周年を盛り上げるアイデア」コンテストの最優秀賞企画「匂い香作り教室」を実施しました。香老舗 松栄堂協力のもと、同志社内の小学生から大学生までが匂い香作りを体験しました。両日合わせて109名の学生・生徒・児童が参加しました。



匂い香作り教室

新島襄のラットランド・アピール150周年記念ツアー（*）

日程…2024年10月10日（木）～15日（火）4泊6日
訪問先…グレイス教会、フィリップスアカデミー、アモスト大学、オールドサウスチャーチ、ハーディー旧邸、コングリゲーションナルハウスなど

アメリカのアモスト大学やフィリップスアカデミー等を巡るツアーを実施しました。新島が日本でキリスト教主

義の学校を設立するための寄付を参加者にむけて訴えかけたラットランド・アピールから150周年にあたり、ヴァーモント州ラットランドのグレイス教会において10月13日に記念礼拝を執り行いました。27名の学生や生徒、卒業生、教職員、その家族が参加しました。



陶板（記念品）とツアー参加者一同

ペットボトル水『最裏級』の同志社創立150周年版ラベル〈大学広告研究会ad,s共催〉

2024年11月完成

2010年に販売開始した「最裏級」は大学広告研究会がネーミングしたのですが、団体からの申し出により創立150周年限定ラベルにデザインを刷新しました。



ペットボトル水『最裏級』の同志社創立150周年版ラベル

全同志社合唱祭（*）

〈創立150周年記念全同志社合唱祭実行委員会共催〉

日程…2024年11月9日（土）

場所…京都コンサートホール 大ホール

同志社内各学校の23の合唱団が参加し、単独・合同併せて15ステージの合唱が繰り広げられました。827名の出演者全員による同志社カレッジソングなどの全体合唱では観客も交え、大迫力の合唱となりました。聴衆は1,288名でした。

*ハリス理化学館同志社ギャラリー第32回企画展として、

「合唱の同志社—One

Purpose DOSHISHA 合

唱が紡ぐ150年 現在、

過去、未来—」が2024

年9月24日～11月17日まで

大学今出川校地 ハリス理

化学館同志社ギャラリー2

階企画展示室で開催され、

来場者は6,161名でし

た。



全体合唱





新島旧邸における八重茶会

〔大学茶道部共催、大学同志社社史資料センター協力〕

日程…第1回2024年10月19日(土)

第2回2025年2月22日(土)

第3回2025年6月1日(日)

場所…新島旧邸

大学茶道部との共催により行いました。掛軸には「紫気満」が掛けられました。「紫気」は吉兆の前触れを意味しています。同志社創立150周年の前触れを連想させます。菓子は同志社の徽章をイメージした「三友の集い」が用いられ、同志社人が絆を育むという思いが込められました。また茶会後には大学同志社社史資料センター調査員の案内による新島旧邸見学が行われました。



新島旧邸における八重茶会

新島裏の足跡を辿るアメリカツアー(＊)

〔一般財団法人同志社日本文化財団協賛〕

日程…2025年8月22日(金)～27日(水) 4泊6日

訪問先…アーモスト大学、グレイス教会、フィリップスアカデミー、アンドーヴァー、ラットランド、オルドサウスチャーチ、ハーディー旧邸など

同志社の源流を探るためのツアーを本井 康博氏(元大

学神学部教授)のガイドで行いました。8月23日(土)にはアーモスト大学ジョンソンチャペルにおける同志社創立150周年記念集会と4名の同志社中学生のスピーチを実施いたしました。24日には、

グレイス教会での礼拝と同志社による記念集会を実施いたしました。その後、八田 英二総長・理事長からグレイス教会の皆様にあ挨拶を行い、続いて同志社高等学校の4名の生徒が英語によるスピーチを行いました。



良心碑とツアー参加者一同

各学校のドローン撮影動画(*)

2025年10月完成

同志社創立150周年の2025年時点の各学校のキャンパスを記録として残すため、ドローン撮影を実施しました。



大学 今出川キャンパス

同志社の恩人 セイヴォリー、ハーディー、デ
イヴィスを語る会

—Remembering W.T.Savory, A.Hardy, J.D.Davis—
〈大学同志社社史資料センター、一般財団法人同志社日米文化財団共催〉

日程…2025年11月28日(金)

場所…大学 今出川校地 アーモスト館

大学同志社社史資料センター第一部門研究(新島研究)では、新島 襄がその生涯において様々な支援を受けた3名の方々のご子息をお招きし、特別研究会を開催しました。40名の参加がありました。

お招きしたのは、ウイリアム・T・セイヴォリー氏5代目子孫のアーサー・ブリガム氏、アルフィーアス・ハーディー夫妻6代目子孫のショーン・ハークネス氏、ジェローム・D・デイヴィス先生4代目子孫のエレノア・ラネイ氏です。第一部門研究(新島研究)運営委員の大鉢 忠大学名誉教授がスライドを用いて、3名のゲストとそれぞれのご先祖との関係を紹介し、ゲストからスピーチをいただきました。

同志社創立150周年記念フェスティバル
IWAKURA〈同志社同窓会協賛〉

日時…2025年11月29日(土)

場所…中学校・高等学校

大学、女子大学の学生団体など17団体によるワークショップや、キッチンカーの出店、チャリティコンサート、桂笑金氏による落語、佐藤 優氏(作家/大学学長特別顧問(東京担当))の講演会等を実施いたしました。晴天にも恵まれ、約2,000名の来場



佐藤 優氏



者にお越しいただきました。

同志社創立150周年記念式・献茶式（*）

日程…2025年11月29日（土）

場所…国立京都国際会館

まず、千宗室氏（裏千家第16代家元）による献茶式、その後、記念式を挙行いたしました。第一部では、賛美歌『主の道を行こう』、聖書朗読ならびに祈禱、「同志社設立の始末」朗読、式辞・挨拶・祝辞、祝祷などを行いました。



記念式

第二部では、新島襄に関するアニメーション（声優新島襄役…小林親弘さん、新島八重役…上田瞳さん（大学政策学部卒業）、福士卯之吉役…池田雄介さん（大学文化情報学部4年次生）、加納格太郎役…橋本剛さん（大学文学部4年次生））の挨拶&第一部上映、そして、八田英二総長・理事長による講演「創立200周年に向けてのメッセージ」と小原克博大学長による講演「同志社150年の歴史と精神を語り継ぐ」を

実施いたしました。約1,600名の皆様に参列いただきました。

同志社創立150周年記念祝賀会

日程…2025年11月29日（土）

場所…ザ・プリンス京都宝ヶ池

香里中学校・高等学校ダンス部によるダンスパフォーマンスで華やかに同志社創立150周年記念祝賀会の幕が開きました。八田英二総長・理事長による挨拶の後、テュービンゲン大学のカルラ・ポルマン学長とダイキン工業株式会社の上礼之名誉会長にご祝辞をいただきました。続いて、来賓紹介の後、和田喜彦大学キリスト教文化センター所長による食前の祈禱、野田遊小学校校長による乾杯により祝宴が始まりました。会場では楽しく歓談をする姿があちらこちらで見られ、会場は熱気に包まれました。最後に、大学應援團による演舞が披露され、次に瀧英次香里中学校・高等学校校長（学校法人同志社常務理事）から謝辞を述べて、賑やかな祝賀会が幕を閉じました。来賓や同志社教職員（退職者を含む）約1,000名の参加がありました。

ハーディーホールギター・コンサート（＊）

日程…2025年11月30日（日）
場所…大学 今出川校地 寒梅館ハーディーホール

ニューヨークでギタリストとして活躍をされているション・ハークネス氏（アルフィーアス・ハーディー夫妻6代目子孫）と同志社ギタークラブの協演によるハーディーホールギター・コンサートを行ないました。今回の同志社訪問で、祖先の名前の付いているハーディーホールでの演奏を希望され実現することになりました。約150名の来場者にお越しいただきました。



ハーディーホール ギター・コンサート

同志社創立150周年記念大型ステッカー、横断幕、幟、ミニ幟の設置

設置期間…2024年12月～2025年12月

各学校および同志社と協定を締結している自治体などに横断幕、大学今出川キャンパス、京田辺キャンパスには大

型ステッカーを設置しました。また、幟とミニ幟も同志社内各学校や同志社生協等に設置しました。横断幕の設置に協力いただいた自治体は以下のとおりです。

会津若松市、安中市、風間浦村、京田辺市、寝屋川市、函館市、福島県（五十音順）

同志社未来創造プロジェクト発行の広報メディア [Road to the 150th] Vol.1～Vol.4の発行

「Road to the 150th」は、同志社創立150周年を記念して企画・実施されるさまざまな事業をピックアップして、皆様にお伝えしていく同志社未来創造プロジェクト発行の広報メディアです。2025年11月29日に迎える150周年という節目を、同志社の建学の理念とともに歩んだ軌跡を振り返り、未来に向けた一歩を踏み出す機会とすべく、同志社とかわるすべての人が、同志社の過去、現在、未来についてあらためて考えるきっかけとなることを目指して作成しました。



大学 今出川キャンパスの
大型ステッカー



未来に歴史の記録を手渡す

—『同志社百五十年史』の編纂を通じて—

同志社創立150周年記念事業の一つに、学園の歩みを次代へ継承する『同志社百五十年史』（全3巻）の編纂があります。今回の座談会は、「各学校と関連団体」の執筆に携わった教職員が集い、史料発掘の苦労や各校の個性を再発見した喜び、現在編纂中の「通史Ⅰ」「通史Ⅱ」への展望などを語り合いました。歴史を単なる記録に留めず、未来を拓く糧としてバトンを手渡そうとする編纂現場の、熱い思いが浮かび上がる時間となりました。



(出席者)

編纂委員長・編纂責任者（通史Ⅰ）

大学同志社社史資料センター所長／文学部教授

小林 丈広
こばやし たけひろ

編纂委員・編纂責任者（各学校と関連団体）

女子大学特任教授

大島 中正
おおしま ちゆうせい

編纂委員・編纂責任者（通史Ⅱ）

大学名誉教授

山田 史郎
やまだ しろう

執筆者（各学校と関連団体、通史Ⅱ）

中学校・高等学校元校長

山崎 敏昭
やまざき としあき

執筆者（各学校と関連団体、通史Ⅱ）

女子中学校・高等学校教諭

木咲 利枝子
きさき りえこ

執筆者（各学校と関連団体）

女子大学学術研究支援課長

井上 亮
いのうえ りょう



小林 文広

大学社史資料センター所長／文学部教授

社史編纂に込めた同志社人としての決意

小林 ●本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。私は大学社史資料センター所長を務めております、文学部の小林です。この度、同志社創立150周年記念事業の一環として、『同志社百五十年史』の「各学校と関連団体」が、創立150周年記念日である2025年11月29日、無事に上梓されました。編纂責任者を務められた大島先生、そして200名に上る執筆者の皆様の多大なるご尽力、また編纂室スタッフの献身的な働きによってこの日を迎えられたことは、編纂委員長として大きな喜びです。

関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本日は「各学校と関連団体」の完成を記念して、執筆に携わられた皆様に現場での苦労話や完成後のご感想を伺い、現在編纂中の「通史Ⅰ」

および「通史Ⅱ」へとつないでいく機会になれば幸いです。まずは自己紹介と、今回のご担当についてお聞かせください。

大島 ●大島と申します。女子大学の表象文化学部日本語日本文学科で、日本語学を担当しています。現在の身分は特別任用教授で、近現代日本語の語彙・表記が専門領域です。2005年から「近代日本と同志社」という科目も担当しています。また、大学では「日本語文法」「日本語学講読」を担当しています。女子大学史料センターの企画展示にも20年近く関わってきました。また、同センターの叢書Ⅳ『山本覚馬建白「管見」―釈文・訓み下し文・現代語訳・英語訳―』の訳者の代表を務めさせていただきました。

山田 ●主に戦後の同志社を扱う「通史Ⅱ」の編纂責任者を務めている山田です。私は大学文学部で文化史学の教員をしていました。専門はアメリカ史で、同志社の歴史を専門的に研究してきたわけではありません。この大役を担う資格があるのかと自問しましたが、1973年に同志社大学に入学し、84年から教員として歩んできた約半世紀、同志社に育てられた人間として、感謝を込めてこの歴史をまとめてみようと考えています。

山崎 ●私は1980年に新卒で入社し、2022年まで43

年間にわたり中学校・高等学校の教員を務めました。最後の4年間は校長という立場にありましたので、編纂の話が来た際も、立场上、書かざるを得ないという状況で引き受けることになりました。「各学校と関連団体」、さらに現在準備中の「通史Ⅱ」も含め、高等学校の部分は私が引き受け、中学校の部分については現職の竹山 幸男副校長と分担しました。私自身ギリギリ昔の人を知っている世代として、苦勞しながら昔の史料を一から発掘しました。

木咲 ●女子中学校・高等学校で社会科を担当している木咲です。私は1974年に女子中学校に入学し、中学2年生の時に同志社創立100周年、中学3年生で女子部100周年を経験しました。86年に母校へ教員として戻り、現在に至ります。在学中に100周年を、そして教員として150周年を迎え、こうして編纂に関わらせていただけたことを、本当にありがたく光栄に思います。山田先生が仰ったように、私もまた同志社に育てられた一人として、これまでの自分自身の歩んできた道を振り返るような思いで編纂に携わらせていただきました。

井上 ●女子大学学術研究支援課の井上です。2022年10月、現職に着任しました。女子大学内での原稿執筆の役割分担はそれ以前に決まっております、退職した前任者がまとめ

てくれた原稿を引き継ぐ形で、校正や取りまとめを担当しました。私は1975年、つまり同志社100周年の年に生まれましたので、今回の百五十年史編纂事業に少しでも関われたことを、大変光栄に思っています。

「各学校と関連団体」が描き出した同志社の「現在地」

小林 ●それでは、先日刊行された「各学校と関連団体」につきまして、まず編纂の中核を担っていただいた大島先生から、特色やアピールポイントをお願いします。

大島 ●各学校の「現在地」のみならず、各学校と唇齒輔車の関係にある関連団体の「現在地」もあわせて、同志社の「現在地」を歴史的奥行の中からとらえ、コンパクトに記述したことです。

小林 ●編纂にあたって、注意を払われた点や苦勞をされた点はどこでしょうか。

大島 ●「現在地」ですから、当然のことながら、現時点で存在する学校のみを対象としました。関連団体の方は学校の数をはるかに上回ることにありますが、今回は、限られた時間で沿革の記述をしていただけの可能性が高いと判断した団体のみを対象にしました。日本語は、正書法が確立



大島 中正

女子大学特任教授

していないために、表記の方針をゆるやかにせざるを得ませんでした。編集後記には、新島 襄の弟双六への書簡の言葉「日本人の斯も漢字を用ゆるは大なる誤なるべし」と、言語学者の故玉村 文郎（大学名誉教授）の「日本人が〈漢字に使われる〉のではなく〈主体的・合理的に漢字を使う〉ようになることが、短所を克服する道であり、日本語の健全な発達を促すことにつながると考えられる」という言葉を引用しておきました。私自身、編纂作業中に改めて痛感した次第です。文章の書きぶりといいますが、文章体を統一するようなことは無理と判断して、編纂作業を進めました。しかし未来の年史編纂では、AIを活用して文体を統一することも可能であろうかと思えます。文体や表記の「現在地」も、後生に知ってもらえることになりました。

小林 ●各執筆者の個性を活かすために、工夫された点はありませんか。

大島 ●200名の執筆者各位には、基本

事項の他に特記事項を自由に選択して記述していただくことにしましたので、それぞれの学校・団体の特徴や執筆者各位の関心のあり方が表れていると思います。執筆者相互が情報や意見などを交換できるような機会を設けるということはしませんでした。ですから、刊行されたものをご覧になって「うちもこんなことを記述しておきたかった」などといった感想をお持ちになった執筆者もいらっしゃるかもしれません。

臨場感あふれる学園の歩みを伝えるために

小林 ●では執筆者の皆様にも、「各学校と関連団体」についての各校での執筆分担や、特に苦労された点を伺いましょう。

山崎 ●香里中学校・高等学校や国際中学校・高等学校などは、近年何十周年という節目で編集委員会が機能しており、蓄積された史料の上に乗る形で進められたと聞きました。しかし、岩倉の中学校・高等学校にはそうした体制がなかったため、退職間近だった私と竹山副校長で背負う形になりました。特に困難だったのは、史料探しです。2010年の中・高統合の時期、中学校の岩倉移転に伴って高等学

校の倉庫の半分を急いで空ける必要がありました。その際、高等学校側の古い史料を整理する時間がなく、そのままかなりの量が廃棄され、結果として史料が散逸してしまったことが判明したのです。私は歴史家ではありませんので、史料探しも一からの独学でした。大学社史料センターには大変お世話になりながら、それでも不足している部分は、卒業生や昔の教職員の方々30〜40名にインタビューを行い、聞き書きで当時の空気感を補填していきました。この作業に1、2年を費やしましたが、苦しくも非常に楽しい思い出です。また戦前の記述については『同志社九十年小史』と『同志社百年史』を読みました。並行して、『同志社時報』には戦前の同志社中学、同志社普通学校の思い出が書かれていますので、そこに残された先輩方の熱い思いをどう汲み取るかについても試行錯誤しました。

木咲 ●女子中・高では前校長の辻村 好先生の肝いりで、元校長の森 一郎先生が10年ほど前から、150周年に向けた女子部の年表作りを地道に進めておられました。そして2022年4月、本校の百五十年史編纂委員会が発足し、その直後に大学社史料センターから今回のご依頼をいただきましたので、「各学校と関連団体」は森先生を中心に、私たち現任教員4名のチームで分担執筆を行いました。現

在は、森先生や退職教員、専門知識を持つ卒業生も交え、2巻の「通史Ⅱ」と女子中・高の150周年記念誌の刊行に向けて月に一度の検討を重ねています。

小林 ●共同執筆でのご苦労はありましたか。

木咲 ●沿革については森先生が執筆され、現況については現役チームで分担しました。私自身は、「各学校と関連団体」に関しては執筆というより、写真の発掘・選定や、主に全体の整合性を確認する役割を務めました。

井上 ●私は事務部門の担当として今回の編纂に関わりました。異動してすぐでしたので、課の全体の知識などはまだ不十分でしたが、前任者がまとめてくれた原稿を読むことで、沿革や現況についての理解を深めることができました。事務部門においても、女子大の今出川から京田辺への校地移転といった大きな環境変化の際、どうしても史料が散逸してしまった部分がありました。近年は文書保存に関するルールがしっかり定められています、ある特定の時期の史料がごっそりないという状況に直面したことから、組織の記録保存についての課題が見えたかと思います。

小林 ●ありがとうございます。今回の「各学校と関連団体」には、各校の教育現場の息遣いが感じられる記述も多いですね。特に教員として執筆されたお二人は、生徒たちの活

動をどう調べて盛り込まれたのでしょうか。



山崎 敏昭

中学校・高等学校元校長

山崎 ●戦後の同志社の敷地周辺の岩倉は何もない土地でした。そのような環境で、初代の山田 貞夫校長は旧制高等学校のような学問レベルを目指しました。非常に特徴的なカリキュラムがあり、当時から生徒会や宗教部が非常に活発に動いていました。この、何もないところから作り上げていった時代のエネルギーや生徒たちの空気感を何とか表現したいと考え、90代や80代の卒業生に何人もインタビューしました。叡山電車の八幡前駅から白鷺の舞う田んぼの中を歩いて通学したといった、貴重なエピソードの数々は宝物です。もう一つは、同志社周辺のやはり何もなかった岩倉の発展史も表現したいと考えています。「各学校と関連団体」では枠組みの都合上、一般的な記述に留めた部分もありますが、現在執筆中の「通史Ⅱ」では、岩倉の発展と同志社高等学校の歩みが重なって、最後は地下鉄が通るように

なった後のことまでを、より生き生きと描きたいと思っています。

木咲 ●女子中・高は現在、生徒数が約1500名、卒業生は約2万5千人を超えました。学校にとって生徒は主人公であり、卒業生はかけがえない宝です。今回の「各学校と関連団体」でも、行事やクラブ活動を通じて生徒たちの生き生きとした姿を伝える内容としています。あわせて、現在編纂を進めている「通史Ⅱ」についても、卒業生が手にしたときに当時の楽しかった日々を思い出し、母校への理解と誇りを深めていただけるよう工夫しました。

小林 ●井上さんは事務職員として関わられて、感じられたことはありますか。

井上 ●事務機構については規程の変遷など、どうしても事実を羅列するような記述になりがちです。先生方が生徒さんの活気ある姿を描かれるように、事務部門でもそこで実際に働いていた人々の声を反映させたかったのですが、やはり難しさを感じました。

「各学校と関連団体」が示す同志社の個性

小林 ●そうしたご苦勞を重ねて完成した「各学校と関連団

体」を読まれて、率直なご感想をお聞かせください。

山崎 ● ようやくほっとしたという気持ちがあるのと、「通史Ⅱ」に向けてまだまだやるべきことがありますので、またご意見をいただきたいというところです。

木咲 ● 非常に立派な本が届き、チーム全員で感慨に浸りました。その圧倒的な存在感にも驚きましたが、何より全体を通して読むと、法人の各学校やさまざまな部署の個性が際立っていて面白く、これこそ同志社らしさだと感じました。同じ学内にいながら知らなかった各学部の改組の過程やご苦労、また同志社教会、同志社生協の歩みなど、関連団体の記述も大変興味深く拝読しました。他の中・高と共通するルーツを再確認するとともに、それぞれの学校が歴史の中で高め合ってきた歩みに共感しました。本校は1876年の創立以来、女子部の伝統を大切に受け継いでいます。「各学校と関連団体」「通史Ⅱ」を通じて、そうした女子中・



木咲 利枝子

女子中学校・高等学校教諭

高の良さを皆様にお伝えできたらと願っております。

井上 ● 事務部門にスポットを当てていただいたのは非常に画期的だと思います。現在の各部署の業務内容がよくまとめられていますので、10年後、20年後に、今の状況を知りたい人にとって、大変史料価値の高い一冊になったのではないのでしょうか。

「通史」編纂への挑戦〜多角的な視点で歴史を描く

小林 ● ありがとうございます。ここからは現在進行中の「通史」の編纂について伺います。「通史Ⅰ・Ⅱ」では、同志社の始まりから現在までを扱います。まず「通史Ⅱ」の責任者である山田先生、現在の編纂方針や見所を教えてください。

山田 ● 私が意識しているのは、評価の高い『同志社百年史』（1979年刊行）です。その編纂に携わられた大学文学部の今中寛司先生は『同志社大学広報』の中で「『同志社百年史』の成立」と題して、こう書いておられます。「『同志社百年史』の編纂に際して、最も感銘を受けたことの一つは、同志社には同志社の事歴について深い見識と広い学識をお持ちの先生方が非常に多く居られたことである」と。



山田 史郎

大学名誉教授

残念ながら私の知る範囲では、当時ほど社史を熟知された方は、今は非常に少ないと思います。しかし1950年代以降の歴史であれば、当時を知る教職員や卒業生、つまり生き証人がまだおられます。山崎先生がされたように、そうした当事者の記憶に耳を傾け、残された記録や史料を読み込み、単なる学校発展の歴史ではなく、多様な角度から生き生きとした学園の歩みを記述していただきたいと、執筆をご担当の方々にお願いしてきました。今中先生は、『同志社百年史』が「真っ向から大上段に、同志社の正史をねらった」と書いておられますが、私が編纂する通史は、真っ向からの正史というよりは、横から、あるいは下からの多角的な視点を大切にしたいと考えています。幸いにも、

執筆者の先生方には趣旨を汲んでいただき、意欲的な原稿を頂戴しつつありますので、百年史とは違うものができたら嬉しく思います。

山崎 ●山田先生のおっしゃる正史へのア

プローチの違いは、非常によく分かります。戦前の同志社普通学校、中学から戦後の中・高の歴史について『同志社九十年小史』を書かれた加藤 延雄先生や『同志社百年史』を書かれた久永省一先生は、先頭に立ってキリスト教教育を牽引された当事者であり、その格調高い文章は、まさにお二人が歩んできた正当な歴史そのものでした。力不足の私のような一教員に、そのような社史はとも書けません。むしろ史料を発掘する中で、私自身にとつての発見の喜びや驚きを記述したい。それは真っ当な歴史とは少し違うかもしれませんが、150年目の新しい視点として意味があるのではないかと考えています。

井上 ●「通史Ⅱ」の執筆について女子大学では名誉教授の先生が担当しておられます。女子大史料センターにお問い合わせをいただき、今まで出された書籍の内容に誤りが見つかかることもあります。通史編を作ることににより、内容がさらにアップデートされていくだろうと期待しています。

小林 ●大島先生は、通史編に何を期待されますか。

大島 ●時代の流れ、うねりの中から同志社の歩みをとらえることの面白さ、楽しさが伝わってくるような内容になることを期待しています。すべての巻が出そろってからの話になるかと思いますが、巻をまたがって関連項目を相互に

参照できるといいですね。紙媒体ではなくデジタル媒体なら可能かと思います。

未来へ歴史をつなぐ「百五十年史から二百年史へ」

木咲 ●「通史Ⅱ」では記述の分量も増えましたので、女子中・高では時代ごとに3名で分担しています。私は最も新しい時代を担当していますが、膨大な史料の取捨選択に苦労しています。一方で、古い時代を担当する先生は、逆に「史料が少なすぎる」と苦心されており、別の難しさに直面されています。私は日本史の教員として、戦後日本の歩みや世界情勢などの時代変化を背景としながら、物語として構築しようと努めました。が、なかなか容易ではありません。客観的な記録と個人としての解釈をどう折り合わせるかというジレンマもあります。そのような中で、やはり森元校長が作られたあの年表が本当にありがたく、それをベースに原典にあたりつつ、女子中・高の図書情報センターにある過去の年報などの史料と向き合って執筆に励みましたが、平日は校務に追われ、休日や休暇を返上しての作業ですが、学生時代の文化史学専攻での学びを思い出ししながら、歴史をひもとく面白さを味わっています。現在はこれらと



井上 亮

女子大学学術研究支援課長

並行して、女子中高の編纂委員会で『同志社女子中学校・高等学校の百五十年史』の編纂も進めているところです。

小林 ●女子大学でも独自の150周年事業が進んでいると伺っています。

井上 ●女子大学では2026年10月24日の創立150周年に向け、記念事業の一つとして『同志社女子大学のはじまり』という書籍を編纂しています。キリスト教・同志社関係科目の授業でも利用してもらえよう、学生が手に取って読みやすいものを目指しており、創立125周年時の記念写真誌の内容を検証しながら、学生・教職員・卒業生などが建学の精神や沿革を理解できる構成にしています。「通史Ⅱ」の女子大学担当の執筆者にも加わっていただいていますので、内容突き合わせ、最新の知見を共有しながら連携して進めています。27年4月に発刊予定です。

小林 ●百五十年史の編纂事業では、女子大学史料センター

にもお世話になっています。大学社史資料センターがどこまで協力できたかは私も案じているところですが、大学社史資料センターへの要望、期待などがあります。

大島 ●社史の研究会やその成果を公表する刊行物でも、今回の年史をアカデミックな立場から批判的に取り上げていただきたいと思います。慶應義塾、早稲田、立教大学等の年史との比較なども試みていただけると、将来の年史編纂事業の参考になるかと思います。

小林 ●百五十年史の編纂事業では数々の課題もありましたが、この本がときを経て徐々に評価を得て、価値を持つようになればありがたいと思います。皆様には引き続き、通史編へのご協力をお願いします。最後に、未来へ歴史をつなぐ思いをお聞かせください。

山田 ●私立学校は独自の理想と理念で成立しています。その理念をどう追求し、どれほど達成でき、あるいは何が課題として残ったのか。それを歴史として確認し続けることが、私学の未来を展望することに他なりません。私たちが苦勞してこの本を作る意味は、まさにそこにあります。自分の学校の歴史をきちんと語れる同志社であり続けてほしい。通史編が数年後に刊行されてこの仕事が終わった後も、そうした姿勢が同志社の中に根付いてほしいと切に願います。

す。次は二百年史、その先へとつながっていくはずですから。

大島 ●本巻を手にした、まだ見ぬおそるべき後生にも、あたたかく厳しく、お読みいただきたいと願っています。紙媒体の年史は今回が最後になるかもしれませんが。先に言及しました文体や表記の問題も後生の叡智によって解決しているかもしれない等と、想像を楽しんでいます。

小林 ●先生方の多大なる情熱とご尽力に、改めて深く感謝申し上げます。本日はありがとうございました。

「同志社創立150周年記念 フェスティバル in IWAKURA」が 開催される

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

2025年11月29日（土）、同志社中学校・高等学校（岩倉キャンパス）を会場に、「同志社創立150周年記念フェスティバル in IWAKURA」が盛大に開催された。本フェスティバルはこの佳節を祝うとともに、在校生や卒業生だけでなく、日頃から多大なご理解、ご支援をいただいている地域の皆様への感謝を表す機会として企画された。午前10時の開幕から午後1時30分の閉幕まで、グレイス・チャペルや魁ホールなどを舞台に、音楽、落語、アニメーション、講演、ワークショップなど多彩なプログラムが展開され、会場は熱気に包まれた。

第15回同志社チャリティーコンサート——

グレイス・チャペルでは「第15回同志社チャリティーコンサート」が行われた。同志社ジュニアラグビーフットボ

ールクラブ小学部によるカレッジソングに続き、スペシャルゲストとして登壇されたヴァイオリニストの石上真由子さんが開会の挨拶をされた。石上さんが同志社中学2年生だった2006年、当時の教頭から勧められて「社会の役に立ちたい」という思いで始めたのが、このコンサートである。障がいの有



チャリティーコンサート

無に関わらず、音楽を楽しむことと「絆」をテーマに、同志社内の各学校から生徒、保護者、教職員、卒業生など、多くの方々のボランティアスピリッツに支えられて続いてきた活動である。これまで14回開催され、合計600万円以上が福祉施設や震災復興支援の寄付金として届けられた。石上さんは、自身のアレンジによる「Happy Birthday to You」を演奏し、同志社創立150周年という慶事を祝った。続いて、法人各校の生徒や父母の会によるコーラス、大学ハンドベル・クワイアなど、多様な個人・団体による演奏が披露され、会場を美しい音色で満たした。当日の募金（185,157円）はすべて京都新聞社会福祉事業団へ寄付がされた。チャペル内では作業所の手づくり品のバザーも開催され、コンサートの理念である「共に生きる」

という精神が、イベント全体に温かく浸透していた。

落語とアニメーション人気声優クロストーク―

魁ホールでは、中学から大学までを同志社で過ごした落語家・桂笑金さん（2015年大学経済学部卒）による妖怪小咄と創作落語「茨木童子」が演じられ、会場を笑いの渦に巻き込んだ。



落語

続いて同ホールでは、同志社創立150周年記念アニメーション『二百年の夢を見た。』第1章の上映と、出演した声優および、オーディションを経て声優として参加した本学の学生によるクロストークが行われた。このアニメーション作品は、同志社創設者の新島襄について、学園内外のより多くの人に広く、深く知っていただくため、10分3章立てで制作されたものである。クロストークは森田喜基准教授（大学キリスト教文化センター）が司会を務め、新島襄役の小林親弘さん、新島八重役の上田瞳さん（大学政策学部卒）、福士卯之吉役の池田雄介さん（大学文化情報学部4年次生）と加納格太郎役の橋本剛さん（大学文学部4年次生）が登壇した。

登壇者たちは、収録を通じて感じた新島襄の人物像や同志社の精神について語り合った。新島襄役の小林親弘

さんは、国禁を犯して単身渡米し、帰国後に大学設立を目指した新島の行動力について「すごい勇氣と諦めない心があったと思う」と、その精神力に感銘を受けたと述べられた。また「自責の杖」事件に触れ、「自分に対してあそこまで厳しくできる人は、今は少ない」と、新島の高潔な人間性にも言及した。八重役の上田瞳さんは、新島襄を「聖書の時間に習う人」というイメージから、アニメーションを通して身近に感じられるようになり、改めて人としての強さを感じたと述べられた。同志社という学校の魅力について、声優を務めた学生からは「自由な校風」が挙げられた。学生一人ひとりが責任を持って自己決定できる校風だからこそ、夢に向かって「のびのびとやってこられた」という感謝の言葉も聞かれた。

創立150周年の記念作品が多くの人々の目に触れることに、出演者たちは強い責任と喜びを感じていると語った。声優志望の学生たちも、この作品に出演できたことを運命と捉え、熱意をもって制作に臨んだ様子を熱く語った。

なお『二百年の夢を見た。』は、同志社創立150周年記念ホームページにて全編（第1章〜第3章）が公開されている。

佐藤優氏講演会

「激動する国際情勢と同志社の進路」――

クロストークに続いて魁ホールでは、作家であり同志社

大学学長特別顧問（東京担当）である佐藤 優氏（1985年神学研究科修了）による講演会「激動する国際情勢と同志社の進路」が開催され、こちらも大盛況となった。

佐藤氏はまず、現在の国際情勢には、米国の政治思想や軍事的パワーバランスの変化が絡み合っていると述べた。

特にトランプ大統領の思想的背景には、第二次世界大戦後にアメリカが主導したグローバリゼーションや民主主義などは普遍的価値ではないとし、アメリカを建国当時の理念に立ち返らせようとする強い意識があったとした。建国時の理念とは、神との特別な契約で選ばれた民だけが住む「メンバシップ・オンリーの国」という強い選民意識と、勤勉さを重んじる倫理観であると解説。トランプ氏の姿勢は、国際協力よりも自国の利益と生産を最優先する保護主義路線への回帰を示唆していると分析した。

一方、ロシアや中国の指導者は、アメリカが国際秩序を主導する一極集中の時代は終わり、国際秩序の棲み分け、つまり多極化が進むと考えていると述べた。つまり複数の大国が国益を基盤とした独自の戦略を追求することによって影響力を持ち、国際社会の構造が根本から変化しながら、大きな転換期を迎えているという現状分析がなされた。

その上で、日本が国際社会に対して取る対応の多くには、法律や官僚的な手続き、教育の軽視が影響していると指摘。大学への国家予算が低すぎることを例に挙げ、公的支援体制が国際水準に達していないと述べた。また日本では英語

教育ではなく、日本語による高等教育こそが独自の思考を生み出し、新しい着想を育むために不可欠であると説き、教育に対する意識改革の必要性を訴えた。さらに、教育における「厳しさ」の再評価も促した。

講演の終盤、佐藤氏は同志社が進むべき道について、創立者新島 襄の精神を継承することの重要性を訴えた。新島は神学や政界で大きな業績を残すこともできた人物でありながら、キリスト教精神に基づいて社会の困難な問題や同志社の基盤作りに奔走したとして、その強い使命感を評価。その上で、新島の精神の継承とは「我々も目立たなくてもいいし、世の中からそんなに評価されなくてもいいが、自分の持つ使命を貫いていくこと」であると語り、良心教育の重要性を改めて強調して、講演を締めくくった。

多彩な体験プログラム

魁ホール以外でも、フェスティバルは多様な企画で来場者を楽しませた。体育館（雄飛館）などでは、各団体によるお子様やファミリー向けのワークショップが展開された。京都ハンナリーズや京都の洋菓子店、おもちゃ作家、大学からはDERCロケットサークル、書道部、雅楽会、女子大学からは競技かるた部や草月流および小原流華道部など、運動、芸術、学術などにわたる17団体が参加。会場内では、同志社オリジナルグッズが入手できるスタンプリーも開催され、来場者は各ブースを巡りながらイベントを堪能した。



大学 書道部



女子大学 競技かるた部

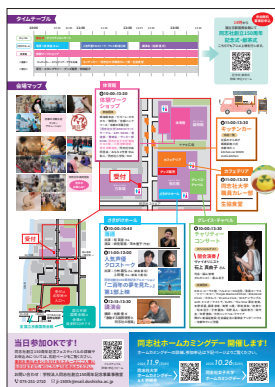
またカフェテリアでは、職員有志による「大学職員カレール部」が名物カレールイスを提供し、来場者による長蛇の列ができた。京田辺校地で行われるクローバー祭で2014年から続く活動で、利益を同志社大学の奨学金に寄付されている。中学校・高等学校の調理室を借りて早朝から仕込みを行うなど、学生の学びを支援する温かいボランティア精神が、フェスティバルを裏から支えていた。

本フェスティバルでは音楽、歴史、国際情勢、そして未来を担う学生たちの熱意が交差し、同志社が良心教育の継承と国際主義の深化に向けて、新たな一步を踏み出す貴重な機会となった。

開催にあたっては、半年以上前から計画を重ね、オンラインにて何度も打合せを行い、当日を迎えた。同志社未来

創造プロジェクトメンバーをはじめ、中学校・高等学校の教職員、同志社内各学校からの協力スタッフ、同志社同窓会スタッフおよび同志社中高同窓会のスタッフ、アトツギ緑日関係者、大学・女子大学からの参加団体、同志社大学サッカー部DUS、チャリティコンサート実行委員会、障がい者福祉施設スタッフ、また、株式会社ロゴスコープレーションからの備品借用の協力など、多くの支援の輪が広がり、協力者・支援者は総勢255名にのぼった。

本フェスティバルに参加いただいた関係各位、皆様のご協力と“志”が大きな“和”となり、同志社創立150周年を多くの皆様と共に祝うことができたことを深く御礼申し上げます。そして、ご来場いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



別 寄 稿

同志社創立150周年

記念式・献茶式が開催される

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

2025年11月29日（土）14時、国立

京都国際会館において同志社創立150

周年記念式・献茶式を執り行い、来賓

や同志社教職員（退職者を含

む）、卒業生など約1,600

名の参加があった。遠方にお

住まいの方などのために、

式典の様子をライブ中継で配

信し、延べ1,200件の視

聴があった。また、式典では

大学学生支援センターの協力

により、学生による手話通訳、

パソコン通訳を行った。当日

の様子は同志社創立150周



記念式会場



年記念ホームページでご覧いただける。

同志社創立150周年記念献茶式

榊 太一助教（大学ハリス

理化学研究所）の総合同会に

より、裏千家第16代家元 千

宗室氏による献茶式が執り行

われた。家元が献茶をはじめ

られると会場は静寂に包まれ、

厳肅な雰囲気が漂った。献茶

の後、家元からご挨拶があり、

その中で「新島 八重が裏千

家十三世・圓能斎鉄中直門の茶道家として活躍され、今回

の献茶には八重手作りの茶碗を使用して、お茶を新島先生

に捧げさせていただいた。」と述べられた。

同志社創立150周年記念式（第1部）

記念式第1部は礼拝形式で行われた。佐川 淳中学校・

高等学校教諭による前奏の後、中澤 圭中学校・高等学校

校長の司会ではじまり、同志社学生混声合唱団C・C・D.

と同志社内中高聖歌隊による同志社オリジナル賛美歌「主

の道を行こう」の合唱、村山 盛章大学神学部長による祈祷、



裏千家第16代家元 千 宗室氏 ご挨拶

川崎 清史女子大学長による設立の始末の朗読と続いた。

八田 英二総長・理事長は式辞の中で、「同志社は創立150周年を迎えました。節目の150周年ですが、これは単なる通過点ではなく、過去を振り返り、現在を見つめ直し、未来への展望を定める好機である。知育・徳育・体育の三位一体の均整の取れた人物育成を目指し、とりわけキリスト教主義を徳育の基礎とする同志社は、これからも良心教育による人物育成に専念することを高らかに宣言する。」と述べた。

次に、小原 克博大学長は挨拶の中で、「新島



同志社学生混声合唱団C.C.D.、同志社内中高聖歌隊による合唱



八田総長・理事長 式辞

の掲げたキリスト教に基づく教育、あるいは自治自立、智徳併行、自由といった理念は決して古びることなく、社会の様々な場で活躍し、社会に変化をもたらす人々を生み出してきた。同志社150年の歴史は、先達が遺した多くのものによって築かれ、世代を超えて語り継がれ、引き継がれてきたものであり、私たちもまた、その営みを引き継ぎ、未来を切り拓く、志高い人物を育て続けることを誓う。」と述べた。

その後、文部科学大臣松本 洋平氏代理の文部科学省高等教育局私学部長小林 万里子氏、日本私立大学連盟会長・早稲田大学総長の田中 愛治氏、キリスト教学校教育同盟理事長・立教大学総長の西原 廉太氏、ア



キリスト教学校教育同盟理事長・立教大学総長 西原 廉太氏 ご祝辞



小原大学長 挨拶

ーモスト大学長 マイケル・A・エリオット氏代理の学長補佐のサムエル・C・モース氏からご祝辞をいただいた。

続いて来賓として、同志社内各学校の所在する自治体の首長である、西脇隆俊京都府知事、松井孝治京都市長、上村崇京田辺市長、谷口雄一木津川市長が紹介された。また、海外関係の来賓として、テュービンゲン大学のカラ・ポルマン学長、AKP同志社留學生センターのライナス・ヤマネ所長、テュービンゲン大学同志社日本研究センターのミヒヤエル・ヴァフトウカ所長、スタンフォード日本センターのマイケル・ヒュー所長、京都アメリカ大学コンソーシアムのコーディ・ポールトン所長、ヌエバ校元教諭のシンシア・コースト氏、アルフィーアス・ハーディー夫妻6代目子孫のショーン・ハークネス氏、ジェローム・D・デイヴィス先生4代目子孫のエレノア・ラネイ氏、ウイリアム・T・セイヴォリー氏5代目子孫のアーサー・ブリガム氏の紹介があった。

次に、会衆一同でカレッジ・ソングと頌栄を合唱し、山下智子女子大学宗教部長の祝福、オルガンの後奏で第1部を終えた。

同志社創立150周年記念式（第2部）――

第2部では、同志社創立150周年記念アニメーション

の新島襄役の小林 親弘さん、新島 八重役の上田 瞳さん（大学政策学部卒）、公募により選ばれた福士 卯之吉役の池田 雄介さん（大学文化情報学部4年次生）と加納 格太郎役の橋本 剛さん（大学文学部4年次生）によるスピーチがあり、続いてアニメーション『二百年の夢を見た。』第1章の上映があった。

その後、八田 英二総長・理事長が「創立200周年に向けてのメッセージ」と題して講演され、「同志社の教育の特徴は「知育・徳育・体育」の三位一体に基づくバランスの取れた人材育成にあり、これを象徴する同志社の徽章や小学校の校歌にその根幹が反映されている。さらに、幼稚園から大学・大学院に至る一貫教育のシステムを通じて好循環の中で良心教育を受けた学生が社会で「地の塩、世の光」として活躍し、次世代にも同志社教育を望む環境を構築することが同志社の未来像である。」と述べた。続いて小原 克博大学長が「同志社150年の歴史と精神を語り継ぐ」という演題で話をした。その中で、「大学設立の旨意では同志社の過去・現在・未来が物語られていた。設立



アニメーション上映

の旨意が投げかけた挑戦を受けとめ、これからの時代に本学が歩むべき道筋として新たな中核的ビジョンとして「共に知る、共に変わる With a Good Conscience」をとりまとめた。これから新しい物語を紡ぎ上げ、次の時代を切り拓く、新たな同志社オリジンを生み出す決意を新たにしたい。」と述べた。

最後に、川崎 清史女子大学長による閉会の挨拶があり、「創立以来、同志社は新島 襄の建学の精神のもと、「良心を手腕に運用する人物の育成」を礎として歩んでまいりました。その志は、時代を超えて私たちの中に脈々と息づき、次の時代、そして創立二百周年へと確かに受け継がれていくものと確信いたします。」と述べ、参加者への謝辞があり、同志社創立150周年記念式の幕を閉じた。

同志社創立150周年記念祝賀会が 開催される

2025年11月29日（土）17時30分、ザ・プリンス京都宝ヶ池において同志社創立150周年記念祝賀会を執り行い、来賓や同志社教職員（退職者を含む）約1,000名の参加があった。

オープニングアクトとして、香里中学校・高等学校ダンス部によるダンスパフォーマンスで華やかに祝賀会の幕が開

いた。目の前で展開される迫力のあるダンスに圧倒された。ダンスの後には、同志社創立150周年記念式・献茶式の総合同会に続いて司会をいただいた、榎太一助教（大学ハリス理化学研究所）から八津川ひなの副部長にインタビュを行うという一幕もあった。

次に、八田 英二総長・理事長による挨拶の後、テュービンゲン大学のカルラ・ポルマン学長とダイキン工業株式会社の井上 礼之名誉会長にご祝辞をいただいた。ポルマ



テュービンゲン大学 カルラ・ポルマン学長
ご祝辞



ダイキン工業(株) 井上 礼之名誉会長 ご祝辞



榎助教から八津川副部長へのインタビュー

ン学長はテュービンゲン大学のキャンパスの写真を示しながら、両校の緊密な関係性について熱く語った。

続いて、来賓紹介の後、和田 喜彦大学キリスト教文化センター所長による食前の祈禱、野田 遊小学校校長による乾杯により祝宴が始まった。会場では

楽しく歓談をする姿があちらこちらで見られ、会場は熱気に包まれた。また、新島先生がお世話になった方のご子孫3名に来賓としてお越しいただいた。アルフ



ウィリアム・T・セイヴォーリー氏5代目子孫アーサー・ブリガム氏、ご息女ブリガム芽生氏（大学グローバル地域文化学部3年次生）を囲んで



祝賀会会場

ス氏、ジェローム・D・デイヴィス先生4代目子孫のエレノア・ラネイ氏、ウィリアム・T・セイヴォーリー氏5代目子孫のアーサー・ブリガム氏を取り囲み、多くの方が記念撮影をする姿も見られた。

途中では、米国ラットランドのグレイス教会のテリ

ー・ハンリー牧師によるビデオメッセージが披露され、続いて、プロのギタリストであるショーン・ハークネス氏によるカレッジ・ソングの演奏があり会場は大きな盛り上がりを見せた。

最後に、大学應援團による演舞が披露され、次に瀧英次香里中学校・高等学校校長（学校法人同志社常務理事）から謝辞を述べて、賑やかな祝賀会が幕を閉じた。



アルフィーアス・ハーディー夫妻6代目子孫ショーン・ハークネス氏

特別寄稿

未来を描くアニメーション

『二百年の夢を見た。』に込めた志

法人事務部 創立150周年記念事業事務局

同志社創設者の新島 襄先生について、学園内外のより多くの人に広く、深く知っていただきたい。その想いを受け止め2年半の期間をかけ、10分3章立てのアニメーション『二百年の夢を見た。』を制作しました。

新島 襄の生涯という歴史を描きながらも、人々の心をつかめる作品にしなければなりません。まず始めたのは、「普遍性」と「現代性」を合わせ持つデザインづくりです。両方を備えたキャラクターを生み出すため、キャラクターデザインのコンペを開きました。18人のイラストレーターの中から最終的に選ばれたのは、佐藤 るな氏のデザイン。現代の視聴者が積極的に興味を持つような新島 襄と八重の姿が描き出せたと感じています。

全体の構成と演出に関しても、新島 襄の生涯をひとつのドラマとして楽しめるよう、苦心を重ねました。史実に従いつつ、子どもたちにもわかるような内容であること。多くのアニメーションに触れている世代が関心を持つ内容であること。様々なことに気を配りながら制作を進めてい

「あらずし」

新島 襄は幕末、命がけで自由を求めてアメリカに渡りました。幸いにもこの地では、多くの善意の方々の支援を得て、三つの学校で民主的で先進的な教育を受けることができました。

留学中、新島は日本が近代国家となるためには自治、自由や良心の充満した人物を育成するための教育が不可欠であると考え、日本に帰国するや、アメリカ流の学校を日本に移植することに尽力し、日本初の私立大学の設立に挑みました。結果として、大学設立という彼の志と夢は存命中には叶いませんでした。

しかし、その夢は現在の同志社で学ぶ学生や卒業生、教職員にも脈々と受け継がれています。



同志社創立150周年記念フェスティバルでの声優クロストーク



同志社創立150周年記念式での声優挨拶



きました。

アニメーション作品で重要な要素である、声優陣の選択にもこだわりました。新島 襄役に小林 親弘さん。新島 八重役に上田 瞳さん（大学政策学部卒業）。実績も素晴らしい方をお迎えし、その演技によって、新島 襄の物語により厚みを出せたと自負しています。

アニメーション内に登場する「福士 卯之吉」「加納 格太郎」については学生オーディションを行いました。選考の結果、池田 雄介さん（大学文化情報学部4年次生）と橋本 剛さん（大学文学部4年次生）の2名に決定。2人の夢は声優とのことで、プロの声優陣との収録はこれから声優の道を歩む上で忘れられない経験になったのではないのでしょうか。

2年半の制作期間、スタッフと真剣に向き合いながら、精一杯取り組ませていただきました。30分という短い時間の中にデザインやキャスティング、作画、音楽など様々な要素が絡むアニメーションという総合芸術として、新島 襄先生の物語がアウトプットされたと思っています。

一人でも多くの皆さんに観ていただきたいですね。

（アニメーションプロデューサー 河北 学氏）

（声優のコメント）

新島 襄役の小林 親弘さん

新島 襄はあの時代の中で自分の志を貫き、アクティブに行動した人だと思っています。国禁を犯して単身渡米し、帰国後に大学設立を目指した新島の行動力と精神力に感銘を受けました。このアニメーションを見た人がいつか何かに悩んだ時に「彼も数々の苦難を乗り越えてこの大学をつくったんだ」ということを思い出して、自らの夢を叶えるためのエネルギーになれば素敵だな、と思っております。

新島 八重役の上田 瞳さん（大学政策学部卒業）

同志社大学の卒業生として、この作品に参加できたこと大変光栄に思っています。八重はとても芯のある女性で、演じるなかで私自身もたくさん勇気をもらいました。この先もずっと、200周年の際も、同志社に関わる皆様が楽しんでこの作品を見てくれたらと思っています。

福士 卯之吉役の池田 雄介さん（大学文化情報学部4年次生）

福士は、発覚すれば死罪になってしまいうにもかかわらず、新島の密出国を手助けした人物です。それを成し遂げるだけの勇氣と、新島への信頼、そしてこの国の未来を想う福士の熱意を、意識しながら収録に臨みました。現場では共演者の皆様が暖かく迎えてくださり、思い切り演技することができました。私は声優志望で、今回の経験は、間違いなく人生の大きなターニングポイントとなりました。

加納 格太郎役の橋本 剛さん（大学文学部4年次生）

加納は私よりも年上で、しっかりとしたキャラクターとして描かれていて自分とのギャップをどう埋めていくかに悩みました。声優として関わらせていただく中でこの作品が沢山の方々の協力で実現したことを痛感しました。そんな作品に関わらせていただいたことを大変光栄に思います。私は声優志望で、自分のキャリアの始まりが同志社のアニメーションであることは一生の財産です。



同志社創立150周年記念アニメーション

二百年の夢を見た。

— Jo Niijima's Story —

その大志は、
大海と
大空を超えて。


1875-2025 ANNIVERSARY

学校法人同志社

大学/女子大学/中学校・高等学校/香里中学校・高等学校/女子中学校・高等学校/国際中学校・高等学校/小学校/国際学院 初等部・国際部/幼稚園

アニメの詳細はこちら
150周年特設サイト



特別寄稿

ニューイングランドに おける新島襄の聖地巡礼

～同志社創立150年記念
アメリカツアー二〇二五～

元大学神学部教授

本井 康博
もとい やすひろ

ハーディゆかりの「聖地」三か所（ボストン）

2025年8月、創立150年記念事業として同志社アメリカツアーが実施され、約五十人がニューイングランド各地を歴訪した。ツアーガイドとしてツアーの概略を報告する。

幕末に函館から密出国した新島は、W・T・セイボリー船長（ベルリン号）の斡旋で、上海に停泊中の貿易船、ワイルド・ローバー号（ボストンのハーディ商会）に乗り継ぎ、大西洋を経て1865年に渡米に成功した。

上海でH・S・テイラー船長からジョー（Joe）と命名

された新島は、ボストン到着後、船主のA・ハーディに庇護され、ジョゼフ（Joseph）と改称した。ジョーはジョゼフの愛称である。以後、新島は留学中、Joseph Neesima と名乗った。

私たちはボストンでは、新島が「アメリカの父」と呼ぶハーディ縁の三ヶ所、すなわちオールド・サウス教会、ビーコンヒル（写真①）の旧宅、Congregational・ハウス（会衆派会館）を巡った。ただ、新島が按手札（牧師任職）を受けたマウント・バーノン教会は、時間不足で見学できなかった。

この教会は、新島死後の1892年に市内中心部（Ashburton Place）から現在地（Back Bay）に移転し、さらに1970年には全教会員がオールド・サウス教会に転会した。その後、火災のために1983年に会堂は正面（ファサード）だけを残してマンション（Church Court Condominiums）に建て替えられた。

私はそうした経緯を知らずに新島とは直接の関係がなく



【写真①】ビーコンヒル。ボストン高級住宅街のこの一画（Joy St. 4）にアメリカにおける新島の実家とも言うべきハーディ家がある（本井康博『ビーコンヒルの小径』表紙）

なったファサードだけの教会跡地を案内するというミスも三度も犯した。元の場合には今は州の合同庁舎(McCormick State Office)が立っているという。

オールド・サウス教会(ボストン)

オールド・サウス教会はボストンのコープリー広場の角に屹立する。ボストンで名士のハーディ夫妻はこの教会の有力会員であったが、新島自身は受洗や入会はしていない。彼の按手礼も折からの教会移転事業のために、近くの会衆派教会(マウント・バーノン教会)が臨時の会場となった。にもかかわらず、新島はハーディ家で養子同然に扱われた関係から、教会でも会員以上の扱いを受けた。前回の訪問で頂戴した教会創立350年記念メダル(2019年)はその好例で、新島はメダルに名前を刻印された三人のひとりに抜擢されている(写真②)。ハーディを越える異例の扱いである。

そのことは今回も実感

できた。2013年の大河ドラマ「八重の桜」を記念して、新島夫妻の大きな写真が、八重役の綾瀬はるかさんと一緒に、

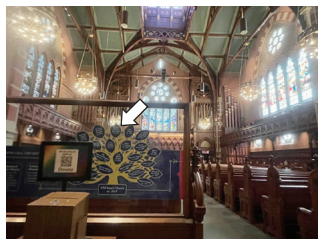


【写真②】オールド・サウス教会創立350年記念メダル。Joseph Hardy Neesima(新島襄)の名前が彫られている。

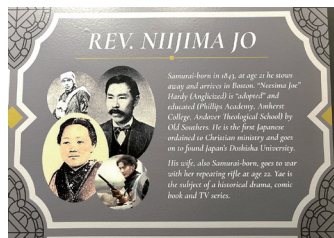
今もラウンジに飾られている(写真③)。

ほかにも教会内には、二十四の関係団体名が葉ごとに記された「メモリアル・ツリー」(樹形図)が展示されているが、最上部の葉はなんと同志社大学である(写真④、⑤)。

近年では安中の新島学園中学校・高等学校(大学神学研究科出身の小栗仁志校長が今回のツアーに参加された)が、この教会との交流に意欲的であるので、樹形図に新島学園の一葉が加わることを期待したい。樹形図は堂内の遺灰安置室(Columbarium)の壁にもあり、永眠者の氏名が葉に刻まれている。



【写真④】【写真⑤】オールド・サウス教会のサンクチャリー(礼拝堂)内に展示されている樹形図。最上部の葉(☆)が同志社大学である(吉井千鶴氏提供)。



【写真③】オールド・サウス教会のラウンジ内に飾られた新島襄・八重、綾瀬はるかの写真(田島繁氏提供)。

最近、新たに追加されたのが新島である（写真⑥、⑦）。事前に記名の相談を受けた際、日本名（NIJIMA JO）と英語名（JOSEPH HARDY NEESIMA）の併記を勧めたところ、それが実現されていたので安心した。



【写真⑥】【写真⑦】 オールド・サウス教会納骨堂に飾られた樹形図。新島襄の名前（）が最近加わった（筆者撮影）。

フィリップス・アカデミーと 旧アンドーバー神学校（アンドーバー）

渡米した新島が最初に入学したのが、ボストン北方の全寮制高校である。リベラル・アーツ教育により人物養成に努める一方で、進学校としても超難関校である。

英語力不足の新島の入学は、理事（後に理事長）であるハーディの推薦抜きには考えられない。校内には冠校舎のハーディ・ハウス（写真⑧）がある。

彼は昵懇（じっこん）のS・H・テイラー校長と協議して、特例とし

て新島を入寮ではなく近所の民家（ヒドオン家）にホームステイさせた。

同家にはア

ンドーバー神学校（大学院。当時はフィリップス・アカデミーと同じ校地）の院生と妻が下宿し、新島の家庭教師としてキリスト教や聖書の手ほどきばかりか英語や学業の手助けもした。

新島はこの学校で「二年間を過ごした」と記すが（『新島襄全集』六、一三八頁。以下、⑥一三八）、実は1年8ヶ月（1865年11月～1867年6月）である。それでも「やるべきことを立派にやりとおした」と校長に認められて（⑩五八）、三年制の高校を特例的に修了し、アーモスト大学、ついでアンドーバー神学校に進学した。大学入学は「選科生」扱いであった（⑩八一）。

フィリップスの校訓はラテン語で“Non Sibi”と云う。Not for oneself.と英訳されるが、but for othersと続けると意味はより鮮明になる。すなわち「自分のためではなく、他人のために」がモットーである。



【写真⑧】ハーディ・ハウス（右）。左はランドマークのメモリアル・ベル・タワー（フィリップス・アカデミーのキャンパス・マップから）。

かつて同校卒業式に
参列した時、いきなり
「Non Sibi 賞」の表彰
から始まったのは驚
嘆した。理想とする生
徒は秀才やオリンピ
アンではなく、校訓の忠
実な実践者、すなわち
奉仕と隣人愛の体現者
なのである。

今回のツアーでは図書館、良心碑（写真⑨）、ピアノ・
ホール（写真⑩）、チャペルを廻った。最初の二棟は、元々
アンドーバー神学校の旧校舎。良心碑は同志社からの寄贈、
そしてチャペルは新島死後に建設された建物である。

新島の高校時代、神学校はピアノ・ホール一階の大部屋
で礼拝を守った。日曜はそこが学園教会の会堂となった。高
校入学一年後（1866年末）に新島が受洗したのは、この
会堂であった。神学校の卒業式もここで行なわれ、牧師とし
て任職されたばかりの新島は、選ばれて卒業演説を披露した。
ここは新島には信徒、ならびに牧師となった記念すべき
部屋（写真⑩）なのである。新島が学んだアンドーバー神
学校は、今は転出してエール大学神学校に組み込まれてい



【写真⑨】良心碑（中央）とツアー参加者一同（田島繁氏提供）。

るので、アンドーバー
に残る神学校旧校舎と
してはピアノ・ホー
ルは貴重である。

内村鑑三は、神を発
見し受洗した札幌を
「私にとり聖地」と断
定する（『内村鑑三全
集』三一、二五九頁）。

ならば、新島の聖地は
アンドーバーである。

この地で信徒となった新島は、受洗以後、帰国するまで
の七年間（1867年～1874年）一貫してアンドーバ
ー神学校教会の会員であった（⑥一三七）。

帰国後の新島は同教会から、自身で創立した同志社教会
へと信徒籍を移している。

紛らわしいことに、オールド・サウスという同名の教会
（教派も同じ会衆派）がアンドーバーにもある。

家主のヒドオン家が通う教会で、同家の大きな墓石が教
会裏の霊園入り口に立つ。新島は高校時代、この教会の教
会学校に通ったので、ここで受洗してもおかしくなかった。



【写真⑩】ピアノ・ホール1階の旧アンドーバー神学校教会（現在はフィリップス・アカデミーの教室）。新島はこの部屋（会堂）で洗礼を受けた（『新島襄 その時代と生涯』から）。

アーモスト大学（アーモスト）

ついでアーモスト大学である。新島が学んだ三つの学校中もっとも母校の名に相応しい。在学三年間はかりか、卒業後、いや死後も学園との繋がりは段違いに深い。この大学に進むことは、大学の理事であり千ドルの寄附をしたこともあるハーディ（⑧八）による既定路線と思われる。

最近発表された全米大学学費ランキングでは、アーモストは六位である。諸費用や住居費、食費を含めると年間で九万ドル（約千三百万円）を超える（『朝日新聞』2002年10月4日）。ハーディの当時の負担の大きさが窺える。

大学の校訓は“Terras Irradiant”（ラテン語）。“Let them enlighten the lands”とか“Let them give light to the world.”と英訳される。その意味は「自分ではなくて世を照らせ」である。

新島は三年間、丘の上に聳えるジョンソン・チャペルに隣接する北寮（North College）に住み、この校訓のもとで友人との交わりや人間形成に励んだ。住んだ寮室は二階の八号室（1867年～68年）と四階の十三号室（1868年～70年）である（ダリア・ダリエンゾ著・北垣宗治訳「アーモストの輝かしい息子…新島襄のアーモスト大学時代」三四七頁、『新島研究』九八、2007年2月）。

在学中の新島は、多くの友人に好印象を与えた。ある寮生は「大学で最良のクリスチャン」とまで絶賛する（⑧五一）。卒業二十年后に死去した新島を悼んだ同期生たち（1870年クラス）は、同志社へ追悼文を送るという異例の行動に及ぶ（O・ケリー「アーモスト大学1870年クラスの新島先生追悼文について」十八頁、『新島研究』七、1955年）。さらにこのクラスは、卒業三十年後に同期からひとりを選んで肖像画にするという学園の習わしに従うが、早くから新島を推すことを決めていたという。

出来上がった肖像画は今もジョンソン・チャペルの正面の壁、それも「名譽ある場所」と呼ばれる右側下に掛けられている。当初は対

なる左側の肖像画と二枚だけであったが、近年徐々に増え、現在は正面の壁いっぱいには八枚が並ぶ（写真⑪）。

ところで、今度のツアーの主要イベントはこのチャペルでの同志社記念集会であった。アーモストの関係者や



【写真⑪】ジョンソン・チャペル内の正面。肖像画は2枚から8枚に増大した（北川貞大氏提供）。

来賓の外交官、さらにはボストンで英語研修中の同志社小学校と同志社国際高等学校の生徒たちも駆けつけ、総計百人以上が集った。

東良彰教授（大学経済学部。同志社におけるアームスト代表）の司会のもと、集会一部では、八田英二同志社総長・理事長の挨拶に続き、アームスト大学のS・C・モース教授が日本語で作成した資料をもとに大学の紹介を行った。

ボストン日本総領事館の箕谷優主席領事の挨拶について、私が記念講演を行った（写真⑫）。



【写真⑫】新島の肖像画の前で記念講演をする本井ガイド（田島繁氏提供）。

集会の二部では、同志社の四中学校の生徒四人（澤嶋興志郎、北田楓乃、奥田恵麻、田尻美咲希）が、各自の志を英語で発表した。英語力の高さや話の内容は好評を博した。ツアーに参加した中高生たちは、五十年後の同志社創立200年の記念集会でも今回、披露した各自の夢や体験を思い出してほしいと願う。

午後は小グループに分かれた学内ツアーで、当地に留学中の新島スカラー（本学学生）二名もガイドに加わった。

その後、ダウンタウンに最近オープンしたアームスト・カレッジ・ストアで大学グッズなどの買い物をしてから、一行はバーモント州へ向かった。

グレイス教会（ラットランド）

向かった先は、新島が帰国後の学校設立のための募金を涙ながらに訴えたミッシヨン年会が開かれたラットランドのグレイス教会衆派教会。昨年同志社はアメリカツアー二〇二四（参加者二十七名）を企画し、この教会で記念集会を開いた。その折、同志社所蔵の「ラットランド集会想像図」（伊谷賢蔵筆の油彩画）を陶板にして教会に贈呈した（森田喜基「同志社創立150周年記念事業 新島襄のラットランド・アピール150周年記念ツアー」『同志社時報』一五九、2025年4月）。

今回も昨年同様に日曜礼拝に参加した後、同志社記念集会を持ち、同志社の四高校の生徒（坂野紫、高永晃広、福田香帆、金示殷）が英語スピーチを披露した。それぞれ見事なプレゼンであった。私には同志社が贈った陶板との再会が密かな楽しみであった。教会前の芝生にも置けるようにと陶板を贈ったものの、展示は室内の一室であった。

この教会からはかつて新島の石版画（写真⑬）が本学に贈呈された。現在、有終館の総長室に飾られているが、ア

ーモストの肖像画のやつれた悲しげな新島像とは違って、これほど凛々しくて端正な新島の画はほかにはない。



【写真⑬】新島の石版画（『新島襄 その時代と生涯』から）。

会衆派会館（ボストン）

新島が敬慕するハーディは、実業の傍ら慈善や教育、宗教の分野でも献身的な働きをした。なかでも特筆すべきは教育面で、新島が学んだ会衆派系の三つの学校で理事、あるいは理事長を務めた。

宗教活動でも、オールド・サウス教会のほかに海外伝道事業への献身的な働きが目立つ。元々会衆派は教育だけでなく、海外伝道（宣教師派遣）にも関心が高く、1810年に他教派に先立ってアメリカ初のミッション、アメリカン・ボード（ABCFM）を発足させた。

新島の留学当時、ハーディが理事長格の指導者であったことが、新島には大きな幸いとなった。

かつて同志社にも多数の宣教師を派遣したアメリカン・ボードは、1961年に発展的解消を遂げたので、それまでの本部（ボストン）は会衆派会館に転じた。玄関には今

もハーディら数名の功労者の名を刻む石板が掛けられている。さらに二階の会衆派図書館では、ふたつの胸像が私たちを迎えてくれる。新島に授洗したパークとアメリカの養父・ハーディ（写真⑭）である。アメリカにおける新島の恵まれた出会いが、「見える化」されていて興味深い。

新島が経験した外国人初の宣教師任命や、ラットランド集会での学校設立のための献金アピール、さらには自身の英語名（ジョゼフ・ハーディ・ニイシマ）など、いずれもハーディ抜きには考えられない。アメリカン・ボードによる日本伝道は他教派より十年ほど遅れたが、日本伝道の緊急性をハーディらミッション幹部に訴えて実現に至らしたのは新島であった。こうして1869年によりやく最初の宣教師（D・C・グリーン）が横浜に派遣された。

日本人初の新島の派遣は、それより五年後であった。

私たちはツアー最終日、ボストン市内三か所（先述）を見学してから午後はオプション・ツアーとして、ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学、ボストン美術館を見学した。夕食にはロブスターとクラム・チャウダーを賞味して身も心も満たされて、ツアーを締めくくった。



【写真⑭】A・ハーディの胸像（片山三喜子氏提供）。

新心館 2015年9月

(女子大学)



エントランスに施された
スマイルの装飾



旧新心館から移設された
モニュメントプレート

2015年9月に竣工した新心館（しんしんかん）は、今出川キャンパス北側に位置する食物栄養科学科関連の教育研究棟です。地上3階、地下1階の鉄骨鉄筋コンクリート造で、食物栄養科学科教員の研究室、品質管理・衛生管理を実現するHACCP対応機器を設置した実習室をはじめ、充実した実習・実験設備が整備されています。キャンパス内の景観調和を図り、外壁はレンガやレンガ調タイル・水平ボディーを基調としたデザインです。エントランスホールには吹き抜けを設け、伸びやかで明るいインテリアとなっています。また、吹き抜けの壁に施されているスマイルの装飾は、現・新心館の前身である旧新心館や最後の学内寮であった新心寮よりさらにさかのぼり、この場所が同志社女子部の母「ミス・デントンの居住地「デントン・ハウス」の立地であったことに由来して施されました。

館名の由来は、ローマの信徒への手紙12章2節（新約聖書）の「心を新たにしてい」にあり、大切に継承されてきた伝統の館名を受け継ぐことで、日々の大学生活が、心身ともに日々新たにされるものでもあることが願われています。

建物案内

中・高 岩倉キャンパス

(中学校・高等学校)



「空間は人を育む」―学びの世界に引き込む学校建築―

2010年、同志社大学のある今出川から、同志社中学校は岩倉へ移転し、同志社高校と統合し、同志社中学校・高等学校が誕生しました。新しく創る学校は、どんな建物とすべきか……？どんなVISION、どんなコンセプトの学校を創るべきか……？中合同委員会を100回以上開催する中、日本の学校建築計画の第一人者である長澤悟先生（教育環境研究所所長）が、監修者として、我々に適切なアドバイスをして頂き、徐々に形になっていきました。「学びたくなる環境、人が育っていく環境というのは、どの様な環境なのか……？」全教職員が、全国の特徴ある学校を、延べ100校以上視察し、日々考察を繰り返し、岩倉キャンパスの建築計画ができていきました。また、プロポーザルの結果、香山壽夫建築研究所（所長…香山壽夫先生・東京大学名誉教授）が選ばれた事も、我々にとって、最高のアドバンテージとなりました。10万㎡の広大な敷地、比叡山のぞみ、豊かな緑に包まれたレンガ造りの校舎、木のぬくもりをふんだんに取り入れた校舎内、生徒たちはそれぞれ、自分たちの居心地の良い場所、お気に入りの場所を持っています。

そして、中学校校舎棟（立志館）では、関西初、この規模の学校建築では全国初の『教化センター方式』を採用し、わくわくドキドキ、イキイキする事のできる校舎であり、生徒たちの「学びたくなる世界」を創造する空間となりました。また、高校校舎棟では、勉強に集中できる教室空間計画を採用し、中・高それぞれの年代に即した校舎計画を実現する事となりました。移転統合後、2020年には、高校体育館（翼翔館）が完成し、岩倉キャンパスの全ての校舎棟が新しく更新されました。キャンパス全体は、一人の建築家により統一して設計されており、緑に包まれた環境の中、赤いレンガの校舎棟が生え、キャンパス全体が、クリスマスカラーで統一されている中・高岩倉キャンパスは、生徒、教職員を育む、最高の建築空間です。

女性宣教師の服装(復元)



女性宣教師の服装 (復元)

この復元衣装は、清水久美子女子大学名誉教授によって、1996年に製作されたものである。製作に当たっては、1889年同志社女学校卒業式写真をはじめ、複数の女性宣教師写真を参考に、当時の服装を時代考証された。明治期同志社における女性宣教師の服装は、欧米の流行を反映しつつ、日本での衣服調達の困難や経済的事情により、流行期より遅れて長く着用される傾向があった。1870～1880年代は前期バスルススタイルが主流で、ウエストを絞り後腰部を膨らませたツーピースドレスにスタンドカラー、レースやジャボ*1、ボウ*2などの装飾が施されていた。1889年頃には後期バスルススタイルへ移行し、キモノ風打ち合わせや東洋風テキスタイルを取り入れたデザインも見られるようになる。前述の同志社女学校卒業式写真と同年の撮影とされる写真では、「草花文様の上下共布のツーピースのバスルススタイルドレス」を着用したM・F・デントンを確認することができる(清水久美子著『明治期同志社における外国婦人宣教



同志社女学校卒業式 (1889年)

師の服装』(1999年)より抜粋。

この復元衣装は、1880～1890年代に西欧および東部アメリカで流行したバスルスタイルのドレスで、コルセット着用による胸の豊かさやウエストの細さを強調し、ふっ

くらした袖山と立襟をもつボディス(胴衣)、後腰を大きく膨らませた裾広がりのスカートからなる上下二部式のシルエットが特徴である。特にスカートは、一番下にファンデーションスカート、前から脇にかけてのドレーパリースカート(巻きスカート)、後部のみにつけるドレーパリースカート(飾りスカート)の三種が組み合わされている。衣服構成パターンや縫製技法は、主に Janet Arnold 著『Patterns of Fashion』の1880～1889年ビクトリア&アルバート博物館所蔵のデイ・ドレスを参照し、オリジナルにデザインされたもので、紺地花柄ブローケード



バスルドレス姿のデントン (右)
(1889年頃)
(大学社史資料センター所蔵)

(トリアセテート80%、ポリエステル20%)製である。

1996年11月22日～1997年7月31日までの間、本学で開催された企画展「キリスト教女子教育とオルガン―明治期の同志社女学校―」の際に、この復元衣装は初めて展示された。また、この企画展初日に開催された演奏会「明治の音をきく」では、鷗淵紹子本学名誉教授がこの復元ドレスを着用して、解説と演奏を担当された。現在、女子大学史料センター展示室にて常設展示されている。

*1 jabot レースや薄布に襷を寄せたもの

*2 bow 蝶形結び

(女子大学史料センター)

はじめに



大学

変形型月面ロボットSORA-Q
—その先に

生命医科学部教授

わたなべ
渡辺きみたか
公貴

た。さらに、世界で初めて完全自律による月面探査を成功させたロボットとしても注目されています。

1. SORA-Qの開発経緯

SORA-Qの開発は、私が玩具メーカーのタカラトミーに所属していた2016年、同社がJAXA宇宙探査イノベーションハブの公募テーマ「昆虫ロボットの研究開発／広域未踏峰探査技術」に応募して採択されたことに端を発します。「昆虫型ロボットの研究テーマは、玩具メーカーが長年培ってきた小型機構設計や変形技術と親和性が高いものでした。その後、2019年にソニーグループ、2021年に同志社大学が参画し、4者による本格的な共同開発体制が構築されました。各機関の主な役割は以下のとおりです。

・JAXA…宇宙仕様ロボットの製作、SLIMからの分離機構



【写真①】SORA-Q

2024年1月25日、世界初となる月面へのピンポイント着陸に成功した小型月着陸実証機SLIMの月面着陸姿勢を捉えた写真が公開されました。この歴史的な一枚を撮影したのが、変形型月面ロボット「LEV-2（愛称：SORA-Q）」（写真①）です。本ロボットは、JAXA、タカラトミー、ソニーグループ、同志社大学による共同開発の成果です。SORA-Qは野球ボールほどのサイズでありながら、月面探査という重要なミッションを達成しました。

・タカラトミー／大学…ロボットの企画・デザイン・設計
および動作検証

・ソニーグループ…ロボット制御および画像処理系の開発
SORA・QはSLIMの着陸直前、高さ約5mから月面に向けて放出されました。放出時は球形（直径78mm）、質量228gであり、部品点数を約60点に抑えることで軽量化と故障リスクの低減を図りました。

月面着陸後、SORA・Qは球体外殻を変形させて車輪を形成し、自律走行を開始しました。前後に搭載したカメラによりSLIMおよび周囲環境を撮影し、最も適切な画像を自動選択。走行データとともに、小型ロボットLEVEE-1を介して地球へ送信しました。（写真②）

2. 開発における技術的課題と克服

SORA・Qの開発では、20回を超える試作と30回以上の設計改定を経て、SLIM搭載用フライトモデルが完成しました。その過程で、主に以下の課題に直面しました。

2・1 月面地形への対応

月面は「レゴリス」と呼ばれる微細な砂に覆われており、SORA・Qのような2輪ロボットにとって極めて厳しい環境です。特にSLIMの着陸予定地は約15度の傾斜地であり、条件によってはそれ以上の斜面を登坂する必要がありますでした。

2016年度の共同研究では、小型ロボットの通常の車輪構造では約5度程度が登坂限界であることが分かっていた。



【写真②】SLIMの月面写真

ました。一方、SLIM搭載条件として、SORA・Qの質量は300g以下、サイズは野球ボール程度に制限されていました。

そこで、砂漠や干潟に生息する生物の移動様式に着目しました。ウミガメの幼体が砂の急斜面を登る動きや、有明海のムツゴロウの運動様式から

着想を得て、車輪中心軸を意図的に偏心させる構造を採用しました。これにより、最大約30度の傾斜登坂を可能にしました。

2・2 格納と展開の両立

SLIM搭載時には球体形状である一方、月面では安定走行が求められました。この相反する要件を満たすため、変形玩具や生物模倣技術を応用し、球体外殻を展開して車輪として機能させる構造を採用しました。

2・3 横転時の復帰機構

月面の起伏により横転する可能性を考慮し、転倒後に自力で走行姿勢へ復帰できる構造が必要でした。そのため、スタビライザー（尾部）に折り畳み式突起を設け、レゴリスに引っかけて起き上がる機構を導入しました。

2・4 月面環境下での試験と課題

振動試験、熱真空試験、放射線試験、着陸環境下での撮影試験、レゴリス模擬砂による走行試験など、多岐にわたる検証を実施しました。

3. 月面探査の成功と意義

SORA・Qは数度の打ち上げ延期を経て、2023年9月7日、種子島宇宙センターからHIIAロケット47号機により打ち上げられました。打ち上げの瞬間、私は「SORA・Q、元気に行ってこいよ」と祈るような気持ちで見送っていました。2024年1月20日0時20分、SLIMは月面クレーター「SHIOLI」へのピンポイント着陸に成功し、日本初、世界で5カ国目となる月面着陸を達成しました。

LEV・2(SORA・Q)は以下の成果を達成しました。

- ・日本初の月面探査ロボット
- ・世界初の完全自律ロボットによる月面探査
- ・世界初の複数ロボットによる同時月面探査
- ・世界初の月面ロボット間通信

さらに、「世界最小・最軽量の月面探査ロボット」という称号も得ています。SORA・Qの成功は、今後の宇宙探査技術の発展に大きく寄与すると期待されます。多数の小型ロボットを用いた広域探査や、崖や堅穴といった通常のローバーが近づけない領域の調査にも応用されるでしょう。

LEV・2がレゴリスに埋もれるまでには約2000万年かかると考えられます。月を見上げるたびに、SORA・Qが「月のウサギの耳」の近くで存在し続けることを想像し、このプロジェクトに関われたことを誇りに思います。

4. その先に

本プロジェクトは、極限まで小型化された自律ロボットであっても、月面という過酷な環境において実用的な探査が可能であることを実証しました。将来の月面探査では、大型ローバー単独による探査から、多数の小型・軽量ロボットを分散投入する群探査の移行が加速すると考えられます。SORA・Qで確立された変形機構、自律走行、ロボット間通信、極低消費電力設計は、こうした群探査の中核技術となり得ます。さらに、SORA・Qの設計思想は月面にとどまらず、小惑星探査、火星衛星探査、さらには将来の深宇宙探査への応用も期待されます。低重力天体において、転倒を前提とした運動設計や変形構造は、従来の「転倒ミッシェン失敗」という常識を覆すものです。柔軟な発想と、宇宙工学の厳格な要求条件を融合させた本アプローチは、新たな宇宙ロボット開発の一つのモデルケースとなるでしょう。学生と共にSORA・Qに続く月・惑星探査ロボットの研究開発を継続しています。

最後に、この小さな一粒が、日本の宇宙開発の未来に貢献することを心から願っています。



大学

「労働」とジェンダーの歴史から 現代社会を理解する

グローバル地域文化学部教授

石井 香江
いしい かえ

「労働」とは何なのか

育った時代や地域、家庭によっても「働く」イメージは様々ですが、現代を生きる人の多くが「働く」イコール「賃労働」、つまり「有償労働」と考えているのではないのでしょうか。「労働」とは実際のところ、有償の「生産労働」に限定されず、育児・家事・介護といった、従来は無償ないし低賃金で担われてきた「ケア労働」を中心とする「再生産労働」も存在します。こうした「労働」をめぐる私たちが抱く一面的イメージは、工業化と資本主義経済化がいち早く進展した西欧近代の刻印を強く受けていることが、歴史をさかのぼることで理解できます。

古代ギリシアで「苦役」として蔑まれていた「労働」は、キリスト教の教義の中で共同体への奉仕として位置づけら

れるようになります。中世の修道院において手を使う「労働」は、修養としても尊ばれました。ヨーロッパの市民社会で「労働」はたんなる生計手段であるだけでなく、財産・富・文明の源泉となり、だからこそ人間の存在意義や自己実現とも深く関わるようになりました。その一方で、「労働」を懲罰や再教育の手段とする考え方も、キリスト教ヨーロッパの伝統です。古代から現代に至るまで、支配・併合した地域の住民や戦争捕虜には強制労働ないし奴隷労働が課されてきました。雇用主と被雇用者の非対称的な力関係が、「労働」を誰に割り振るかの判断に影響を与えるということです。ある人にとっては自己実現や幸福の源泉であり、ある人にとっては苦勞と不幸の種でもある「労働」の両義性に着目し、第二次世界大戦期のドイツと隣接地域における女性の「労働」について現在は研究しています。

「労働」とジェンダーへの歴史的アプローチ

史料を通して歴史を振り返ると、現代社会で「あたりまえ」だと思われていることが、過去には必ずしもそうでなかったことが分かります。ドイツの社会史・ジェンダー史を専門とする私にとっては、「労働」の意味はもちろん「労働」とジェンダーの関係も、その数多い事例の一つです。

「労働」とジェンダーの関係について、社会学的な視点からアプローチをする社会史研究では、誰がどのような仕事をするのかしないのか、その線引きの方法に加え、時代背景や経済的事情によって、この線引きの仕方が変化すること、つまり普遍的ではないという事実注目します。

ここでは代表的な三つのアプローチを紹介します。一つ目は、ツンフト（同職組合）や職場から女性が排除される過程に注目するアプローチです。工業化以前、ツンフトの形成過程で女性の製織労働従事者などが周縁化されました。その後、工業化を背景に増加した女性労働者は安価な競争相手とみなされ、あるいは、男性労働者が市民的な価値規範（「男性稼ぎ主モデル」）を受け入れる過程で女性労働者は排除される傾向にありました。母性保護の名のもとに、炭鉱労働などの危険業種で女性労働を規制する工場法も、

女性労働を特殊化し、排除することにもなるという観点から再検討されています。二つ目は、女性を労働から排除するのではなく包摂しつつ、性別の「適性」に応じて「女の仕事」を「男の仕事」から区別する過程や、この線引きが変化するメカニズムや社会的背景に注目するアプローチで、私自身はこれを重視してきました。三つ目は、男女の仕事に分ける従来の線引きが大きく揺らぐ戦時期に注目するアプローチで、私が最近取り組んでいるテーマとも関わっています。戦時に女性に求められていたのは、平時に「女の仕事」とされた家事・育児・看護・介護などに加え、召集された男性に代わって「男の仕事」も担うことでした。

第二次世界大戦下の女性たちの「労働」の諸相

私が所属するグローバル地域文化学部は、専門とするドイツプリンも地域も多様な研究者が集まっています。そのため、日常的な交流の中ではもちろん、複数の教員が担当するオムニバスの授業の中で、自分の拠って立つ土台が揺らぐ経験をしてきました。以前であれば分析の単位が国民国家であることに強い問題意識を覚えることはありませんでしたが、最近ではドイツと隣接する地域（フランス、オーストリア、ポーランド）にも目を向け、戦時期の地域間

の人の「移動」と「労働」の実態、そこでジェンダーがどのような役割を果たしていたのかについて調査しています。

今回はその一端を紹介します。例えば女性は第二次世界大戦中にも、銃後を守るだけでなく、銃後と前線においてを問わず、「男の仕事」を担うことを求められました。1935年の国家労働奉仕法により20歳以上のすべての若者に労働奉仕が義務づけられ、特に1940年の夏以降、ドイツ国内と併合・占領地域の女性たちが組織的に動員・徴用され、ドイツ国防軍（陸軍・海軍・空軍の総体）、ナチス・ドイツの治安組織である親衛隊、秘密警察部門であるゲシュタポ、ドイツ国防軍防空協会、ドイツ赤十字社に「軍補助員」として組み込まれていきました。

女性たちに課された仕事の内容や重さは、出身地域と女性の社会階層や配偶関係、人種で異なってはいましたが、その背後に戦争の強制力があつたことは共通しています。工場に動員されたのは主に労働者層の女性であり、彼女たちの子どもの面倒は、市民層の女性が担いました。また、市民層の女性が過酷な高射砲業務を避けたため、この任務に就いた女性には農村出身者が多くなったため、「劣等人種」とされた「東方労働者」（ポーランド人、ウクライナ人、ベラルーシ人など）の女性もが徴用されました。彼女たち

は性別のある人間ではなく「労働力」として扱われ、ドイツ人女性であれば適用されうる母性保護も考慮されない厳しい労働環境で妊娠の末に死産したり、優生学的・人種主義的な理由から中絶を強いられた事例もありました。

歴史から見る「労働」の現在

「労働」に注目するジェンダー史は、労働力が不足する戦時期や、安価な労働力が必要な工業化の時代の社会的・経済的事情で、線引きが変化することを明らかにしてきました。「女の仕事」と「男の仕事」の線引きは、女性や社会的マイノリティの人権や尊厳を守ることとは無関係に変化してきたといえます。女性活躍やダイバーシティの推進が果たして、国際労働機関が提唱する「ディーセント・ワーク」（働きがいのある人間らしい仕事）を目指すものなのかどうか、賃金や労働条件、ハラスメントの有無などの「労働」実態はもちろん、この取り組みの背後にあるグローバリゼーションをはじめとする大きな文脈に目を向けることが必須です。変化の激しい現代社会を複眼的な見方で冷静に捉えるには、過去や他地域の参照軸が必要です。そこで学生の皆さんには、歴史・地域研究の方法と知見を身につけてから、社会に飛び立ってほしいと願っています。



女子大学

国際保健の視点で 在留外国人の健康を支援

看護学部准教授

はしもと
橋本
ひでみ
秀実

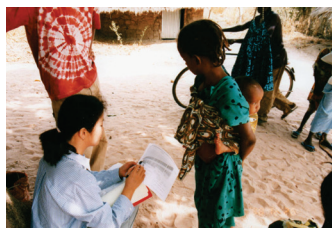
マイノリティの経験が研究の出発点に

私の研究活動の出発点は、青年海外協力隊に参加し、保健師としてアフリカで活動した約30年前に遡ります。

私が暮らしたセネガルの地域では、州都でも蛇口をひねると茶色の水が出て、何度もう過して煮沸しないと飲むことができません。農村では井戸水を使用していました。もちろん、手洗いやうがい習慣などありません。訪問看護では、雨季の初めにたくさん乳児がマラリア等の感染症で亡くなる場面に直面しましたが、お母さんは病院に連れて行きたくても、お父さんが行く必要はない、どうせ治らないのだからお金の無駄だと言っているというのです。次に赴任した南アフリカ共和国でも同じで、当時、妊婦のHIV（エイズ）陽性率は39%と非常に高かったのですが、

パートナーの男性からいわれのない偏見や差別を受け、子どもを抱えて働くこともできずに一人で苦しむ女性を数多く見てきました。

私自身も日本を離れ、一時的に移民、つまりマイノリティとして活動する中で、言葉も通じず、病気になっても医療へアクセスすることさえ難しい。異文化社会で健康を維持することがどれだけ大変なのかを思い知らされました。ジェンダー不平等や貧困など、健康を決定する社



会的要因は様々ですが、SDGsの目標の一つ（すべての人に健康と福祉を）にも掲げられているように、グローバルヘルスの視点で社会的弱者の健康問題を考えられませんか。こうしたアフリカでの経験とそれから、異文化背景を持つ在留外国人、特に女性とその子どもたちの健康について関心をもつようになりました。

日本社会との懸け橋になるリーダーを育成

2025年6月末現在、在留外国人の数は395万6,619人（出入国在留管理庁）。子どもが指を切ったので病院に行ったが、そこは歯医者だった…、（保健師などが無料で赤ちゃんの健康指導等を行う）赤ちゃん訪問の制度を知らず、区役所から頻繁に電話がかかってきて怖かった…。冗談のように思うかもしれませんが、健康の「読み書きそろばん」である

ヘルスリテラシーの背景には、言葉の問題だけでなく、コミュニティのサポートと健康・保健知識の不足など様々な要因



があると考えられます。

私は10年以上前から、東海地域の研究者やNGO団体等と共同で「コミュニティ・ブリッジ・ワーカー」の仕組みづくりを支援しています。在留外国人のコミュニティ（集住地域）でさまざまな背景をもつ親と子どもが集い、一緒に遊んだりおしゃべりしたりします。ブラジルのお祭りではピニャータ（お菓子などを詰めるくす玉）を一緒に壊したり、日本の料理や風習も紹介したりします。こうした地域協働の取組の中からエンパワメントされた外国人のリーダーが育ち、例えば一人で悩んでいるお母さんに「こんなイベントやるけど参加しない？」と声をかけてくれる…、そんな日本社会との懸け橋になってくれるコミュニティ・ブリッジ・ワーカーが、まちのそこに存在すれば、お互いに異文化への理解が深まり、在留外国人のヘルスリテラシーの課題も解決に導けるに違いありません。

異文化・多文化共生社会の看護ケアを考える

異文化看護、多文化看護という概念をご存じでしょうか。英語で会話できればいいというわけではありません。例えば、甘いものを好むブラジル文化で育った在留外国人に「糖分の摂り過ぎはからだに良くない」と言ってもなかなか受

け入れてもらえないでしょう。異文化・多文化看護とは、言い換えれば調整する看護ケア。特に保健師の仕事は、地域で暮らす人たちのヘルスプロモーションが中心となります。自分たちの価値観を押しつけるのではなく、できるだけ分かりやすく端的な日本語コミュニケーションで、相手の気持ちに寄り添うことが大切です。

異文化・多文化看護に求められる保健師のスキルは、どうすれば身につけられるのでしょうか。私たちは、実際に在留外国人を担当した経験がある保健師にインタビューを行い、困ったことや驚いたことなど、具体的な問題や状況を明らかにしたいと考えています。それを元に、学会などワークショップの場で「こういう事例では、皆さんはどう対応しますか？」と問いかけること、保健師さんたちがいろんな知恵や工夫を出し合い、相互に議論し学びながら、看護能力を高めていけるのではないかと期待しています。

技能実習生の性に関する健康問題

もう一つ、技能実習生のリプロダクティブ・ヘルス、つまり性や妊娠・出産等に関する健康問題についても研究を始めています。日本でも若い世代の思春期ヘルスが課題となつていますが、実習で日本を訪れる外国人、なかでも女

性に特化したプレコンセプションケアの機会はほとんど与えられていないのが現状です。性被害に遭ったり、望まない妊娠をしてしまったり、もしかすると月経困難症で苦しんでいる人もいるかもしれません。まずは、ベトナムやネパール、ミャンマーなどの技能実習生にヒヤリングを行って、性や妊娠に対する悩みに耳を傾け、正しい知識・行動を身につけてもらうにはどうすればいいかを一緒に考えていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症が世界中でパンデミックを引き起こしたように、自分たちの身の回りだけでなく、今や世界的な視点で公衆衛生（国際保健）を考えることが求められています。マイノリティにやさしい社会は、みんなにとって住みよい社会となるはずです。日本で暮らす外国人への健康支援を通して、豊かで幸せな多文化共生の在り方を提案できればと考えています。

女子大生が海外留学中に遭遇したトラブル

～楽しく安全な留学生活を送るために～



女性の健康で安全な留学を支援する研究会
Women's Happy Study Abroad



香里中学校・高等学校

香里高校の「総合的な探究の時間」

社会科教諭・探究科委員会委員長

むしもと りゅういち
虫本 隆一

高3卒業時に卒業論文 1万字

拙稿は「私の研究・私の授業」の一端ですが、紹介したのは「私たちの授業」です。多くの教員で担当する同志社香里高校の「総合的な探究の時間」（以下「探究」）について、プログラム・コーディネーターとして紹介します。

・ラブソング内のやりとりにおける「もどかしさ」と通信手段の変化の関係

・オープンワールドゲームの構成と依存度の関係

・「かわいい」という感情とは何か

・ALPS処理水の海洋放出判断の是非

・ハローキティが世界で愛されるのはなぜ？「KAWAII」「アイコン、キティちゃんの魅力にせまる」

右に挙げたのは、昨春、香里高校を巣立った3年生が書

いた卒業論文タイトルの例です。「自主（自治）自立」や「個儼不羈」は同志社教育の根本精神です。いやしくも同志社香里の卒業生たる者、教員からテーマや課題を与えられてはなりません。自らの関心や生き方と社会的意義に照らして、正解ではなく最適解や納得解を必要とする問いをたて、対応しい方法を模索しながらその解を導くことが求められます。卒業を控えた冬休みにそれぞれが1万字の卒業論文を書き、年明けにその成果をポスターセッションやプレゼンテーションで報告します。これが同志社香里高校における3年間の「探究」の総仕上げです。

「探究」のカリキュラムと教員

高校3年次の「探究」の授業は週に2時間です。生徒それぞれが設定した問いを分類し、比較的似たテーマを持つ



卒論発表会のプレゼンテーション風景

生徒でゼミを構成します。一つのゼミは20名ほどの生徒に対し、テーマに相応しいチューター役の指導教員が割り当てられます。授業では、各自が設定した問いについて、相応しい解決方法を模索し、調査・研究を進めます。進捗状況の報告や相談をして指導教員の助言をもらい、ゼミ内で発表を繰り返し、卒業論文の完成をめざします。

卒業論文を目標とした高校1・2年次の「探究」はそれぞれ週1時間です。高校2年次の後半は、卒業論文に向けてオリジナリティのある問いの設定を目標とします。半年をかけ、自分事として取り組むことができ、かつ社会的に意義のある問いを設定します。各自にとって可能

な方法で、1年という限られた期間内に、最適解や納得解を得られる問いの設定を求められます。関連資料を収集し、解が未知であったり、既存の解に見直しが必要であったりする問いを見出します。

高校2年次の前半と1年次の授業は、テーマと問いを定め、最適解や納得解を導くためのスキルを習得する時間としています。問いの種類や立て方、物事を分析するための思考方法、仮説と検証の方法、データの収集と分析、ネットや図書館を用いた資料検索の方法などが代表的な授業コンテンツとなります。生徒数名のグループによる協働学習を多く取り入れ、試行的に問いをたて、習得した方法を用いて解を導き、成果を発表するということを実践的に繰り返します。高校1・2年次はホームルーム単位の授業で、学年の担任や司書教諭などが指導を担当しています。

「探究」のねらい

香里高校の「探究」は、2018年に告示された現行の学習指導要領に対応して導入されました。2024年度卒業生が「探究」を経験した最初の学年です。

香里高校は基礎学力の定着を重視するカリキュラムを採ってきました。定期考査に加え、各教科の実力テストや英

検・数検などの検定の取得級を加味して法人内推薦制度で進学先を決める生徒が大部分を占めます。また、現行の学習指導要領のもとでは各教科に「○○探究」という名称の科目がたくさんあります。香里高校では単位数の関係から学校設置科目が多く、科目名としての「○○探究」は少ないものの、理科・社会科系を中心に実質的に「○○探究」となっている科目は多くあります。各教科の学習内容に即した知識・理解の習得だけでなく、背景にある学問に固有の問いや見方・考え方を重視し、内容を掘り下げ、協働学習も含めて教科の学びの枠内で応用可能性を探ることは、以前から香里高校の授業を特徴づけてきました。

現行カリキュラムを策定する段階で、前段に述べた学習のみでは足りないと考えようになりました。そこで、「探究」を導入するにあたり、シラバスの緒言に「変化の激しい世の中にあって、今ある職業の多くは機械・ロボット・AIに置き換えが進むと考えられているし、今はない多くの職業が生まれると考えられている。…師匠と同じ知識や技術を身につけるだけでは時代遅れになる。…変化の激しい時代に生きている私たちや諸君は、自分のテーマが何であり、それに対して現在までの到達点が何かを把握し、到達点の隙間を探して未解決の課題に挑むということを、そ

の時々の変化や科学技術の発展に応じて、一生続けていく必要がある」と書きました。社会人がみな日々の営みの中で当たり前に行っていることを、早くから生徒たちにも習慣的に実践してほしいと考えています。

課題と展望

課題は山積みです。他者とよく似てはいても、どこがちがう固有の問題意識を生徒ひとりひとりとは本来持っています。しかし、それを言語化し、他者とのちがいを明確にすることは、高校生にとって難題です。問いのたて方により、解を得るのに必要なスキルはそれぞれ異なります。どこまで一般化し共通に学習するべきでしょうか。各自の課題探究を試行錯誤しながら実践してもらうことを早い段階から優先すべきかもしれません。大変厚かましくはありますが、法人内の大学、女子大学の先生方や校友諸賢のお力をお貸し頂けるようお願いすることがあるかもしれません。その節は何卒よろしくお願いいたします。



女子中学校・高等学校

システムアプローチで考える地理授業

地理歴史科教諭

たなか たけひと
田中 岳人

地理総合の必修化とシステムアプローチ

2022年度から歴史総合とともに「地理総合」が必修化されました。地理総合は、グローバル化や持続可能な社会づくりに寄与する地理教育の指針であるルツェルン宣言といった国際的な動向のほか、激甚化する自然災害などを背景として必修化された経緯があります。そのため、地理総合はGIS（地理情報システム）、グローバル（国際理解と国際協力）、Education for Sustainable Development（以下、ESD）、防災を柱としています。中でも、グローバルやESDにおいて注目されているのが、システムアプローチという手法です。本稿では、私が高校2年生を対象に地理総合で実践した「システムアプローチで考える熱帯林の破壊問題」を紹介します。

システムアプローチとは、システムの見方・考え方に基き、複雑な物事を理解し対処することを指します。すなわち、「①相互関係から成り立つ構造を把握し、②その構造が生み出す全体的な挙動を捉える方法」です。①は事象間のつながり（関係と構造）を理解することであり、システマティックなアプローチといえます。②は各事象の相互関係が過去、現在、未来という時間軸の中でどのような「振る舞い（behavior）」を見せるかを理解し、予測することであり、システミックなアプローチといえます。地理学習におけるシステムアプローチの授業では、一般的に関係構造図やループ図などの思考ツールが使用されます。

本実践では、①関係構造図を活用し、熱帯林の破壊に関する地理的事象について因果関係をもとに線で結ぶ（システマティックなアプローチ）、②問題の構造を踏まえ、そ

れを改善するためにどこに介入するかを検討し、もしその事象を変化させたら、どのように振る舞うかを予測しつつ、1つの改善策をまとめる（システミックなアプローチ）という2段階を想定しました。

システムアプローチで考える熱帯林の破壊

帝国書院発行の地理総合の教科書では、ブラジルを含むラテンアメリカは歴史に着眼して取扱われます。具体的には、植民地支配を受けてきたことから、プランテーション農業や鉱産資源に依存したモノカルチャー経済に陥ったことなどが述べられています。これらの内容を中心に、自然環境を含めて2時間程度で取扱った後、熱帯林の破壊問題についてシステムアプローチで考える授業を、計3時間で実践しました。

◆第1時…課題の提示とシステムアプローチ

授業の冒頭で、熱帯林の破壊についての改善策を考えてもらうこと、それを本実践の最後にパフォーマンス課題としてポスターにまとめてもらうことを伝えました。その際、Google Formsを用いて、現段階で考えられる改善策を尋ねた結果、多くの生徒が「植林」と答えたことを確認しました。その後、システムアプローチについて簡単に説明

し、YouTubeにある「ボルネオの猫」という映像を視聴しました。この映像から、システム全体を考える視点の必要性を考えさせるとともに、物事の改善策に必殺技的なものではなく、「昨日の解決策が今日の問題を生まない」ことが重要であることを共有しました。

◆第2時…関係構造図の作成

本時では、まず生徒を4〜5人ずつのグループに分けた上で、あらかじめ事象を枠組みに位置づけた関係構造図をGoogle Classroomで配布しました。生徒らは、教科書や資料集、熱帯林の破壊問題を取扱った資料を読み解き、各事象間の関係性を主に因果関係で捉え、矢印で結んでいきます（図）。このプロセスを経て、熱帯林の破壊という現象が、直接的には、違法伐採や大豆栽培、過度な焼畑などさまざまな要因で起きていることを捉えさせます。では、熱

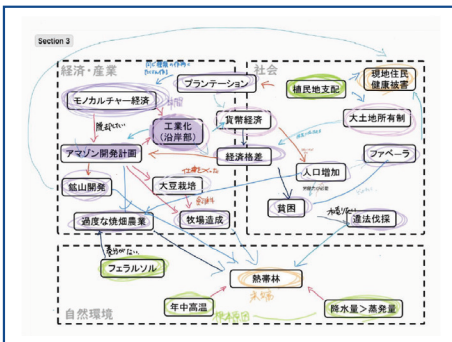


図 生徒の作成した関係構造図の例

帯林の破壊につながる要因がなぜ生じているのでしょうか？この関係構造図を作成すると、ブラジルにおける東西の経済格差や貧困が背景にあることが可視化されます。すなわち、植民地支配以降に生じたモノカルチャー経済や経済格差、貧困を脱却するために、熱帯林を切り開いてきたという構造が明らかになるはずです。したがって、そのような構造が維持される限り、植林だけを続けても効果的な改善策といえないのは明白です。

◆第3時…改善策の検討

本時では、関係構造図を踏まえて、問題の構造および本質を明らかにした上で、各グループで介入点や改善策を検討させました。ここで重要なことは、作成した関係構造図上で、「もし事象を××に変えたらどうなるか？」すなわち、If-thenで考えさせることです。また生徒には、「ボルネオの猫」の事例を踏まえて、必殺技的なものではなく、小さな改善策をつなぎ合わせて考えるよう助言をしました。関係構造図をもとに改善策を考えると、「問題はつながっているから、改善策もつながっている」ことを実感できるはずです。授業後、生徒には改善策をまとめたポスターをGoogle スライドで提出させ、アンケートに回答してもらいました。

最後に、生徒の感想をいくつか紹介します。

・熱帯林の減少は森林の伐採、と捉えるのではなく、その奥にあるものを解決することが本当に問題を解決する方法であり、表面的に捉えても、問題は解決しないことに気付かされた。大切なことは、問題をできるだけ深掘りして本質を正しく見極めることだと思う。これから起こる多くの問題に共通することなので、本質を理解する能力を習得したい。

・授業前は熱帯林減少を防ぐために植林するという直接的な方法を述べていたが授業後は公共事業を増やすという間接的な解決策になった。地理の授業を通して色々な視点から物事を見ることができるようになったと思いました。物事を解決する方法は直接的な方法だけでなく間接的な方法でも解決することができると知りとても面白いと思ったし今起こっている問題を見る視点が変わりました。

地球環境問題が例示するように、表面上に見えていることの多くは本質ではないと思います。「見えないものに目を注ぐ」視点の大切さを、地理を通して伝えていきたいと思っています。



幼稚園

生活を 生活で 生活へ

子どものさながらの生活を大切に

園長 矢田 貴美代
やた きみよ

10年ぶりに保育現場に戻り、今、改めて思うこと

私は、2025年4月より同志社幼稚園の園長を拝命しました。昨年までの約10年間は、伊丹市教育委員会事務局で市全体の幼児教育の質の向上を図るため、様々な施策展開に携わってきました。例えば、公立幼稚園の統廃合、公立認定こども園の設立、市幼児教育センターの開設、市幼児教育ビジョンやカリキュラム、手引書などの作成などをし、教員対象に研修をしたり、時には市民の方へ説明をしたり、市議会答弁の作成などもしたりしました。この間、常々思ったことは、幼児教育関係者以外の方に、幼児教育を正しく理解していただくことが難しいということでした。併せて、幼児教育にはいろいろな形があることも痛感しました。前任で、私は担当課長として公私立の幼稚園や保育所等を訪問させていただきましたが、乳児から英語を教えている園、学校のように机に座ってドリルをしている園、

かたや園庭で自然に触れながらのびのび遊んでいる園など、同じ乳幼児期の保育でありながら施設が変われば、子どもが経験する内容は様々です。幼稚園教育要領や保育所保育指針では、幼児の読み書きに対する内容として「数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること」といった記載があり、あくまでも「遊びを通して」が枕詞として必ずついてくるはずで、なぜなら、幼児期は体験をもとに興味や概念と出合い学んでいく発達段階にあるからです。しかしながら、幼児教育の世界では、残念ながら、子どもの学びより保護者ニーズが重んじられる現状があり、やはり義務教育でないがゆえに保護者サービスといった認識をもつ幼児教育関係者が存在するのではないかと懸念します。そのような中、今年、保育現場に戻り、毎日子どもと生活をしている中で、タイトルの文言の意味を改めて痛感しています。

倉橋惣三「幼稚園真諦」に帰るべき

フレーベルの精神を忘れて、その方法の末のみを伝
統化した幼稚園を疑う。定型と機械化とによって、幼
児のいきいきしさを奪う幼稚園を慨く。幼児を無理に
自分の方へ捕まえて、幼児の方へ赴き即こうとするこ
まやかさのない幼稚園を忌む。つまりは、幼児を教育
すると称して、幼児を先ず生活させることをしない幼
稚園に反対する。

「幼稚園真諦」序章より 著 倉橋惣三

倉橋惣三は、大正から昭和にかけて活躍をした児童心理
学者です。日本の幼児教育について、基礎的な理論を集大
成し、その基本的な方向を示しながら、現場の実践に対し
て熱心に指導と啓蒙を続けられました。

この「幼稚園真諦」は、昭和9年東洋図書より「幼稚園
保育法真諦」として出版されたものから、昭和28年、内容
を筆者により加筆整理されたのち「幼稚園真諦」と改題し、
フレーベル館から刊行されたものです。倉橋は、当時から、
こどもファーストであり、日本の幼児教育に対して、序章
で示しているように、様々懸念を抱いていました。それは、
倉橋が長く東京女子高等師範学校（現在のお茶の水女子大
学の前身）附属幼稚園の主事を務め、子どもと共に生活を

したからこそ抱く思いだったと考えます。

究極なことを言いますと、倉橋は、「幼稚園へ子どもを
来させるのではなく、こっちから子どもの遊んでいるところ
へ出向いていくことにしたらどんなものだろうか」と
と本書で示しています。つまり、子どもの生活している
ところへ教育を持って出かけると、随所で子どものありの
ままの生活形態で教育をすることができると語っています。
タイトルの言葉の意味はここにあります。それくらい、幼
児期の子どものさながらの生活は大切で、幼稚園は子ども
を型にはめて発達段階以上のことをさせ、無理をさせてい
ないかということを倉橋は何度も書き記しています。

同志社幼稚園の生活

本園の子ども達は、登園をすると、自分の荷物をロッカ
ーに片づけたら一目散に園庭に駆け出して行きます。ツリ
ーハウスによじ登ったり、砂場でご馳走づくりをしたり、
草花を摘んだり、虫を見つかったり、各々が自分の好きなこ
とをし始めます。そこでは、子どものありのままの姿が見
られ、この時間に一人一人の子どもの興味や関心が見て取
れる場所に行き、子どもの発信に共感をしたり、時に仲間の
一員として一緒に遊び、遊びながら子ども同士の気持ち
を橋渡ししたり、遊びのアイデアを出したりします。子ども



葉のセレクトに実に慎重であるべきです。そうでなければ、子どもの世界観があつというまに大人の価値観に変わってしまうからです。

私は、このように子どもの好きなことを存分にする時間が園生活の全てであればどんなに面白いことかと思えます。そして倉橋が言うようにそこに教育をもたらす、それが実現できれば、一人一人の子どものよさをもっと大切にできるのではとも思います。

年中組のA児は、毎朝ふてくされたような表情で登園します。機嫌がよい時は鼻歌を歌いながら来ますが、「○○さん、おはよう。」という園長の声掛けに目を合わせず、園舎に入っていくのです。クラス活動の時も友達と離れて

のしようとする活動に、できるだけ自然に教育を浸透させていくといった感じですが。私は、時々子どもの中に混じって一緒に遊ぶのですが、子どものつぶやき、息遣い、まなざしを真近で感じるができます。そこには子どものありのままの姿がありますので、教師は口を挟むタイミング、言

座り、活動に参加しない日が多くありました。そのようなA児ですが、自由に活動をする時間は生き生きと園庭に飛び出し、花や草を大事そうに摘んで、自分の見つけたものを見せてくれたり、目を丸くし、息を弾ませ発見したことを話してくれたりするのです。そのようなA児を見て、A児のよさを改めて実感しました。



幼稚園は同年齢の子どもが集団生活を営む場です。しかしながら、その生活は倉橋が何度も言うように、子どもにとって自然な生活の流れであることが大前提です。子どもが安心してありのままの自分を出せる自由に活動する時間はなくてはなりません。自由な時間に加え、より多様な個性や価値観に出会わせるため、クラス活動を設定し、新たな刺激と学びが経験できるようにすることも必要です。

ある子どもが降園前に「もう、帰る時間？」と言いました。その子にとって、幼稚園の生活は無理がなく自然な流れの1日だったのでしょうか。毎日がそうあるべきです。子どものさながらの生活に、教育を織り込んでいく、そのような保育を今後も目指していきたいと考えています。

大学

「大きくすれば安くなる」はどこまで通用するのか——コンテナ船巨大化の行き着く先

商学部助教 キセリヨフ エフゲーニ

私たちの身の回りで船や鉄道、トラックに運ばれている「コンテナ」は、日常に溶け込み、その存在を意識することとはほとんどありません。戦後、世界中と自由に取引できる時代が広がりましたが、その背後には「コンテナ化」という静かな革命がありました。

1956年に就航した最初のコンテナ船は、実はタンカーを改造したもので、積載できたコンテナはわずか58個でした。いま日本の港に入ってくる超大型コンテナ船は、一度に2万個以上のコンテナを積載します。この巨大化の大部分は、過去25年ほどの間に進んだものです。背景には単純な経済原理があり、船が大きいほどコンテナ1個あたりの輸送コストを抑えられるのです。

たとえるなら、倉庫から毎日少量の荷物を複数回に分けて出荷するのか、大型トラック1台にまとめて一度で出荷するのかという違いに似ています。企業側にとっては、大

型トラック1台でまとめて運ぶ方が効率的です。このモデルは長年にわたり海運業界ではうまく機能し、私たちが幅広い商品を手頃な価格で入手できる環境を支えてきました。しかし、過去25年の大型化によって、一般の人々が気づきにくい限界が徐々に露わになってきました。超大型船を受け入れられる港は限られており、船が大きくなりすぎれば、狭い運河や曲がり角では操船が難しくなります。2021年3月にスエズ運河を塞いだEVER GIVENの事故はその典型で、400メートルのコンテナ船が座礁し、世界中のサプライチェーンに混乱が広がりました。

さらなる巨大化で得られるコスト削減効果は頭打ちとなり、一方でリスクとインフラ負担は着実に増大しています。これ以上の船の大型化を進めるためには、港や運河の再構築が必要です。しかも、航路が1本塞がれただけで供給不足が起きる今では、「より大きな船を作り続ければ安定する」という前提そのものが崩れつつあります。

現代の生活は、最大限の効率を追求した貿易システムに依存していますが、効率を極端まで追い込みすぎれば脆さが生まれます。超大型船は世界を便利にしましたが、その限界は私たちに問いを突きつけています——物理的な拡大がほぼ限界に達したシステムの上に、いまの世界貿易はどこまで依存し続けることが可能なのかという問いです。

女子大学

旅を形づくるのは誰か

現代社会学部助教 金^{きむ}明^{みよんじゆ}柱

私が初めて海外旅行をしたのは、大学2年生の時でした。日本や東南アジア諸国といった韓国人に人気の地域ではなく、シリアやイランなど観光地としては馴染みのないユーラシアの7カ国を、約3ヶ月かけて巡るまさに冒険心を抱きながらの旅でした。

今でも印象に残っているのは壮大な自然や世界遺産ではなく、人々から受けた「歓待」の経験です。トルコからシリアへ向かう途中、国境近くの小さな町に到着したときのことです。宿泊施設も飲食店もほとんどない小さな町でしたが、バスを降りるとどこからともなく子どもたちが集まってきた、私たちを取り囲みました。外国人が珍しいのか、初めて見る私たちに「家に来て」と手を引く張るのです。その中で、赤ん坊を抱いた若い夫婦の家に泊めてもらいました。たどたどしい英語と身振り手振りで会話するなか、夫婦は次々と料理を出してもてなしてくれました。お腹いっぱいだと伝えても止めず、最後には家にある様々な物までお土産に持たせようとしてました。

この経験から私は、旅とは旅行者だけがつくるものではない

なく、旅行者を迎える人々の存在によって形づくられるものだと思うようになりました。もしかすると、あの場で一番旅行を楽しんでいたのは、私たちを迎えてくれたあの夫婦や子どもたちだったのかもしれないですね。まさに観光人類学というホスト・ゲストの関係を、ポジティブな形で体感した瞬間でした。

その後、北海道大学大学院で観光学を学ぶ中で、「長崎さるく」という長崎市のまち歩き事業に出会いました。現地調査で住民ガイドさんに案内され、商店街を歩く中でカステラ屋さんやザボン漬け屋さんなどに立ち寄り、店主の方々が自分たちの歴史や商品を、本当に楽しそうに紹介してくれる姿がとても印象的でした。「私たちの町はこんなに面白いんだよ」という誇りが伝わり、私自身も長崎というまちが好きになりました。この体験をきっかけに、長崎さるくに魅了され、私は長崎で暮らしながら博士研究に取り組むことになりました。

近年、日本ではオーバーツーリズムが社会問題となり、外国人観光客への疲労感が高まっているように感じます。制度的な対策が求められる一方で、「旅行者を迎えることの楽しさ」や「自分の地域を紹介する喜び」といった、観光の根源的な価値が見失われつつあるのではないのでしょうか。観光はホストとゲストが共に紡ぐものであり、ホストが楽しめる観光のあり方こそ、これからの観光を考えるうえで重要なテーマになるのではないかと考えます。

国際学院

便利さの陰に潜む代償

—スマートフォン利用と児童の学力低下—

初等部教諭 石川 翼
いしかわ つばさ

近年、児童の学力低下が全国的に課題として指摘される中、その背景の一因としてスマートフォンの過度な利用が注目されています。小学校現場においても、授業中の集中力の低下や語彙量の減少、思考の持続が困難な児童が増加している印象があります。これらの変化は単なる個人差ではなく、生活習慣の変化と密接に関連しており、特に低年齢からのスマートフォン使用が学力形成に与える影響は看過できません。

スマートフォンは、情報への即時的アクセスと視覚的刺激を特徴とする便利な道具ですが、その利便性こそが児童の学習過程を阻害する要因となっています。児童は困難な課題に直面した際、検索や動画視聴を通じて容易に「答え」にたどり着けるため、試行錯誤を通して理解を深める機会が減少しています。学びの過程で不可欠な「考える」「待つ」「諦めずに取り組む」といった認知的努力が育たず、結果として思考の持続力や問題解決力が低下します。また、ス

マートフォンの使用時間が長い児童ほど読書量が減り、語彙や文脈理解力の発達が阻害される傾向も見られます。これらの影響は、特に言語活動が基盤となる国語や英語の学力に顕著に表れています。

さらに、スマートフォンは常時接続型のメディアであり、通知やSNSなどによって注意を細分化します。脳科学的にも、頻繁な情報切り替えはワーキングメモリの容量を圧迫し、深い思考の持続を妨げることが指摘されています。学習において最も重要な「集中して考える時間」が奪われ、表面的な理解や暗記に偏りがちになります。このように、スマートフォンはその構造的特性によって、児童の学力形成に負の影響を与えると考えられます。

教育現場として重要なのは、スマートフォンを一律に排除することではなく、学齢に応じた使用の制限と家庭教育の在り方を再考することです。学校がICT教育を推進する中でも、スマートフォンのような受動的メディアとの明確な線引きを行い、「使う技術」よりも「使いこなす意志」を育むことが求められます。学力の根幹は、機器によって得られる情報量ではなく、自らの思考によって理解を構築する力にあります。スマートフォンの便利さの裏に潜む学力低下の構造を直視し、学校と家庭が協働してその利用の在り方を再構築することが、今後の初等教育における重要課題であるでしょう。



権利の名のもとに

イスラエルにおける
性的少数者の権利と
動物の権利
保井啓志 著
東京大学出版会
南原繁記念出版賞
受賞作
各論種別を定めた異議を唱えることが
目的であるに似ていつかはついでなか

東京大学出版会
6,380円(税込)
刊行日 2025年3月27日

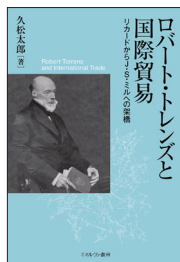
権利の名のもとに

保井啓志

(大学研究開発推進機構 学術研究員
人間文化研究機構 人間文化研究創発センター 研究員) 著

本書の舞台は、パレスチナ問題の震源地としても知られるイスラエル。2023年以降イスラエルの侵攻によって、ガザでの人道危機が連日日本でも報道されるようになりました。本書では、そんなイスラエルで展開される、性的少数者の権利や動物の権利運動という現代的なトピックを取り扱っています。権利運動とえば、本来は社会的弱者の声に耳を傾け、解放や平等を求めるはずのものです。しかし、イスラエルでは、この権利運動の成果が、「民主主義」や「先進性」を国際的にアピールしパレスチナに対する戦争を正当化するためのナショナリズムや右派政治に接続している現実があります。こうした矛盾はいかにして起こるのかこの問いを経済・政治・思想の三点から追いました。中でも、ジェンダー・セクシュアリティ研究の理論的業績を応用しながら、本書では新たに分析概念として「ヴィーガン・ナショナリズム」という言葉を導入し、批判的動物研究という新しい学問領域の理論的發展に寄与すべく執筆しました。本書は、これらのトピックを通じて、とても複雑でユニークな歴史を持つイスラエル社会の一端を浮かび上がらせることを狙っています。なので、パレスチナ問題に関心のある読者はもちろんのこと、イスラエル社会に関心のある方、また「LGBTQ」や動物倫理など、社会正義に関心がある方などにも、本書を手にとってほしいです。

著者より



ロバート・トレンズと 国際貿易

ミネルヴァ書房
4,180円(税込)
刊行日 2025年5月30日

リカードからJ・S・ミルへの架橋
久松太郎 著
ひだまつ 著
久松太郎 (大学商学部教授)

ロバート・トレンズ(1780?~1864)。経済思想家でもなければ、その名を知る者はほとんどいないだろう。だが、国際貿易理論の歴史における彼の足跡は無視しえない。標準的な教科書に見られるリカード・モデル(比較優位の貿易理論)は、D・リカード(1772~1823)を出所としてJ・S・ミル(1806~173)が完成させたものと考えられているが、その変遷過程において一役買い、同時にリカード・モデルをリカードの創造物たらしめるべく後世の人びとを誘ったのはトレンズである。また、昨今世間を騒がせている相互関税や報復関税といった貿易政策をめぐる議論は、19世紀前半の互惠主義論争にその起源をもつが、この論争の中心的役割を果たしたのも彼である。

本書は、職業軍人であり、国会議員であり、新聞社の経営者兼論説委員であり、小説家であった、異色の経済学者トレンズに光をあて、古典派経済学(研究)における彼の功罪を描き出すとともに、国際経済学の歴史に埋もれたその仕事を再考する試みである。各章は研究論文の形式をとっておらず、経済学の研究や学習に必要な数学の説明もできるだけ初歩的な水準にとどめている。専門書でありながらも平易な読み物としての性格をもたせてある本書を、経済学史の参考書として使ってもらえるなら幸いである。また、貿易に関する議論をかき集めると、それらを国際経済学の参考資料として利用できるようにも工夫したつもりである。

著者より

※著者の所属・職名は執筆時のものです。



青土社
4,950円(税込)
刊行日 2025年7月1日

広告の昭和

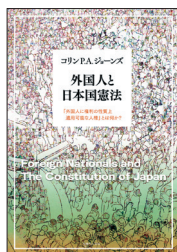
「テレビCMがやってる!」

竹内幸絵 (大学社会学部教授 著)

昭和生まれの私は紛れもない「テレビ世代」。昭和にはデジタルネイティブの令和の大学生たちの想像を超える、時代を象徴し記憶に残るテレビCMが数多くある。広告史研究者であるからにはその歴史を書きたい。同志社に着任した10年前からそう思い続けてきた。しかし困難は大きかった。一つの理由はテレビCMはおろか「テレビ史」の確たる先行研究さえ存在していなかったこと。カラー化の波がいつ到来したのかを言明した研究さえもなかった(カラー放送開始と同時に「波」が来たわけではない)。そして膨大な量のテレビCM。これを貫く研究視点に何があり得るのか。手探りの状況が続いた。

本書では多くの資料調査に基づき、テレビカラー化の画期を1967年と断定した。テレビCMでその画期を牽引したのは「レナウン・イエイエ」だ。なぜあのモダンでポップなCMが作り得たのか。テレビ放送開始翌年の1954年にオンエアされた「ワ・ワ・ワ輪が三つ」のミツワ石鹸の人形アニメの人形のモデルが黒柳徹子だったことも発掘した。しかしあのCMはなぜ突出して目を引く創作だったのか。映画監督の大林宣彦が2000を超えるCMを作ったというがそれはいつた年代なのか……。突出して美しく面白くCMの制作の謎を探るうちに、気が付けば研究視点は「CMに引用された芸術史」に定まっていた。まだ幼かった私の心に残ったCMには最新の芸術潮流が埋め込まれていたのだ。研究書ですが図版満載です。一般の方も、懐かしいCMを思い出しつつ読み進めるうちに、芸術史にも理解が深まる。そんな読後感をお持ちいただければ幸いです。

著者より



現代人文社
2,860円(税込)
刊行日 2025年6月25日

外国人と日本国憲法

「ラン」
Colin P.A. Jones
ジョーンズ
(大学司法研究科教授 著)

日本国憲法第三章のタイトルは「国民の権利及び義務」である。憲法第97条には、「この憲法が日本国民に保障する基本的人権」という文言が定められている。

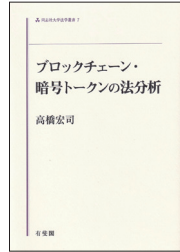
国民のみに保障される人権は果たして「人権」と言えるのか。日本国民でない私の基本的人権は保障されないのか。この関連で1978年の最高裁の著名判例がある。その要旨のやや平たい説明をすれば、「在日外国人の人権は、入管法の枠内のみ、憲法に保障される場合がある(かもしれない)」になる。

この判例が外国人と憲法の関係の長年の通説的解釈の基盤となった。しかし、外国人の法律家として、私は「憲法上の保障」をほとんど感じ取れない判例と通説である。もっぱら日本人の法律家と法学者が研究・議論してきたため、外国人の視点から「外国人と日本国憲法」について考えることが、本書執筆の理由である。

外国人は入管法が許す限りの日本に在留しかできないので、彼らが日本で構築してきた生活は、無条件に日本に在留できる日本人と比べて脆い。そのため、憲法を含む日本の法律と裁判所がどこまで当てにできるかが、外国人にとって極めて具体的な課題である。

日本で生活を営む外国人が急増する昨今、外国人と日本国憲法の関係を考える必要があるかもしれない。かつて日本国籍を有した人々がどのように「外国人」になったか、憲法各条文の権利と自由が実際に外国人にどこまで保障されてきたのか、日本の裁判所がどこまで外国人の在留資格と人権を担保してきたかを検証する内容の一冊である。

著者より



有斐閣
8,030円(税込)
刊行日 2025年7月30日

ブロックチェーン・暗号トークンの法分析

高橋 宏司^{たかはし ひろし}
(大学司法研究科教授) 著

暗号資産ビットコインを誕生させたブロックチェーン技術は、ネットワーク上の多数の端末に置かれた取引履歴(分散台帳)の同期を実現する技術だ。従来型の中央サーバに記録されたデジタル資産がサーバ管理者の存在に依存しているのと対照的に、ブロックチェーンは、中央管理者の介在を要せずに保有し、移動することができ、その意味であたかも有体物のように取り扱うことのできるデジタル資産(暗号トークン)を生み出した。暗号トークンには、仮想通貨のようにそれ自体に財産的価値が認められているもののほかに、何らかの権利を表す権利付きトークンも存在し、ブロックチェーンの牽引する社会はトークンエコノミーと称されることもある。

巨大プラットフォームが市場を支配し、寡占利益を上げている現代社会において、中央管理者を要さないという仕組みは、リバタリアン(自由至上主義者)でなくとも魅力を感じられるのではないだろうか。この非中央集権的な特性はアナキズム(無政府主義)とも共鳴し易いため、ブロックチェーンによって「規制回避が可能となる」「コンピュータコード自体が法である(Code is Law)」といった言説が流布した時期もあった。しかし、むしろトークンエコノミーの盛衰を握るのが法であり、本書は、「管理者に信頼を置かない」からこそ「信頼に値する仕組みである」という理念にいかに向き合うかなど、ブロックチェーンが提起する新たな法的課題を検討している。

著者より



明石書店
5,500円(税込)
刊行日 2025年7月25日

スウェーデンにおける障害者のパーソナルアシスタンス制度

鈴木 良^{すずき りょう}
(大学社会学部教授) 著

パーソナルアシスタンス(以下、P.A.)とは、障害当事者が彼らの支援者を雇用し、支援の内容を決めることのできるサービスです。これは、支援者という存在を障害当事者が選択・決定することと可能にすることによって、障害当事者を支えるネットワークや、組織や社会のあり方を根本的に問い直す契機をもたらします。当制度は、福祉先進国では1970年代以降に開始・展開されていて、障害者権利条約の中でも重視されています。

この書籍は、P.A.という用語が生まれたスウェーデンにおいて、当制度の歴史や現状を明らかにしています。とりわけ、近年のスウェーデン政府によるP.A.費を抑制する政策に対して、運動団体がどのような主張や活動を展開させているのかということについて具体的に記述している点に特徴があります。研究方法としては主に、2017年から2018年にかけて行ったP.A.利用者及び家族、支援機関や行政の関係者などへのインタビュー、生活及び活動の参与観察といった質的調査の結果をエスグラフィックによって記述しています。こうしたスウェーデンの近年の状況を含めたP.A.制度の研究は、日本では未だ発表されていません。この書籍を通して、障害者が他の人たちと平等に生きる社会はどのように実現できるのか、日本社会において当制度をどのように成立させ、発展させることができるのかということについて読者と共に考えたいです。

著者より

株式会社の資本制度の研究

中筋智規

資本制度の支柱を成す資本維持の原則と、
資本充実の原則の両方の観点から、
我が国における資本制度のあり方を再検討する

著者名

商事法務

11,000円(税込)

刊行日 2025年8月30日

株式会社の資本制度の研究

なかすじともしき
中筋智規 (大学法学部助教 著)

本書は、日本の株式会社における資本制度を、資本充実の原則および資本維持の原則という伝統的な枠組みを手がかりに、理論史的・比較法的観点から再検討することを目的とするものである。わが国の会社法制において資本制度は、債権者保護の中核的手段として理解されてきたが、その具体的規律の根拠や機能については必ずしも十分に整理されてこなかった。本書では、この点を問題意識の出発点とし、まずアメリカ法およびドイツ・ヨーロッパ法における資本制度の形成過程を検討することにより、資本充実規制・配当制限規制・現物出資規制がいかなる理念の下で構築されてきたのかを明らかにする。その上で、日本法における資本制度を相対化し、各規制が果たすべき機能とその限界を理論的に析出することを試みた。とりわけ、支払能力基準や剰余金分配規制をめぐる議論を通じて、資本制度を単なる形式的規律としてではなく、株式会社における利害調整の構造の中に位置づけ直すことを目指している。

本書が、資本制度の基礎理論を再考する一助となれば幸いである。

著者より



ミネルヴァ書房

2,750円(税込)

刊行日 2025年9月30日

ソーシャルワークという「希望」

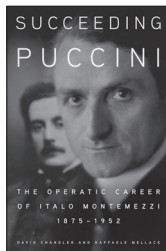
―分断する社会の中で考える
支援の根拠―くがひろと
空閑浩人 (大学社会学部教授 著)

今日の日本では、生活の支えとなるべき他者や社会との安定したつながりを失って、深刻な孤立状態を強いられる人々が増えています。ひきこもりやヤングケアラー、子どもの自殺の増加などの社会的課題の背景に、共通して社会的孤立の問題があるとされています。そしてこれらは、ソーシャルワーク(社会福祉分野を中心に医療や教育分野等でも用いられる人々への生活支援や地域づくり等の営み)という思想と方法、実践がなければ、解決できない社会問題です。

その意味で、現代はソーシャルワークが求められる時代であり、地域にソーシャルワーカー(社会福祉士や精神保健福祉士の国家資格を持ったソーシャルワーク専門職)がいることは、この時代の「希望」であると思います。

本書は、他者への想像力や寛容さが失われつつあり、分断や排除が行われる現代社会に求められるソーシャルワークについて考えたものです。学術書や研究書とは違う、また教科書やマニュアルの類いでもないソーシャルワークの本を、と思って書きました。筆者が出会った幅広いジャンルの本や資料から得た言葉によって、ソーシャルワークの使命や魅力、可能性について、できるだけわかりやすく、楽しく、面白く、やわらかく、しなやかに、粘り強く、そして大真面目に語った、言わば「ソーシャルワークすぎる」一冊になったと思っています。

著者より



Oxford University Press
記載なし
2025年

Succeeding Puccini

デイヴィッド・ジョン・チャンドラー
DAVID JOHN CHANDLER
(大学文学部教授) 著

世界中で最も頻繁に公演される、イタリア人作曲家ジャコモ・プッチーニのオペラ作品は、1600年代にまで遡るイタリアオペラ人気の「終焉」を象徴すると理解される事が多い。このような見方は、プッチーニのすぐ後に続く世代のイタリア作曲家達の評価に深刻な悪影響を及ぼしてきた。どの作曲家も、プッチーニの音楽が持つ「大衆に人気であり続ける要素」を欠いているとして、批判され、見過ごされてきたのだ。

本書はこの定説を、新しい、批判的視点から再評価するものである。イタロ・モンテメツィ(1875-1952)は、世界各地のオペラハウスでプッチーニの後継者の地位を目指したイタリア人作曲家のうちのひとりである。1905年にジョヴァンニ・ガッルレーゼの公演を大成功させた後、プッチーニの出版社であったカーザ・リコルディと契約を結んだモンテメツィは、イタリアオペラの新たなホープとして位置付けられた。彼の覇権は、1913年のL'amore dei re(三人の王の愛)の国際的成功で確立されたかのようであった。特にアメリカで、多くの批評家達はこのオペラがプッチーニのどの作品よりも優れているとしている。しかし、不運にもモンテメツィの作品以降、これに匹敵する成功を再び収めることが出来ず、オペラ史の中のその位置付けは不明瞭なままであった。

京都とミラノの二拠点で執筆され、同志社と同じくモンテメツィの生誕150年を記念して出版された本書は、彼の生涯とキャリアの先駆的研究である。モンテメツィを同時代の音楽・文化的背景、特に「プッチーニの後継者」を目指す試みの中に位置付けている。モンテメツィへの学術的関心を刷新するだけでなく、既にイタリアでも始まっているように、彼のオペラ作品の再上演を促すことが本書の目的である。

著者より

同志社創立 150 周年記念事業公式 YouTube

同志社創立 150 周年記念事業として行われた様々なイベントについて、YouTube でご覧いただけます。例えば、同志社内各学校の全キャンパスをドローンで撮影した動画や 2025 年 11 月 29 日に開催した同志社創立 150 周年記念式・献茶式などです。ぜひ、ご覧いただけますと幸いです。

<https://www.youtube.com/@doshishasouritsu150>



【その他の動画】

- ・アメリカ グレイス教会における同志社創立 150 周年記念礼拝 (2024 年 10 月 13 日)
- ・全同志社合唱祭 (2024 年 11 月 9 日)
- ・新作能 庭上梅 (2025 年 4 月 19 日)
- ・朝日教育会議 2025
- 「同志社・慶應・早稲田が考える教育の未来～私学の役割と人材育成～」①② (2025 年 5 月 17 日)
- ・同志社創立 150 周年記念式・献茶式 (2025 年 11 月 29 日)
- ・ハーディーホール ギター・コンサート (2025 年 11 月 30 日)
- ・Doshisha New Day (2021～2024 年度の 11 月 29 日)
- ・同志社紹介 PV 「One Purpose 志を同じくする者たち」 など



同志社紹介 PV 「One Purpose 志を同じくする者たち」



新作能 庭上梅

法人事務部 創立 150 周年記念事業事務局

『同志社百五十年史 各学校と関連団体』を刊行

法人部

『同志社百五十年史 各学校と関連団体』の刊行

同志社は、2025年11月29日に創立150年を迎えました。この記念すべき日に『同志社百五十年史』（全三巻）の最初の巻となる「各学校と関連団体」（編纂責任者…大島中正女子大学特任教授）を刊行することができました。まず、執筆者、そして執筆のための資料提供にご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。また、2022年5月から足かけ4年にわたり編纂活動にご理解、ご支援をいただきました各学校、団体の関係者の皆様にお礼を申し上げます。同志社にとりましては、1979年11月刊行の『同志社百年史』以来、およそ半世紀ぶりとなる年史刊行となります。

「各学校と関連団体」は、2023年3月現在、同志社に設置されている各学校とその組織、そして、同志社の関連団体を項目立てて、概要、沿革、現況を記したものです。

『同志社百五十年史』編纂委員会

法人部と各学校、関連団体の12部で構成されています。また、大学と女子大学については、学部、研究科に加えて、教育、研究、学生生活等の支援に係るセンターや図書館、研究所、そして各事務組織についても章を設けて記述しています。

執筆は各学校、組織の現況や歴史をよく知る教職員、関係者の皆様をお願いをしました。執筆者は総勢200人に及びました。このことにより、資料だけでは描き切れない各学校や組織の様子が活写されています。

特に、1990年代以降、大学や女子大学では学部、研究科が相次いで新設され、小学校や国際学院初等部・国際部も設置されました。そのはじまりを知る方々に執筆に加わっていただいたことで、この「各学校と関連団体」自体が未来へ引き継ぐ貴重な記録ともなります。

本文ページをカラーとし、できる限り写真や図表をふんだんに掲載する方針で編纂を進めました。これを機会に、

各学校や団体には写真や資料を集めていただくなど、ご協力をいただきました。写真については権利関係の制約もあり、十分に生かし切れなかったのは、残念です。

また、2023年3月の時点で存在する学校、組織を記述の対象としたので、例えば、商業高等学校など過去にあった学校や組織については、記述がありません。それらの学校や組織については、「通史Ⅰ」「通史Ⅱ」で取り上げることになっています。

『同志社百五十年史』の編纂

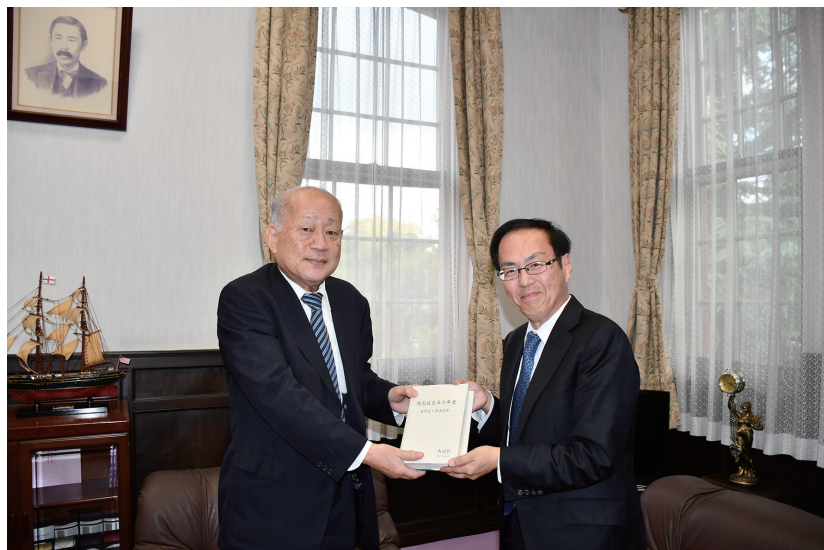
『同志社百五十年史』の編纂は、関係者の間で長年構想されてきました。それを踏まえて、2017年11月理事会で八田英二理事長から同志社創立150周年記念事業のひとつとして「同志社百五十年史」の刊行を行いたいとの報告があり、了承を得て、編纂に向けた動きがはじまりました。2018年1月に『同志社百五十年史』編纂準備委員会が発足し、同年3月の第一回委員会以降審議を重ね、『同志社百五十年史』編纂事業（案）について取りまとめ、2019年12月16日付で八田英二総長・理事長に提出しました。これを受けて、2020年7月に『同志社百五十年史』編纂委員会が発足し、編纂事業がスタートしました。

2020年12月には、最初の編纂スタッフが着任し、各巻、編纂委員である編纂責任者の下、編纂員1名、編纂補助員1名（各学校と関連団体）は2名で分担）の体制で、資料調査や編集作業に取り組んでいます。

現在、「通史Ⅰ」「通史Ⅱ」の刊行に向けて、資料調査、執筆、編集の作業が進んでいます。「通史Ⅰ」（編纂責任者：小林丈広大学文学部教授）は、新島襄の生涯を踏まえ、同志社創立の前後の時代から1950年代まで、「通史Ⅱ」（編纂責任者：山田史郎大学名誉教授）は、1950年代から現在までを対象としています。1975年以前についても『同志社百年史』では使用されなかった資料や新出資料も活用して執筆が進んでいます。1975年以降も、通史として「各学校と関連団体」とは違う切り口で叙述されます。2028年3月までに順次刊行する予定です。

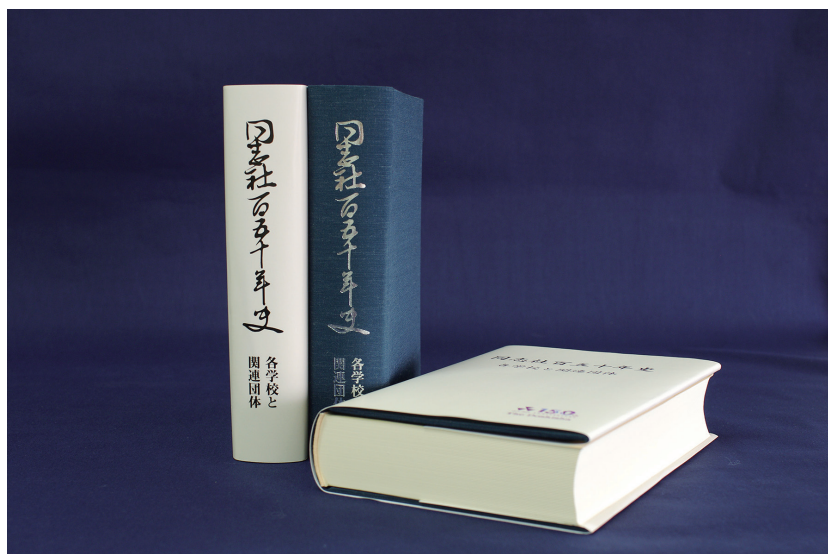
引き続き『同志社百五十年史』の編纂にご協力、ご支援をいただきますようお願いいたします。

『同志社百五十年史 各学校と関連団体』は、株式会社同志社エンタープライズ（電話075・251・3027）、同志社生活協同組合（電話075・251・4427、E-mail: doshisha_book-i@univ.coop）で販売しています（オンライン注文も受け



付けています。なお、一般書店では取り扱っていません。

八田英二総長・理事長に『同志社百五十年史 各学校と関連団体』の完成の報告をする大島中正委員
(2025年11月10日)



『同志社百五十年史 各学校と関連団体』
(A5判 768ページ)

ホームカミングデー2025／大懇親会

大学

校友課



オープニング

創立150周年を迎える記念すべき年となった2025
 年11月9日のホームカミングデーは、朝から雨に見舞われ
 ながらも約2,800名が来場し、キャンパス各所で温か
 い雰囲気の中、
 盛大に開催さ
 れた。あいに
 くの天候にも
 かかわらず、
 多くの卒業生
 やそのご家
 族・ご友人が
 足を運び、節
 目の年にふさ
 わしいにぎや
 かな一日とな
 った。



©MBS 清水 麻椰氏

石井 亮次氏

良心館サンクンモールのメインステージでは、資生堂元
 会長CEOの魚谷雅彦氏と学長の対談をはじめ、世代の異
 なるアナウンサーによるトークライブや小説家・真山仁氏
 のパネルディ
 スカッション
 など、多彩な
 プログラムが
 続いた。学生・
 生徒によるス
 テージでは、
 小学校や国際
 学院初等部の
 児童、応援團、
 グリーククラブ、
 マンドリンク
 ラブの学生ら



若手集い

が演舞・演奏を披露し、会場を大いに盛り上げた。

また、コロナ禍で卒業式を実施できなかった2020年3月卒業生を迎えての卒業セレモニーも行われ、学長および同志社校友会会長（当時の学長）からの温かいメッセージに、多くの卒業生が耳を傾けた。寒梅館で行われた同志社校友会主催の大懇親会は3部制で実施され、世代を超えた交流が終始にぎわいを見せた。39歳以下の若手卒業生向

け懇親会も同

日開催され、

幅広い世代の

校友が再会を

楽しむ姿があ

ちらこちらで

見られた。

その他、例

年好評のクラ

ス会・同窓会

や野点、キャ

ンパスツアー、

新島旧邸ツア

ー、アームス



野点

ト館の限定公開「いっぽくどーぞ」など、多彩な催しがキャンパス各所で展開された。

良心館では

「記憶の柱」

と題し、時代

を形づくって

きた同志社人

の紹介や、体

育会機関紙

「同志社スポーツアトム」で辿る70年の歩み、歴代記念品展示などが行われ、訪れた人々の関心を集めていた。

さらに、子ども向け企画「ふれあい遊び場」や、クラーク記念館でのチャペルコンサートも実施され、幅広い世代が思い思いに楽しめる一日となった。

また、明徳館食堂では「懐かしのメニュー」として限定100食で当時の味を再現したメニューが提供され、多く

る京田辺校地で開催されることが告げられ、その後、会場全体でカレッジソングを斉唱した。閉会式後にツリーの点灯が行われ、温かく輝く光の中で華やかなフィナーレを迎えた。



記憶の柱

の卒業生が学生時代を懐かしみながら食事を楽しんでいたことが印象的であった。閉会式では、グリーククラブの合唱と応援団による演舞に続き、廣安副学長より、来年度は開校40周年を迎える



閉会式

地域とつながる学びをつくる

女子大学

ゼミ生が運営する「こどもカフェ」

女子大学京田辺キャンパスから、興戸駅を挟んで反対側にある小学校の近くにコミュニティ・カフェ「悠隣館さきり」があります。日頃は地域の高齢者の方々が集まって体操をされるなどの交流する場所となっています。ここで、ゼミ生と一緒に月1回程度、「こどもカフェ きらり」を開催しています。

現代こども学科の学生は、保育職や教職だけでなく、企業や地方公務員、NPOなど多様な進路に進みます。こどもと関わる体験に加え、自分たちで企画し、仲間と協働する経験を通じた学びを、それぞれの進路に活かして欲しいという想いから、この取り組みに参加しています。講義だけでは得られない、試行錯誤や失敗を含む経験は、卒業後にも残る学びになります。

現代社会学部准教授

新谷 しんたに

龍太郎 りゅうたろう

夏はトマトの収穫や水遊び、秋は焼き芋、冬はクッキーを作ってクリスマスソングを歌うなど、様々な活動をこどもとともに行ってきました。保育実習や教育実習と異なり、こどもカフェでは保護者と一緒に食事を作ったり、話を聞く機会があります。お米の研ぎ方や、たこ焼きの焼き加減、余った食材で作るデザートなど、保護者の方々の経験を学生が吸収する機会となっています。

京都府社会福祉協議会を通じた企業からの食材寄付を活用し、おからクレープや、うずら豆の甘露煮を使ったアイスクリームなど、フードドライブ食材を用いたメニュー開発にも取り組みました。サイズアウトしたこども服を用いたワークショップも行い、当初は不安を感じていた学生も、実践を通じて自信を深めていきました。

中心的に行ってくれた学生は、こどもの好き嫌いをテーマに、調理体験が与える影響を卒業論文で分析しました。

その結果、子どもだけでなく、保護者にとっても子どもカフェが交流の場所となっていることが明らかになりました。学生は地域の方々との関わりから、多くを学んでいます。

物流会社と協働した大阪関西万博でのワークショップ

子ども食堂の運営には、フードドライブの食材を集め、保管し、配布するという物流の課題があります。実際に、京田辺市でも集めた食材の管理をボランティアの方々が手入力されていまして、効率化する方法について相談先を探していました。

そこで、子ども食堂のネットワークを通じて、城陽市にある今池子ども食堂・科学教室ゴリゴリの岡田実さんと出会いました。多額の私費を投じてこどもの居場所を作り、科学好きのこどもを育てるためにご自身が関わっていらった電気自動車を設置したり、無人運転でのイチジク畑の農薬散布、高齢者のための乗合電気バスを運営するなどの活動をされています。岡田さんが勤めていらった物流会社の三菱ロジスネクスト株式会社（元・ニチュ三菱フォークリフト株式会社）の方を紹介いただき、そのご縁で、大阪関西万博で子ども向けのワークショップをゼミ

生と一緒にさせていただくこととなりました。

テーマは、女性や高齢者、障がいのある方など多様な人が物流業界で働く未来でした。私たちはフォークリフトを遠隔操作して被災地での復旧作業を支援する体験ができる子ども向けワークショップを行いました。ラジコンのフォークリフトをモニターを見ながら操作するという内容で、こどもや保護者、外国の方などが参加してくれました。ラジコンにつけるカメラは、同志社大学の学生も協力して制作してくれました。このように、こどもカフェの運営を試みることで、様々な方とつながることができ、貴重な体験をさせていただくことが

できました。自分では一歩踏み出すことで、人となりが、一人では経験できなかったことができ。そうした地域とつながって生まれる学びの場を、これからも学生と共につくっていければと思います。



同志社クローズ・アップ

Real Madrid Foundation Clinics JAPAN 2025 in KYOTO DOSHISHA

中学校・高等学校

事務長 鎌田 伸一
かまだ しんいち

「Real Madrid Foundation Clinics Japan 2025」が、
関西で初めて同志社にて開催されました。

開催期間：2025年8月4日（月）～8月6日（水）

開催場所：大学 京田辺キャンパス サッカーグラウンド

「Real Madrid Foundation Football School JAPAN」

（レアル・マドリード・ファンデーション・フットボール
スクール・ジャパン）

HP：http://frmjapan.com（オフィシャルHP） 代表：

増田 稿平）は、レアル・マドリード財団（Fundación
Real Madrid）より、公式に認定されている、日本で唯一
のレアル・マドリード公式サッカースクールです。

2012年に東日本大震災復興支援活動に端を発して開
校したレアル・マドリードの公式サッカースクール（常設
型スクール）で、現在日本各地に6ヶ所を開校、在籍生は

1,400名。

Real Madrid Foundation Clinics について
世界的サッカークラブレアル・マドリード
の育成・トレーニングメソッドを体験する
サッカープログラム

世界160以上の国と地域で開催されている「Real
Madrid Foundation Clinics」とは、1902年に創立
され、120年の歴史と伝統を持つ世界有数の人気クラブ
「レアル・マドリード」のトップチームでも取り入れられ
ている指導メソッド「The Real Way」を基に構築された
トレーニングを、スペインのプロコーチから、直接指導を
受けられる特別なプログラムです。

サッカーの技術指導はもちろんのこと、自主性や積極性
を育むために、コミュニケーション能力の向上やメンタル

トレーニングも取り入れた3日間の特別なプログラムです。

また、「Real Madrid Foundation Clinics」で「最優秀選手」に選ばれた選手は、将来的に海外での活躍を期待できる選手として、世界中のクリニック優秀選手が一堂に会する「スペインキャンプ」に招待されます。レアル・マドリードのセカンドチームやユースチームのコーチの前でプレーを行うことで、その後、スペインでプレーするチャンスを得る事ができます。

実際、このクリニックで最優秀選手に選ばれた※中井卓大君（通称…ピピ）は、このクリニックに参加したことがきっかけで、現地（スペイン）でのキャンプに参加し、更にレアル・マドリードコーチの目に留まり、レアル・マドリードの育成組織カンテラに合格した史上初の日本人選手で、現在もスペインでプロサッカー選手として活躍しています。

（※中井卓大…滋賀県大津市出身、スペインプロサッカー選手。代表歴…〇U-15 〇U-19日本代表）

滋賀県在住で、長男、次男がサッカーをしていた為、幼少の頃の中井卓大君（ピピ）に出会い、このサッカークリニックを知っていた事がきっかけとなり、増田オーナーと

出会いました。また、大学サッカー部の松倉啓太郎、望月慎之監督、スポーツ支援課河村課長の支援により、今回、関西で初めて京都（同志社）で開催する事ができました。



中井卓大くん「ピピ」のテクニクにマルセロが驚愕 Pipi Real Madrid Marcelo
<https://www.youtube.com/watch?v=HuUtxycdMPg>



〈指導するコーチ〉：以下3名のコーチに、今回のクリニックを指導して頂きました。

・スペインから招聘するプロコーチ（フェルナンドコーチ）

・「Real Madrid Foundation Football School JAPAN」ヘッドコーチのJulio Carafio（スペイン人・ヨーロッパ最高レベル資格 UEFA PRO 取得）

・「Real Madrid Foundation Football School JAPAN」の専属コーチ

＊大学サッカー部のご協力により、4名の同志社大学生が、アシスタントコーチとして参加。その他、中学サッカー部顧問（矢野先生）、また、立命館の先生にもご協力頂きました。

世界を感じる。

Supported by
Clinic Japan

開催スケジュール
8/4(金) 8/5(土) 8/6(日)

リアル・マドリッド ファンデーションクリニック 2025 京都ラウンド

POINT 1
POINT 2
POINT 3

QRコード

同志社はここから申込み

Powered by REAL MADRID FOUNDATION CLINICS JAPAN 2025

開催日程 トレーニングについて MVP決定について

REAL MADRID FOUNDATION CLINICS JAPAN 2025

OKINAWA / KYOTO / TSUKUBA

TSUKUBA	KYOTO	NAHA	NAGO
8/31 8/31 8/31	8/24 8/24 8/24	8/26 8/26 8/26	8/27 8/27 8/27

会場、申込受付スタート！ おトクな早期割引は、購読設定で受付中！

Schedule: 開催スケジュール

会場	開催日時	会場名	住所	早期割引
TSUKUBA	8/31 - 8/31	つくば市立中央公園	茨城県つくば市東家3丁目3-1	GO
KYOTO	8/24 - 8/24	同志社大学	京都府京都市中京区	GO
NAHA	8/26 - 8/26	沖縄県立体育館	沖縄県那覇市首里	GO
NAGO	8/27 - 8/27	ナゴヤドーム	愛知県名古屋市東区	GO

リアル・マドリッド ファンデーションクリニック 2025

主催：同志社大学、Real Madrid Foundation Japan
協賛：トヨタ自動車株式会社、トヨタ自動車販売株式会社、トヨタ自動車販売株式会社、トヨタ自動車販売株式会社

TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
MAIL: info@real-madrid-japan.com

開催の概要

今回、関西初（同志社初）、全てが初めての経験であった為、準備に時間が掛かり、7月に入ってから募集となりましたが、参加者は、同志社はもちろん、広く一般からも応募があり、遠く東京、愛知、などからも、参加申込みがあり、小学生19名、中学生16名 合計・35名（3／4が同志社生）での開催となりました。8／4（月）～8／6（水）の3日間は、快晴。真夏であるにも関わらず、高台に位置する京田辺サッカーグラウンドには、爽やかな風が吹き、午前・小学生カテゴリー、午後・中学生カテゴリーのクリニックが実施されました。（同志社中学校の養護教諭、看護師のサポートにより）参加者全員、怪我や熱中症もなく、有意義な経験をして頂く事ができました。

また、このプログラムの主旨に賛同頂き、多くの方の善意による支援を頂き実施する事ができ、大成功のプログラムとなりました。これを機に、今後も「Real Madrid Foundation Football School JAPAN」、大学サッカー部とも連携し、同志社全体で、次のプログラムに結び付けていける事を願っています。



<中学生のカテゴリー>



<小学生のカテゴリー>



大阪府学生科学賞で最優秀大阪市長賞を受賞

香里中学校・高等学校

理科教諭・生物部顧問

古本 大

生物部の活動

生物部では、「生き物を知る」をテーマに日々様々な活動をおこなっています。生きるためには食べることが大事。そのために、校内に生えている渋柿を採集し、干し柿をつくり、ビワの実はそのまま食べるだけでなくコンポートにしてビワゼリーとして食し、磯採集に出かけてタコが捕れればゆでダコにし、マツバガイは焼いて食べ、紅藻のマクサは持ち帰り、寒天にします。清瀧川での採集では、オオサンショウウオが網に入ったり、カワムツを捕まえたりする傍



磯採集に夢中



カゲロウやトビケラをおいしい素揚げに調理中



美味しくできたトビケラの素揚げ

ら、水生昆虫のカゲロウなどを素揚げにして食べたりします。また、2022年の4月には校内で開墾を行い、小さな畑を作り、耕作を始めました。最初は5月に枝豆とサツマイモを育て、収穫後には大根を育て、翌23年の2月にはジャガイモを植えて育てました。そして、6月末、ジャガ

イモを収穫後、カボチャを育て始めました。

この23年の夏、猛暑の昼にカボチャの様子を見に行きました。すると、ほとんどの葉が萎れて垂れ下がり、今にも枯れそうに見えました。「水やりをしなければ」「でも今は昼間。今やるとお湯になるので、夕方にしよう。」で、夕方に来てみると、なんと葉は元通りになっていました。「あれだけ萎れていたのに、なんでこんなにすぐに元に戻るの？水をやっていないのに。」次の日も同じことが。しかもよく見ると、萎れている葉の隣で、日陰に入った葉は元に戻っているではないですか。「なんだこれ？」ということで、この変な現象を生物部と調べるようになりました。

カボチャの葉が萎れる謎

24年夏。萎れている葉は枯れないように蒸散をやめ、元に戻った葉では、根から水を吸い上げるために蒸散をしているはずだ。いつ蒸散を開始するのかそれを調べるために、葉に袋をかぶせ、中にたまった水の量を調べる実験を開始しました。葉の大きさによる蒸散量の違いを補正するために、葉の面積が必要です。方眼紙に葉をかたどり、1枚ずつ升目を数える手間のかかる調査を99枚行いました。そしてわかったことは、萎れている間も蒸散を続け、元に戻っ



カボチャの葉はここまで萎れる

た葉では蒸散をやめていたという衝撃の事実と、葉に箱をかぶせて暗くすると、さっきまで蒸散していた葉でもすぐに蒸散をやめ、箱を外した葉では、それまで日なたで蒸散していた葉と同じだけ蒸散すること、つまり日当たりの様子によって、すばやく気孔が開閉されることがわかりました。なんで萎れて枯れるリスクを冒しながらも蒸散を続けるのか？謎を抱えたまま夏が過ぎ去っていききました。

なぜだろうと、悶々としているなかで、「蒸散するのは葉を冷やすためだとすると、垂れ下がれば太陽光の当たる面積が減って好都合なのではないか」という考えにたどり着きました。つまり、「水不足で萎れているのではなく、わざと萎れたふりをしているのではないか」という仮説です。25年の夏はこの仮説を検証するべく、実験を企画しま

した。まず、角度を変えた台座に切り取ったカボチャの葉を広げ、照度と温度を計測しました。また、生きている葉の傾き方を針金に写しとり、それを紙に書きとって時刻による傾きの変化を記録しました。このとき、温度や照度も記録しました。そして最後に、萎れている葉や回復した葉、夜明け直後の萎れる前の葉を切り取り、その時の重さと72時間70度で乾燥させた後の重さを記録し、その差を計算し、葉の面積100平方センチメートル当たりの水分量を算出しました。すると、少しだけですが萎れている葉の水分量の方が多いという結果が出ました。つまり「カボチャは水分不足で萎れていたわけではない」ことが判明したのです。また角度実験では、最も葉の温度が上がったのが傾き30度であり、最も温度が上がらなかったのが真下に垂れ下がった葉でした。生きている葉の垂れ方の平均が66度で台座実験の60度と比較すると4度弱温度が下がっていました。生きている葉の普通のポジションが20から30度の傾きなので、蒸散しながら垂れ下げること5度以上の冷却効果が実証されたのです。つまり、カボチャは蒸散を続けながらわざと萎れたふりをして、葉の温度が高くなりすぎて障害が起きるのを防いでいる、と結論付けることができたのです。この結果をまとめて、大阪府学生科学賞に応募したとこ

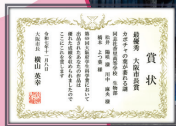
ろ、高校の部50作品中、最優秀大阪府知事賞には届かなかったものの、最優秀大阪市長賞を受賞することができました。生物部では過去に4回学生科学賞に応募し、いずれも最優秀賞をいただき、その中でも大阪市長賞は2回、受賞させていただいているので、今回で3回目の受賞となりました。日々楽しく生物と接する中で、面白いと思える現象に出会い、それを追いつめていくなかでのことなので、大変うれしく思います。このようなことを、これから生物部とともに続けていきたいと思っています。

生物部



「カボチャの葉が萎れる謎」で
大阪府学生科学賞
最優秀 大阪市長賞 受賞

中央審査へ進出!!



受賞の喜びを校内サイネージで報告

なんでも「買える」「今だから」「作る」「楽しむ」家庭科クラブの活動

女子中学校・高等学校

家庭科教諭・家庭科クラブ顧問
三方^{みかた} 双葉^{ふたば}

家庭科クラブについて

私が女子中学校・高等学校に家庭科教諭として勤め始めたのは二年前。家庭科クラブの顧問も初年度から務めています。顧問としてはまだ二年目ですが、本校の卒業生でもある私は、中・高の六年間家庭科クラブに所属していました。家庭科クラブの形は今と当時でほとんど変わっておらず、毎週月曜日と木曜日の週二日、放課後に活動しています。毛糸やフェルトを使ってマスコットを作ったり、花の日やクリスマスなど、行事やイベントに合った小物を作ったりしています。普段の活動は裁縫やクラフトがメインですが、春休み、夏休み、冬休みには調理実習に取り組みます。その他には、和菓子作り体験や食品工場の見学、合宿など、長期休暇中は普段学校ではできないような活動に取り組みます。

チャレンジの場としての家庭科クラブ

家庭科クラブはこれまで、去年までの内容を繰り返すというように、毎年同じルーティーンで活動してきました。安定して活動を進めることができるというメリットがある反面、マンネリ化してしまっているという現状もありました。そんなある日のクラブ活動中、生徒からある発言がありました。それは、『モールドール』って知ってる？作ってみたいけど、どうやって作るんだろう？』といったものの『モールドール』というのは、太いモールをねじって動物の形にし、目や鼻となるパーツをつけて作るぬいぐるみのこと。周りの生徒からも『作ってみたい』という言葉が次々と出てきました。

モールドール以外にも、どうやら生徒の見るSNSには裁縫やクラフトの短いHow to動画や記事が流れてくるようです。「作ってみたい」と「どう作ればよいかわから

ない」という生徒の素直な言葉。それを聞いたとき、「これだ!」と思いました。

基本的にものづくりは個人の作業ですが、「作ってみたけれど、一人で挑戦するのは難しい」というものもあります。こういったものにみんなでチャレンジできる場となるのが家庭科クラブなのではないかと思ったのです。早速作り方を調べ、材料を調達、試作・準備を経て、クラブの活動に取り入れました。モールの長さが足りなくなってしまうたり、ウサギを作るつもりがクマになってしまったり、思うようにいかないこともありましたが、興味関心のあるものに取り組む姿、初めてのことで主体的に、仲間と試行錯誤しながら取り組む生徒の姿は、とても生き生きとしていました。

モールドールをきっかけに、その後も生徒の「したい!」に耳を傾け、シーリングスタンプやニードルパンチなど様々なものに挑戦してきました。…とはいっても、活動内容を一新するのはとても難しいこと。今は前任の先生から引き継いだ資料を勉強し、それを基盤としながら、少しずつみんなで新しいことに挑戦しています。

みんなで作った記念のケーキ

新しいことへの挑戦の一環として、今年度は「フェイク

ケーキづくり」

に取り組みました。この企画も「同志社創立一五〇周年を記念する大きなケーキをみんなで作りたい!」という生徒の発言が

きっかけとなって始まりました。ケーキと言っても、「フェイク」のケーキ。紙や布で作った土台に、毛糸のポンポンでできたフルーツや粘土で作ったスイーツやクリームを飾って作ります。クラブ全体での合作は初めての試みでしたが、パーツを学年で分担し、計画を立て、一学期から制作を始めました。完成したケーキは学園祭のフォトスポットに展示し、多くの方に見ていただく機会を得ることができました。作ったケーキはフェイクでも、みんなが一つのものを作り上げる喜びや達成感は真に素晴らしいものとなったと思います。

献金袋に彩りを

本校では花の日や母の日、クリスマスといった行事毎に



献金を行います。今年度初の試みとして家庭科クラブが取り組んだのは、収穫感謝の日の献金袋につけるマスコット作り。マスコット一つ一つは小さくても、献金袋は六クラス×六年生の各HRに設置されるため、最低でも三六個必要です。「ちゃんと完成できるかな」

と最初は不安を感じていた生徒たちでしたが、励まし合って取り組み、色とりどりのかわいいマスコットが少しずつ増えていきました。最終的には四十個ほど完成することができました。作ったマスコットは生徒や先生方からも好評で、部員たちも自分たちの作品が学校の色々な場所で活躍していることをとても喜んでいました。



作ることを通して見えてくる世界

今の子どもたちを取り巻く環境。それは「なんでも買える環境」であると言えます。スーパーやコンビニに行けば、安くておいしい惣菜が並び、ほしい雑貨もスマホさえあればいつでもどこでも購入できる時代になりました。衣料品も信じられないほど安い価格のものが大量に販売されてい

ます。靴下でいえば、穴が開いたら修繕するための道具をそろえるよりも、一足買う方が安く済んでしまうような時代です。

しかし、このようななんでも「買える」時代だからこそ、「作る」経験が必要だと、私は考えています。家庭科クラブが作るものも、言ってしまうえば買えるものばかりです。調理実習でもときには失敗をして、悲しい仕上がりになってしまうこともあります。それでも、「何かを生み出す喜び」や個性を表現することの楽しさ、「アイデアを形にする」ことの難しさ・達成感」は、買うことでは得ることのできない、作ることを通して初めて得られるものです。これらは、これから生きていく子どもたちにとってかけがえのない糧となり、新しい世界を見せ、そこに踏み出す勇気を与えてくれると信じています。

家庭科クラブが集団活動であるという点で言えば、そこにさらに、「他者と協働することの大切さ」、「自らの知識や技能を他者のために発揮することの喜び」も加わることでしよう。

「たかが家庭科クラブ、されど家庭科クラブ」！
家庭科クラブでの経験が生徒たちの中で生き続けることを願います。

きらり輝く生徒へのインタビュー ～スポーツクライミングの魅力～

国際中学校・高等学校

教頭 二股 一 郎 ふたまた いちろう

帰国生徒が多く集う国際中学校・高等学校では、中高大一貫教育の強みを生かし、一人ひとりが持つ多様な個性・バックグラウンドを輝かせる教育に取り組んでいます。勉強はもちろん、生徒たちが実現したいこと、夢中になって挑戦していることを全力で応援したいと考えています。

今回は、小学生のときからスポーツクライミングの選手として活躍し、国内外で優秀な成績を収めている奥畑成さん（中学3年生（取材当時））を紹介します。

—最初に、スポーツクライミングについて教えてください。

ホールドと呼ばれるカラフルで小さな石を使って、自分の身体だけで高い壁を登っていくスポーツで、オリンピックの正式種目にも採用されています。公式の競技会で行われているのは、登る高さを競う「リード」、速さを競う「スピード」、登り切った回数を競う「ボルダー」の3種目。私が得意とするのはボルダー競技で、制限時間内に決めら



ゴールまでの道筋を思い描きながら登っていくのが楽しいですね。

—興味を持ったきっかけは何ですか？

7歳のときから始めました。父親がクライミングのジムを経営していて、いろんな年代の人たちが4メートルも5メートルもある高い壁を登っていくのを間近で見ているので、これなら自分でもできそうだと思ってチャレンジしたのですが、もちろんそんなに簡単なものではなくて…。もともと人に負けるのが嫌いな性格だったので、父親のスクール

に通って週3〜4回トレーニングを始めました。足を滑らせて落ちたりすることもありましたが、不思議と怖さなどはなく、むしろ悔しい、もっと上手になりたいと思うことが多かったですね。

小学生のときから始めたんですね。お父さんから学んだことはありますか。

最初は、父親に何か言われても反発ばかりしていました。ある大会に出たとき、「（滑り止めの）チョークを腰に巻いたらどうか」と言われたのですが、そんなことをしている選手は誰もいないし恥ずかしいと思って、アドバイスを聞かずに登ったところ、手のひらにかけた汗で滑って上手く

ホールドを掴むことができず、大会で負けてしまったんです。父親は自分のからだのこともしっかり理解してくれている…、強くなるためには謙虚な姿勢が大切だと気づかされました。技術だけでなく、大会に臨む姿勢や考え方などたくさんのかことを学びましたね。



―大会などで輝かしい成績を収めていますが、これまでの道のりで苦労したこと、悩んだことはありますか？

初めて国内の公式大会に出場したのは小学5年生で、リード競技で優勝、ボルダー競技で3位に入賞しました。6年生のときには、全国から選抜された80人以上の小学生が参加する公認大会で優勝するなど成績も良かったのですが、中学生くらいになると体重が増えて思うように身体が動かなくなり、大会で結果が出ないことも多くなりました。

精神的にもつらい時期が続きましたが、モチベーションが下がったときは負けた大会の録画を見直して気持ちを奮



い立たせ、毎日100回以上、ひたすら壁を登ってゴールを目指すというトレーニングを繰り返しました。学校のある日は4時間、休みの日は10時間以上、とにかく自分の限界を超え、絶対に誰にも負けなという自信を身に付けたことで、2025年5月に開催された日本ユース選手権大会ではボルダー競技、リード競



技で好成績を収め、8月に中国・貴陽市で行われたアジアユース選手権大会にも参加、U17男子ボルダーで3位に入賞することができました。

—スポーツクライミングを通して、得たものはありますか？

スポーツ競技全般に言えることかもしれませんが、厳しいトレーニングを乗り越え、大会で勝ったときの喜び、負けたときの悔しさを共有できるボルダリング仲間がたくさんできました。首都圏には世界で活躍するような一流選手も多く、スポーツクライミングのジムもたくさんあるので、夏休みなどを利用し仲間と一緒に自主合宿に出かけたりして、お互い切磋琢磨しながら技術を磨き上げています。国

際中・高にもスポーツクライミングをしている先輩や後輩、先生がいて、世代を超えて共通の話題で盛り上がることも多いですね。ボルダリングの高い壁を登り切ったときの達成感・満足感は言葉では言い表せません。多くの人にスポーツクライミングの魅力を伝えられたらと思っています。

—国際中学校で学んで良かったと思う点を教えてください。

国内外の大会に参加するときには、所属する中学校の推薦等が必要になるのですが、教頭の二股先生やたくさん先生が私の活動を理解しバックアップしてくださり、安心して大会やトレーニングに打ち込むことができました。中高一貫で、大学にも接続していて、受験を意識せず、自分が好きなこと、やりたいことに時間を振り分けられるのが、国際中学校の良いところだと思います。ボルダリングだけでなく、英語の大会に出たり難しい研究をしたり、個性的な趣味や特技を持っている友だちが周りにたくさんいるので、自分もいろんな刺激を受けています。

—今後の目標は何ですか？

高校生から世界ユース選手権大会への出場の道が開かれるので、得意のボルダー競技で優勝を目指したいですね。アジアユース選手権では全力を出し切って3位でしたが、トップアスリートと同じ舞台で競技できて学ぶことも多かったです。今、最も活躍している選手は、自分と同じ19歳くらいまでの世代。彼らに負けないように、これからも努力を続けていきたいと思っています。

UOIと関連した施設見学と、新島襄の足跡をたどった宿泊学習(五年生)

国際学院

初等部教頭 風間 寛 かざま ひろし

はじめに

国際バカロレア（IB）認定校である国際学院初等部（D I A E S）の校外学習や宿泊学習は、必ずPYP（初等教育プログラム）と連動したものとなっており、IBのめざす学習者像（ラーナープロフィール）、教科横断的テーマに則り、セントラルアイディアやキー・コンセプトなど児童が調べたり思考したりする、いわば窓口を設定して探究していきます。

その中で、5年生は毎年東京と群馬に出かけています。今年度、東京では科学技術館と国会議事堂、群馬では新島学園、群馬県立自然史博物館、富岡製糸場を訪れました。

UOI（探究の単元）と関連した施設見学

UOI（Unit Of Inquiry, 探究の単元）のUnit4では、“Society 5.0 offers a new model which contributes

to the achievement of SDGs.”（Society5.0はSDGsの達成に貢献する新しいモデルとなる。）をセントラル・

アイディアに、小学校社会科で学習する工業や情報に関して、日常生活との関連や消費者・企業・政府といった経済主体との社会的責任について探究していきます。

一日目に訪れた科学技術館（東京都）では、金属工業や建設業、自動車や家電のリサイクルを中

心に見学しました。この科学技術館は「現代から近未来の科学技術や産業技術に関する知識を広く国民に対して普及・啓発する」施設です。児童は



富岡製糸場



新島家旧宅

工業や情報分野だけでなく自分の興味のあるフロアに行っ
て見学しました。

三日目の富岡製糸場（群馬県）では、蚕から絹糸を取り
出す技術、日本の養蚕業の歴史も学びました。富岡製糸場
は当時世界最大級の規模を誇る官営工場であり、設立当初
は女性たちが手作業で蚕の繭から生糸を取り出す作業を行
っていたことなど、ボランティアガイドの方から様々な話
を聞き、熱心にメモを取ったり質問をしたりしていました。

新島襄の足跡をたどり、同志社を感じる

同志社の校祖新島襄の足跡をたどることは、宿泊学習の
大きな目的の一つです。今回は群馬県にある新島家旧宅、
有田屋、そして新島学園中学校・高等学校を訪問しました。
群馬県安中は、新島襄先生が米国からの帰国時、ご両親

のお住まいの地であり、帰国
後しばらくこの地に留まられ
た場所です。また醤油蔵元で
ある有田屋様は、同志社と縁
の深い湯浅家が創業、経営さ
れています。子どもたちは旧
宅をはじめ有田屋の見学を通
じて校祖新島襄先生を感じて



新島学園（UOIの発表）



有田屋



いました。

新島学園中学校・高等
学校では、私たちのため
に歓迎会を開いてくださ
いました。生徒会による
学校紹介や聖歌隊による
合唱、ハンドベルの演奏、新
島学園に関するクイズなど、
生徒が趣向を凝らして歓迎し
てくださいました。DIAか
らはUOIのサマティブ・ア
セスメント（総括的評価）課
題のプレゼン発表や校歌とカ
レッジ・ソングの斉唱、スポ
ーツデー（運動会）で披露し
たハカで応えました。
あつという間の二泊三日の
宿泊学習でしたが、児童にと
ってとても実りのある機会と
なりました。今後の学習活動
に生かしていくことと思いま
す。

150周年記念スポーツフェスティバルー

小学校

 教諭
 小野おの
 裕子ひろこ

2006年に1年生D・H・Lの3クラス、2・3年生D・Hの2クラスの3学年7クラスで同志社小学校は開校しました。1年目のスポーツフェスティバルは、2・3

年はクラスを10人ずつ、DAVIS号・HARDY号・LEARNED号にわかれて競いました。クラスが3号にわかれるので何かクラスや学年が1つになれないかと考えて実施したのが「マスゲーム」です。マスゲームとは「大勢でする演技」という意味があります。2006年から2019年までスポーツフェスティバルでは毎年マスゲームに取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、途絶えてしまいました。今回の第一场「応援歌 若草萌えて」は20年前の再現で、同志社応援団チアリーダー部の実際の演舞の振り付けを一部取り入れて実施しました。

2011年3月11日に「東日本大震災」がおり、その

後、2013年に被災地を応援したいとの思いから会津若松出身の新島八重を主人公としたNHK大河ドラマ「八重の桜」が放映されました。

第二場「八重の桜」で使用した曲目は、2014年度マスゲーム、PRAY FOR JAPANより「故郷（ふるさと）」、2013年度マスゲーム 組曲「八重の桜」より「八重の桜メインテーマ・輝かしい未来へのエール」を使用しました。NHK大河ドラマ「八重の桜」の毎回の冒頭の「八重の桜メインテーマ」の曲が流れる中で、新島八重役の綾瀬はるかさんが八重の故郷である福島県の大勢の小学生と、大草原で、和傘を持って、笑顔で振り返るシーン。2013年度のマスゲームに取り入れ演舞しました。今回も最後のフィナーレに再現しました。

新島 裏はこれからの時代を担う若者を育てる学校をつくるために奔走し、数々の試練を乗り越え、1875年11

月29日「同志社英学校」を開校し、今年150周年をむかえました。

「同志社」・・・新しい日本をつくるという「同志志」を持つ者が集まる場所。

新しい時代を自らの手で切り開き、未来へ力強く進む様子をイメージした「輝かしい未来へのエール」の曲にのせて、150周年記念の「150」という数字と新島 襄に深い関わりのあった「DAVIS HARDY LEARNED」の頭文字をクラスの1人1人が協力して浮かび上がらせた。

全校が1つとなって、何かを表現し、創り上げるマスゲーム、きしくも、ちょうど150周年の節目に集った1年生から6年生の子どもたちは何を想い、演技をしたのでしょうか・・・。

「世界へ、未来へ吹く、あたらしい自由の風になろう。
新島の祈りとともに・・・
地の塩、世の光と
なって・・・」



自然とともにある生活

幼稚園

四季折々の自然に囲まれた幼稚園

本園は、園庭にイチヨウ、サクラ、クスノキ、ヒメリンゴ、ドングリ等の木々があり、初夏には藤棚のフジが見事に咲き乱れます。また、クローバーやヘビイチゴ、ツユクサ等の草花も豊富で、ダンゴムシやバッタ、カマキリなどの虫達にもたくさん出会うことができます。ちょうど今はイチヨウの木々が黄金に色づき、風が吹くとイチヨウの葉がハラハラと落ち、地面は絨毯のように敷き詰められます。掃除は大変ですが、「きれいだなあ。」と心が満たされます。また、本園の目の前には京都御苑があり、子ども達がよく出かけます。幼稚園よりはるかにスケールの大きい木々が立ち並び、その中でかけっこをしたり、弁当を食べたり、時にはキノコを見つけては「毒キノコ発見！」などと大騒ぎになったりと、ワクワクが止まりません。

幼児教育における「自然」の位置づけ

幼児教育では、小学校のように国語・算数・理科・社会といった教科はありませんが、幼稚園教育要領では5つの「領域」が設定されています。5領域と言いますが、これは子どもの健やかな成長を促すための視点で、①健康、②人間関係、③環境、④言葉、⑤表現があります。



本園の園庭ではイチヨウが色づき、子ども達からは歓声が上がる

園長 矢田 貴美代 やた きみよ



「自然」は、③環境の領域に位置付けられ、次のとおりに記載されています。

（ねらい）身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。

（活動内容）自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議などに気づく。

このことから、私たちは、保育の中で、子どもと自然とのかわりは非常に大切にしています。そもそも自然物は既製品とは違い、色や形、感触や香りが一つ一つ異なり、異なるがゆえに不思議で面白く、学ぶことがたくさんあります。幼稚園の園庭には、

もはや遊具はあまり必要ではありません。木々や草花があるだけで、子ども達は豊かな活動ができるのです。

今、本園の園庭はイチヨウの絨毯が敷き詰められています。一人一人の子ともイチヨウとの関わり方は様々です。ご馳走作り、花



小さな熊手を買って置いておくといちヨウの葉集めが始まった。
熊手は使っているうちにその特性がわかってきたようで、扱いがうまくなる

束、葉を合わせて蝶々に見立てる、ひたすらイチヨウの葉を集めて箱に入れる、どれも楽しく、どの子どももイチヨウの葉を大切に扱います。私たち教師は、今後、一人一人の子どもの感じ方や考え方、表現の仕方を十分に受け止め、自然に対する畏敬の念、親しみ、愛情を育成するとともに、科学的な見方や考え方の芽生えを大切に保育を展開していきたいと思っています。



「イチョウの葉っぱで何か作れそうだな。」

「ちょうの出来上がり！」



「はっぱのお風呂にしようよ」



「はっぱを集めて集めて！」



「葉を集めると花束ができたよ」



「私たちはイチョウのご飯やさんです！」

同志社の 一貫教育

hitohito-Li

同志社一貫教育探求センター

前所長 大久保 雅史
おおくぼ まさし

課外活動における新たな取組

◎同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー

同志社一貫教育探求センターでは、「未来の尖った科学技術者を創生する」ことを目的として、国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）が公募した令和7年度次世代科学技術チャレンジプログラムに、「同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミー」創造の丘から世界へ」と題して申請を行い、6月に採択されました。

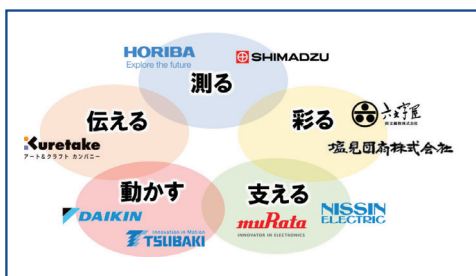


本プログラムの1年目では、毎年40名余りの小学5・6年生および中学1・2年生を募集し、大学京田辺キャンパスにある学部教員の指導のもと、京都および近隣地域の企業・公的機関との連携により、創造性豊かな科学技術人材の育成を行っています。2年目には、その中から十数名の児

童・生徒が、自身の興味・関心に基づく研究テーマを設定し、京田辺キャンパスの研究室や企業の研究室で研究活動を行う予定です。

2025年度は9月に大学京田辺キャンパスへ通学可能な児童・生徒を募集したところ、公立・私立の小中学校に在籍している計47名の応募がありました。

2025年10月11日（土）、同志社ローム記念館劇場空間にて開校式を開催し、その後に全体説明会を実施しました。応募者のうち45名が参加し、法人内からは、小学校3名、国際学院初等部3名、中学校3名、香里中学校5名、女子中学校2名、国際中学校9名の計25名が参加しました。



開校式では、プロジェクトリーダーである松川真美教授（理工学部）による「同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミーのめざすもの」と題した講演が行われ、続いて反田任コディネーターよりプログラム内容の説明がありました。さらに、10月25日（土）には全体セミナーと学生メンターとの顔合わせを行い、11月8日（土）には「測る」「彩る」「支える」「動かす」の5分野に分かれて、

訪問企業ごとに大学（院）生メンターとともに課題に取り組みました。

プログラム後半は、受講生が選択した分野に応じて、連携企業の見学や企業エンジニアによる実験会にそれぞれ参加していました。最終的には、大学（院）生メンターの指導のもと研究課題をまとめ、3月に成果発表会を実施いたしました。

本プログラムは、今後も新たな児童・生徒を募集いたします。引き続き、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

◎同志社宇宙科学セミナー（法人内中高生対象）

2025年7月26日（土）、京都市山科区にある「京都大学大学院理学研究科附属天文台 花山天文台」において、「同志社宇宙科学セミナー」を実施しました。今回は初回開催ということもあり、香里中・高天文部の生徒を中心に13名が参加しました。



当日は、元花山天文台長である柴田一成氏（元大学特別客員教授）による講演を聴講した後、太陽のプロミネンス（紅炎）をリアルタイムで観望しました。香里中・高の多田教諭（理科・天文部顧問）からは、「120分を超え

るプログラムでしたが、非常に充実した内容で見どころも多く、あっという間に時間が過ぎた印象でした。参加者たちも随所で驚きや感嘆の反応を見せており、非常に満足度の高いプログラムでした。」と感想が寄せられました。

◎同志社航空事業体験ツアー（法人内高校生対象）

本プログラムは二つのフェーズで実施されました。まず、2025年7月22日（火）、大学今出川キャンパス・明徳館にて、株式会社ANA総合研究所 主席研究員の山口智啓（やまぐちとしひろ）氏を講師に迎え、「グローバル時代のエアライン」と題した講演会を開催しました。法人内高校からは71名が参加し、全員が熱心に耳を傾け、予定していた質疑応答の時間を大幅に超える活発な意見交換が行われました。後日、体験ツアーを希望する受講者に対して講演に関するレポートの提出を求め、その内容をもとに聴講者の中から22名を選抜し、9月7日（日）に東京にあるANAグループの訓練施設および格納庫（整備場）の見学会を実施しました。

訓練施設では、パイロット訓練用のフルフライト・シミュレーターや、客室乗務員訓練用の機体モックアップなどを見学し、ここでも多くの質問が飛び交いました。午後には整備場へ移動し、整備業務の説明や展示施設の見学の後、格納庫の見学を行いました。

格納庫には、当日の朝に伊丹空港から羽田空港まで搭乗

したB787の同型機をはじめ、A321neo、B737などの機体が並び、参加者たちは整備士出身の社員による説明に熱心に耳を傾けながら写真を撮っていました。

格納庫見学後は、客室乗務員出身の社員による「ANAのおもてなし」に関する講義を受講し、見学ツアーは終了しました。

参加者からは、「山口氏の講義では、ANAの経営方針や航空業界での立ち位置について知ることができ、有意義だった」、「人や荷物を運ぶことが文化をつなぐ」という言葉に感動した」、「航空業界で働く方々の生の声を聞き、日常の『当たり前』を守るための努力の大きさを実感した。見学後は、航空事業への信頼と憧れが一層深まった」といった感想が寄せられました。

本体験ツアーを通して、航空機にかかわる同志社校友であるキャプテン、客室乗務員、整備士の多様な話を伺えたことは、参加者にとって大変貴重な経験となりました。また、伊丹から羽田への往路、羽田から伊丹への復路で飛行機に搭乗して同じサービスを受けたにもかかわらず、参加者は復路において往路とは異なる視点や感想を持ったよう



です。

◎所長退任のあいさつ

同志社一貫教育探求センターの前身である千田二郎名誉教授（理工学部）より、2020年に所長職を引き継ぎました。その後の5年間で、同志社一貫教育探求センターの充実と発展に邁進してまいりました。教育面では、法人内高校生への大学講義の開放、英語大会、同志社ジュニア・クリエイティブ科学アカデミーの実施に取り組み、スポーツ面では、ゴルフアカデミーやスポーツアカデミーの企画・運営、さらには教職員合同研修など、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」の精神を育むための活動を展開してきました。しかしながら、これらの取り組みは部分的・個別的な位置づけにとどまり、プログラム間の横のつながりが十分ではないことを課題として感じております。根本的には、まだ「一貫教育」の理念を十分に体现する段階には至っていないと認識しております。本年度より新たな所長のもとで、単なるプログラムの羅列ではなく、互いに有機的に結びつく一貫教育体系へと発展していくことを期待しております。最後になりましたが、この5年間で、自由な活動を温かく見守ってくださいました八田英二総長・理事長に深く感謝申し上げます。また、常務理事および諸学校の校長先生をはじめご協力いただいた先生方、さらに法人内の職員の皆さまにも、心より御礼申し上げます。

2026 年度同志社創立 151 周年記念リユニオンについて

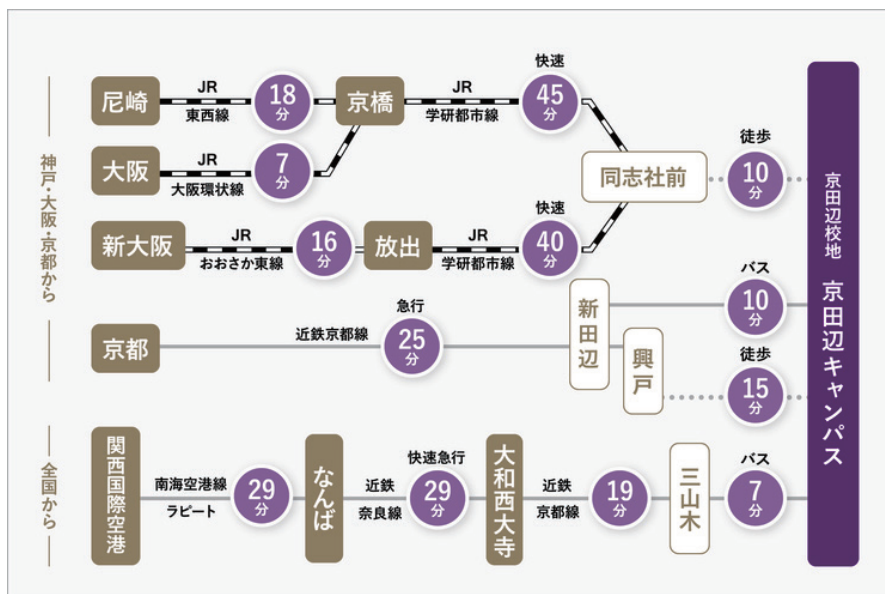
これまで、学校法人同志社リユニオンは、1935年度に第1回を開催して以来、学校法人同志社、同志社校友会、同志社同窓会の共催行事として、毎年11月に開催してまいりました。

その後、2000年度に同志社大学が卒業生を対象としたホームカミングデーを開始したことを契機に、参加者の利便性に鑑み、2003年度からはリユニオンも同志社大学ホームカミングデーに併せて同日に開催しております。

なお、2025年度は、11月29日に同志社創立150周年記念式が開催されたこともあり、リユニオンを休止とし、大学ホームカミングデーのみが開催されました。

2026年度については、大学及び女子大学の京田辺キャンパスの開校40周年を記念し、リユニオンを2026年11月1日（日）に大学京田辺キャンパスにおいて開催する予定です。当日は、大学ホームカミングデー及び大学クローバー祭も同時に開催しておりますので、卒業生の皆様におかれましては、是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

■大学京田辺キャンパス アクセス



ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

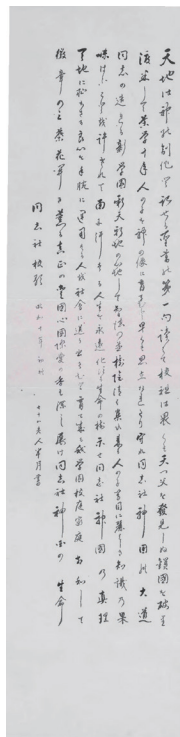
ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

第38回企画展 同志社グリークラブ創立120周年記念 「ハーモニーと共にー同志社の150年ー」

期 間：2026年4月1日（水）～5月31日（日）
場 所：2階 企画展示室
共 催：同志社グリークラブOB会・同志社グリークラブ・
大学社史資料センター

同志社は常に音楽と共にありました。創設期から礼拝や式典で讃美歌を教職員・生徒・学生が共に歌うことを通じて1つになる機会が数多くありました。1908年頃にDoshisha College Songが誕生すると、学校、年代を問わず愛唱され、同志社への帰属意識を高める存在となり、現在まで歌い継がれてきました。また、創立60周年、80周年、90周年、100周年、150周年には、新しく同志社を代表・象徴する歌が作詞作曲されました。同志社において新しい楽曲の誕生は、歴史の記念碑であり、次世代へのメッセージであり、新しい求心力の創造です。本展では所蔵資料で同志社の音楽史の編纂を試みます。

なお、本展の着想は、同志社グリークラブOB会が、資料約750タイトルを創立120周年を機に本学に寄贈すると決定されたことに拠ります。同志社の愛唱歌を歌い継いできた先駆けであるグリークラブ関連資料もあわせて紹介します。



湯浅半月
「同志校歌」1935年

- 【入 場 料】 無料
【開館時間】 10：00～17：00（最終入館 16：30まで）
【閉 館 日】 日曜日（企画展開催中を除く）・月曜日・祝日・4月30日～5月2日・夏期休暇中の一定期間・年末年始
【場 所】 大学 今出川キャンパス
※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。



お問合せ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室
HP：<https://harris.doshisha.ac.jp/>
E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp
TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を公家華族の高松保実が所有していました。新島襄は、この高松邸を賃借して仮校舎とし、1875（明治8）年11月29日に生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校の一部は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸の土地を入手して自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開しています。

【公開期間】 4～7月、9～11月、3月

①通常公開 毎週火・木曜日（祝日は閉館）

②特別公開 毎週土曜日

春の特別公開 2026年4月1日～5日

オープンキャンパス 8月1・2日〔仮〕

秋の特別公開 10月1～5日

ホームカミングデー 11月1日

創立記念日 11月29日

大学卒業式 2027年3月20～22日

※公開日の詳細はHPをご覧ください。

https://archives.doshisha.ac.jp/archives/old_mansion/old_mansion.html

【公開時間】 10：00～16：00（入館受付は15：30まで）

【見学対象】 ①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。

②特別公開

旧邸周囲および建物内部（母屋1階と付属屋）に入場できます。

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入 場 料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関をご利用ください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10：00～16：30）。※日・月・祝日は閉室



お問合せ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室

HP： <https://harris.doshisha.ac.jp/>

E-mail： n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736



同志社女子大学史料センター 第29回企画展 同志社女子大学図書館のこれまでとこれから

女子大学今出川図書館は、1977年にわが国最初の地下式図書館として開館しました。そして50年を経た2026年度に、創立150周年を記念してリニューアル・オープンを迎えます。またそれに先立つ2018年には、京田辺図書館がラーニング・commonsと一体化した施設にリニューアルされました。こうした変化を踏まえ、今回の企画展では、私立の女子教育機関として1876年に設立された本学が、どのように蔵書をコレクションし図書館の設立に至ったか、改めてその歴史を振り返るとともに、デジタル技術の著しい発展に直面するなか、本学の図書館が今後どのような展開を志向すべきか問う機会にしたいと考えています。

期 間：2025年11月21日(金)～2026年7月31日(金)

時 間：10：00～16：00

閉室日：土・日・祝日

(ただし、4月29日、7月20日は
開室しております。)

場 所：女子大学史料センター

(今出川キャンパス
ジェームズ館1階展示室)

主 催：女子大学

同志社女子大学史料センター第29回企画展

同志社女子大学
図書館の
これまでと
これから

2025 11.21 FRI. 2026 7.31 FRI.

時間：10:00～16:00
休室日：土・日・祝日および2025年12月25日、12月29日～2026年1月2日
(ただし、2025年11月22日～24日、2026年4月29日、7月20日は開室しております。)

場所：同志社女子大学史料センター（今出川キャンパスジェームズ館1階展示室）

公開講演会 図書館とは何か？
同志社女子大学図書館が果たす役割

日時：2026年2月7日(土)14:00～15:00 会場：同志社女子大学今出川キャンパス
講師：村本美紀准教授（文学部学芸学メディア学専攻）

【参加費】無料 参加申し込みメールアドレスはFAで公開致しません。 ①氏名 ②所属(得意先、役職名、職階) ③電話番号 ④メールアドレス ⑤性別 ⑥年齢 ⑦学歴 ⑧学歴 ⑨学歴 ⑩学歴 ⑪学歴 ⑫学歴 ⑬学歴 ⑭学歴 ⑮学歴 ⑯学歴 ⑰学歴 ⑱学歴 ⑲学歴 ⑳学歴 ㉑学歴 ㉒学歴 ㉓学歴 ㉔学歴 ㉕学歴 ㉖学歴 ㉗学歴 ㉘学歴 ㉙学歴 ㉚学歴 ㉛学歴 ㉜学歴 ㉝学歴 ㉞学歴 ㉟学歴 ㊱学歴 ㊲学歴 ㊳学歴 ㊴学歴 ㊵学歴 ㊶学歴 ㊷学歴 ㊸学歴 ㊹学歴 ㊺学歴 ㊻学歴 ㊼学歴 ㊽学歴 ㊾学歴 ㊿学歴

主催：同志社女子大学

お問い合わせ：女子大学史料センター

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201

E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

同志社校友会からのお知らせ



1885年「アルム二会」として発足したのが、同志社校友会の始まりで、140年の間に約38万人の会員が存在するまでになりました。活動の目的は、卒業生の親睦と同志社の発展に寄与することです。

コロナ禍においてはアルバイトができず経済的に困窮している学生の食生活サポートを行いました。

2023年度、コロナ前の状態に戻りつつあったため、食支援については、経済支援から栄養バランスを考えた支援へと切り替え、大学内の食堂で補食として小鉢の提供をしました。2024年度からは、2015年以降実施していた100円朝食を再開させ、朝食摂取を通じて、規則正しい学生生活を送ってもらえるよう支援をしています。

今後も学生に寄り添った支援を実施していく予定です。

活動の概要

①卒業生と繋がる同志社校友会

2025年12月現在、国内に48の支部、海外に36の支部が存在しています。現地の校友会が卒業生のみならず学生へのサポートも行っています。

連絡先は、二次元コードまたは、同志社校友会 で検索してください。



②大学と繋がる同志社校友会

同志社大学が掲げる「同志社大学ビジョン」の推進など大学と連携した活動を行っています。

③学生を支える同志社校友会

「同志社校友会奨学金」、「同志社スポーツ奨学金」、海外留学生支援として「グローバル人材育成奨学金」など各種給付型の奨学金制度を通じて学生生活が充実するようサポートを行っています。

同志社校友会本部事務局

TEL 075-251-4393

E-mail info00@doshisha-alumni.org

同志社女子部と同志社同窓会



同志社同窓会
エンブレム

<同志社女子部の創立>

同志社は1875年同志社英学校の開校をもって誕生し、同志社女子部は1876年女子塾の開設を始まりとしています。翌年同志社女学校となり同志社英学校とともに同志社の歩みを進めてきました。

<エンブレムには>

1893年創設 Doshisha Alumnae Association (同志社同窓会) –同志社女子中高・同志社女子大学・同志社女子大学院とそれぞれの前身校–の同窓会です。中央は同志社同窓会のロゴマーク、その下のラテン語Sal Terrae Lux mundiは聖句の地の塩、世の光（マタイによる福音書6章14節より）です。

<同志社同窓会とは>

同志社同窓会は1893年に同志社女学校の同窓会として設立しました。それは1876年の女学校創立より17年後のことで、96名の母校愛あふれる卒業生と有志らによるものでした。制定された規約の第1条には「会員たるものは相互の交誼を密にし且同志社女学校の益を図るを目的とする」とあります。

同志社同窓会は女子大学、大学院、女子高校および中学、旧制女専、高女の卒業生・修了生を会員とする**同志社女子部全体の同窓会**です。

年間活動と行事・事業

春（5月）と秋（9月）の幹事会

7月 同志社同窓会総会（3年に1度は総会の前日に支部長会開催）

10月 バザー開催

11月 全同志社リユニオン（法人同志社、同志社大学、校友会と共催）において同窓会ルームとして催物開催

12月 ミス・デントン永眠記念墓前礼拝（相国寺 長得院の墓前での礼拝）

2月 新島襄生誕記念会（学校法人同志社、同志社校友会と共催）

3月 女子高、女子大学卒業生対象入会式

その他、奨学金贈呈や会報の発行、同窓会館の運営（紫苑会講習としてヨーガ、華道、茶道、料理教室を開講）、貸室、女子中高購買・食堂の運営

* ホームページ <https://www.dojo-doso.org>

* E-Mail dojodoso@juno.ocn.ne.jp

本号では「未来に歴史の記録を手渡す——『同志社百五十年史』の編纂を通じて——」と題した特集座談会の記事を掲載しています。「同志社百五十年史」の刊行は、同志社創立150周年記念事業の一つであり、2025年11月29日に「各学校と関連団体」が上梓されました。この編集には本当に多くの方々が携わっておられます。特集座談会の記事にもありますように、それぞれの学校と関連の団体の特性がよく現れるように、編集の方針にも工夫があります。組織の改編や校地の移転に伴って、資料の廃棄と散逸もあり、史料の収集にも苦勞がありました。特集座談会の記事も指摘していま

すように、どのような学校であろうと、その主人公は、そこで学ぶ園児、児童、生徒、学生であり、卒業生は、学校の至宝であります。「各学校と関連団体」は、同志社の学び舎に集う人々の生き生きとした声を拾い上げながら、これまで同志社を築き上げてきた人々の活力と熱い思いにも焦点を合わせようとしています。しかも、「各学校と関連団体」は、同志社の運営を支える事務の部門にも照準を定めており、各部署の業務の内容をうまく整理し、史料としての価値を高めています。このように、「各学校と関連団体」は、さまざまな人々と組織のいろいろな個性を描き出そうとしており、な

よりも多様性を重視する同志社の特質をよく表しています。「同志社百五十年史」は、同志社の発展を単純になぞって載せていくだけの記録ではありません。「同志社百五十年史」の狙いは、校祖新島襄がキリスト教の精神を基に創設した学園が各時代の波を受けながらも歩んできた道程を多角的な視点から紡ぎ出すところにあります。ほかの私立大学と同じように、同志社にも建学の精神があります。その意味で、「同志社百五十年史」は、同志社が新島襄の遺志をどのように求め、どのように具現化しようとしてきたのか、同志社が進んできた道のりの再構成であります。それだけではあり

ません。「未来に歴史の記録を手渡す」という表題が示しているように、「同志社百五十年史」は、それが編み上げている同志社の歴史から同志社の将来をどのように展望するのか、その眼差しの新たな構築でもあります。「同志社百五十年史」を通して、ひとりでも多くの人と同志社の歴史を語り合い続けたいと思います。ご多用の中、本号にご寄稿いただいた諸氏には、この場を借りまして篤くお礼を申し上げます。煩瑣な編集の作業にご尽力いただいた広報課の横山侑典氏にも深甚の感謝を申し述べたいと存じます。

(新)

●同志社広報委員会小委員会委員

○印委員長

○大学文学部教授	新三宅	茂之仁
大学神学部教授	山一	威紀
大学社会学部教授	望月	詩史
大学法学部教授	原橋	禎行
大学経済学部准教授	高田	広実
大学商学部教授	多星	英仁
大学政策学部教授	近藤	弘一
大学文化情報学部准教授	高柳	真司
大学理工学部教授	石井	好二郎
大学生命医科学部准教授	竹原	卓真
大学スポーツ健康科学部教授	内原	尚孝
大学心理学部教授	宮寄	克裕
大学グローバル・コミュニケーション学部教授	牛渡	克之
大学グローバル地域文化学部助教	金成	明柱
女子大学学芸学部教授	橋和	正和
女子大学現代社会学部助教	三橋	美和
女子大学薬学部教授	陰山	涼子
女子大学看護学部教授	米田	祐一
女子大学表象文化学部助教	鎌田	伸作
女子大学生活科学部准教授	池上	信行
中学校・高等学校事務長	磯田	浩行
香里中学校・高等学校事務長	貴志	久佳
女子中学校・高等学校事務長	川嶋	英利
国際中学校・高等学校事務長	堀岡	貴美代
小学校事務長	矢田	望
国際学院事務長	柳井	邦裕
幼稚園園長	朝田	裕一
法人事務部長	田中	伸夫
大学広報部長	中原	衣子
法人事務部校友同窓課長	川添	麻衣子
大学広報部広報課長		
女子大学広報部広報室広報課長		

※職名は同志社広報委員会小委員会発足時のものです。

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

・送料(ゆうメール着払い:1冊264円)のみのご負担で
ご購読いただけます。

・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。
・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学広報課

同志社時報 第161号

編集人 新 茂之

発行人 八田英二

発行 学校法人同志社

同志社大学広報課

電話 (075) 251-3120

印刷所 株式会社あおぞら印刷

2026年4月1日発行